

カンボジア王国
貧困プロフィール調査（アジア）

最終報告書

平成 22 年 8 月
（2010 年）

独立行政法人
国際協力機構（JICA）

委託先
OPMAC 株式会社

貧困指標

Region (*)	Country	Basic data					
		Year	Population, total (millions)	Population growth (annual %)	GDP, PPP (constant 2007 international \$) (billions)	GDP per capita, PPP (constant 2007 international \$)	GDP growth (annual %)
Ap	Cambodia	2007	14.3	1.6	26.0	1,802	6.2

(出所) United Nations Development Programme, "Human Development Report 2009" (2009)

(注) * AF: Africa, Ap: Asia and Pacific, CLA: Central and Latin America, ME: Middle-east and Europe

Poverty							Inequality	
Poverty incidence (%)			Poverty Gap Index at \$1.25	Poverty Gap Index (National)	Source	Survey year	Gini index	Year
National	Rural	Urban						
30.14	34.20	Phnom Penh: 0.83 Other Urban: 21.85	11.3*	7.22	Cambodia Socio-Economic Survey 2007	2007	43.1	2007

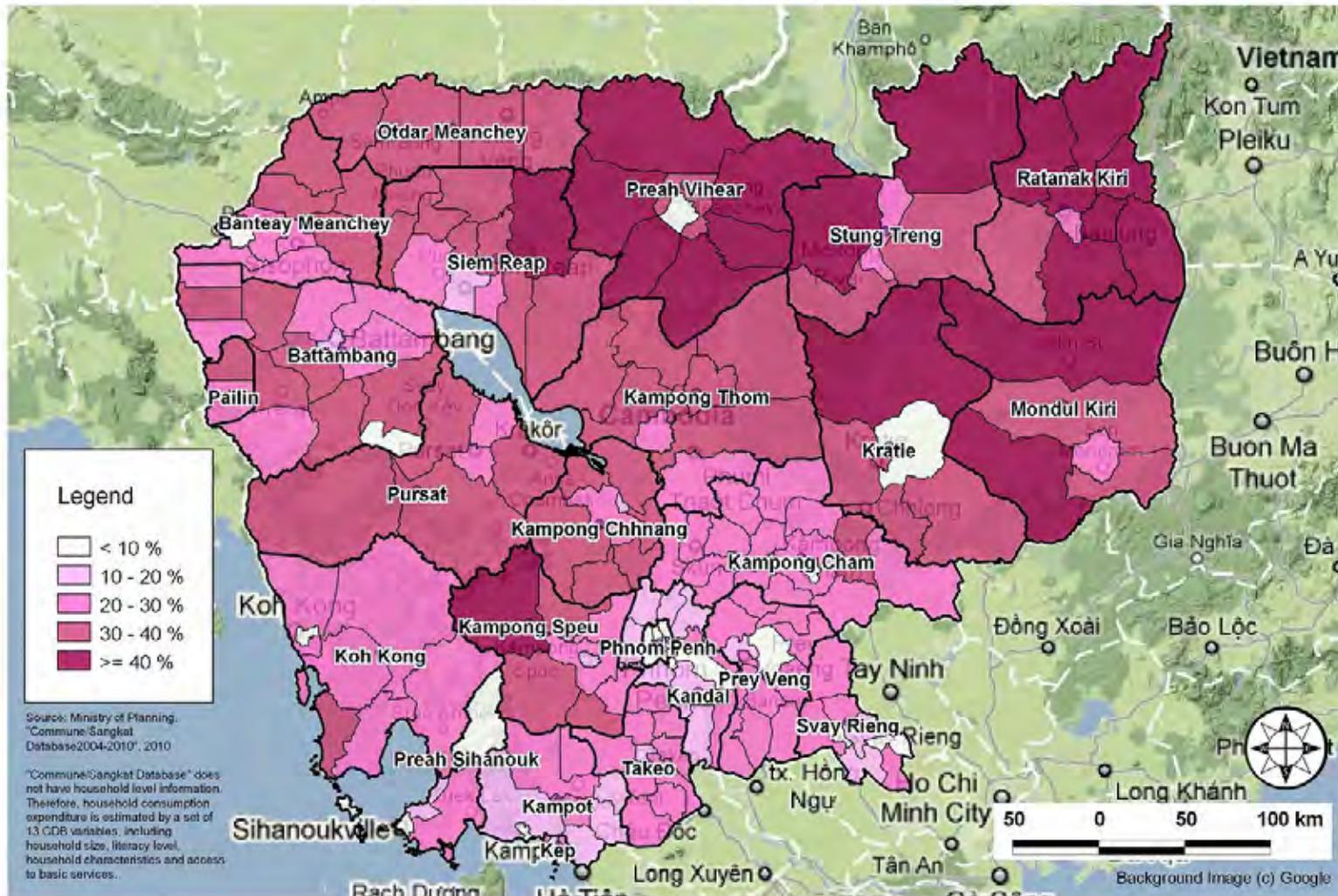
(出所) World Bank, "Poverty Profile and Trends in Cambodia" (2009)

(注) * 国際貧困ライン (1.25 ドル) による貧困ギャップは、2004年のデータによる。(World Bank, "World Development Indicator 2010" (2010))

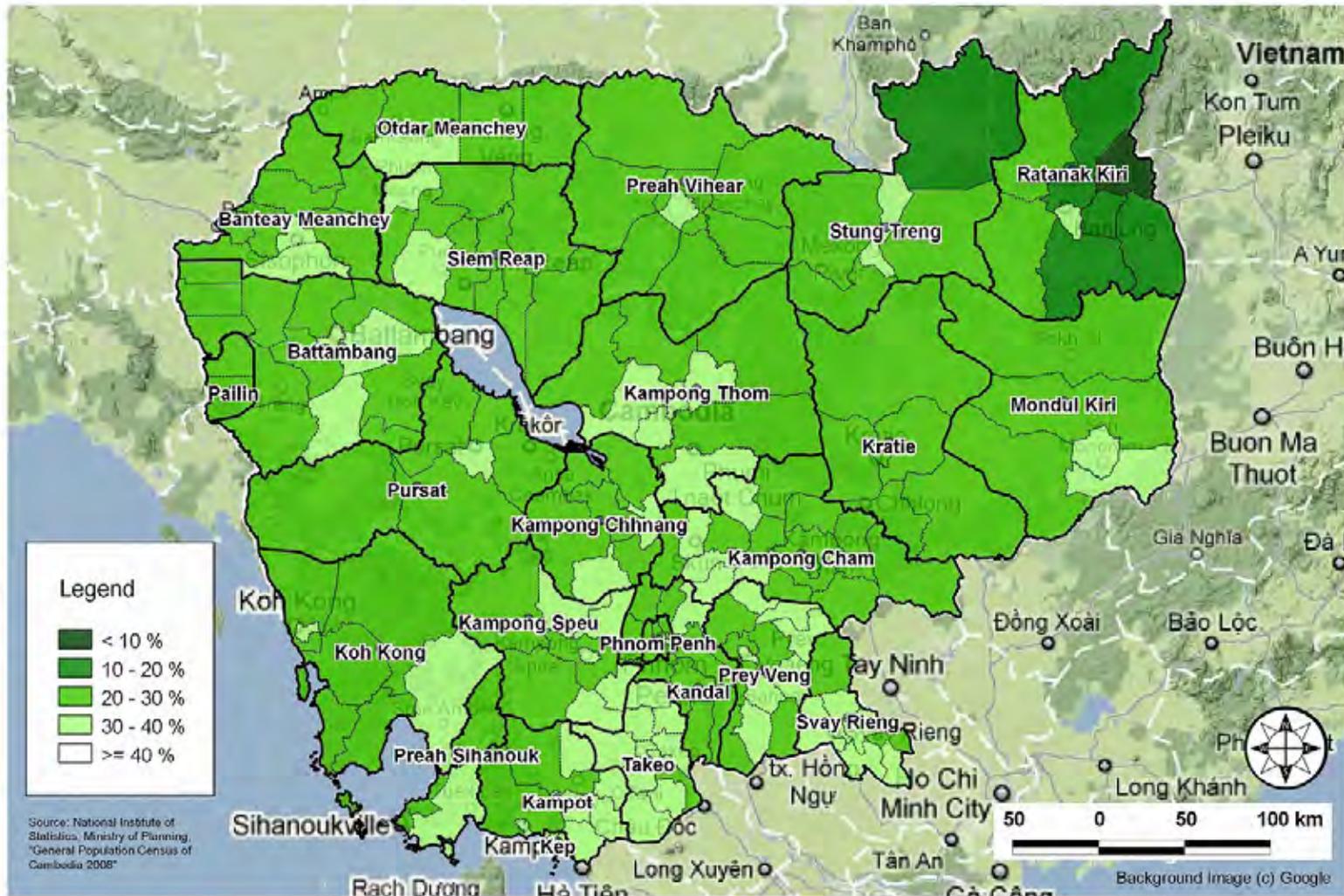
Remarks (Areas, populations & social groups considered to be vulnerable and Gini index disadvantageous)
特になし

社会指標マップ

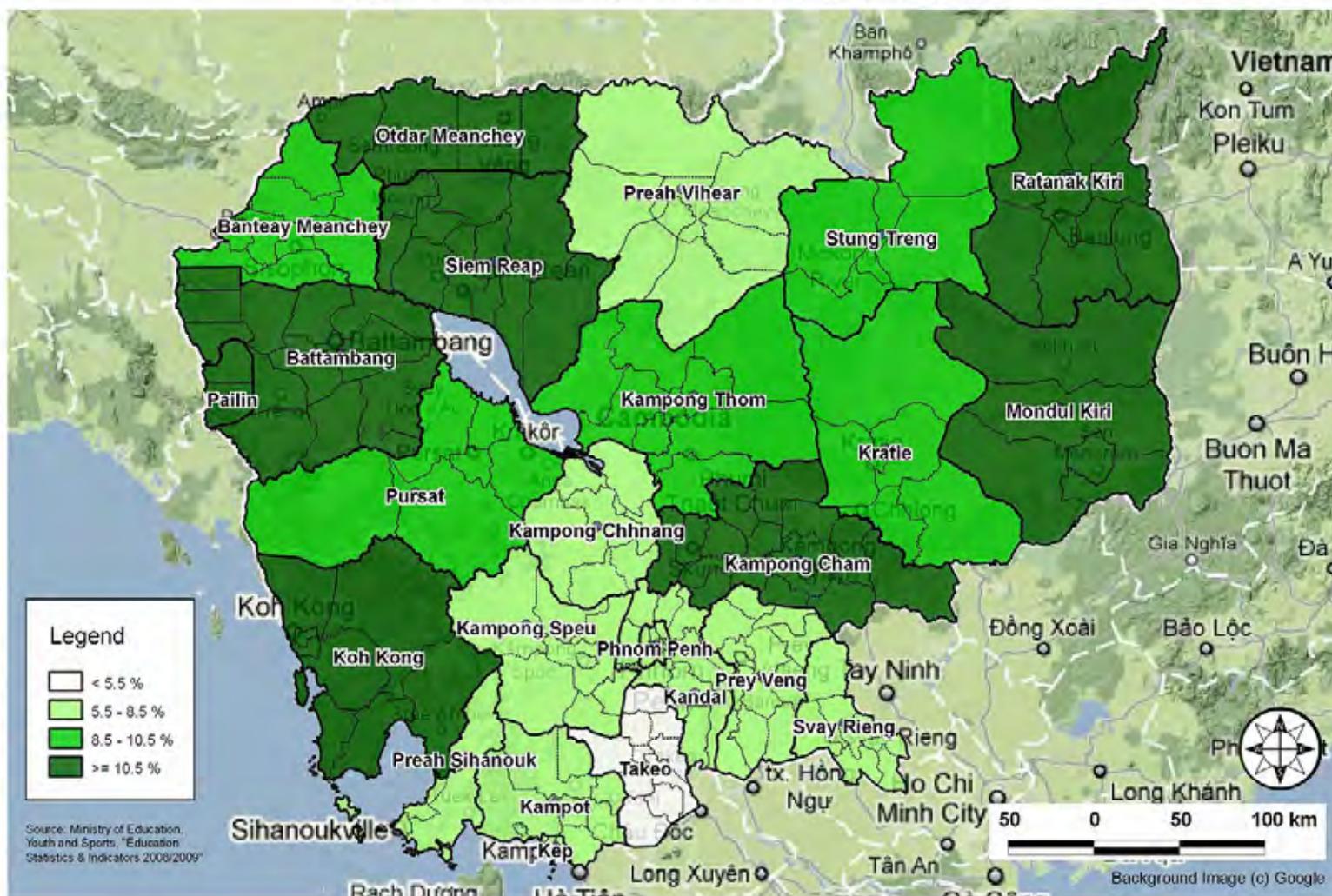
貧困世帯比率%(郡レベル)2010年
 Distribution of Household Poverty Rate (%) by District, 2010



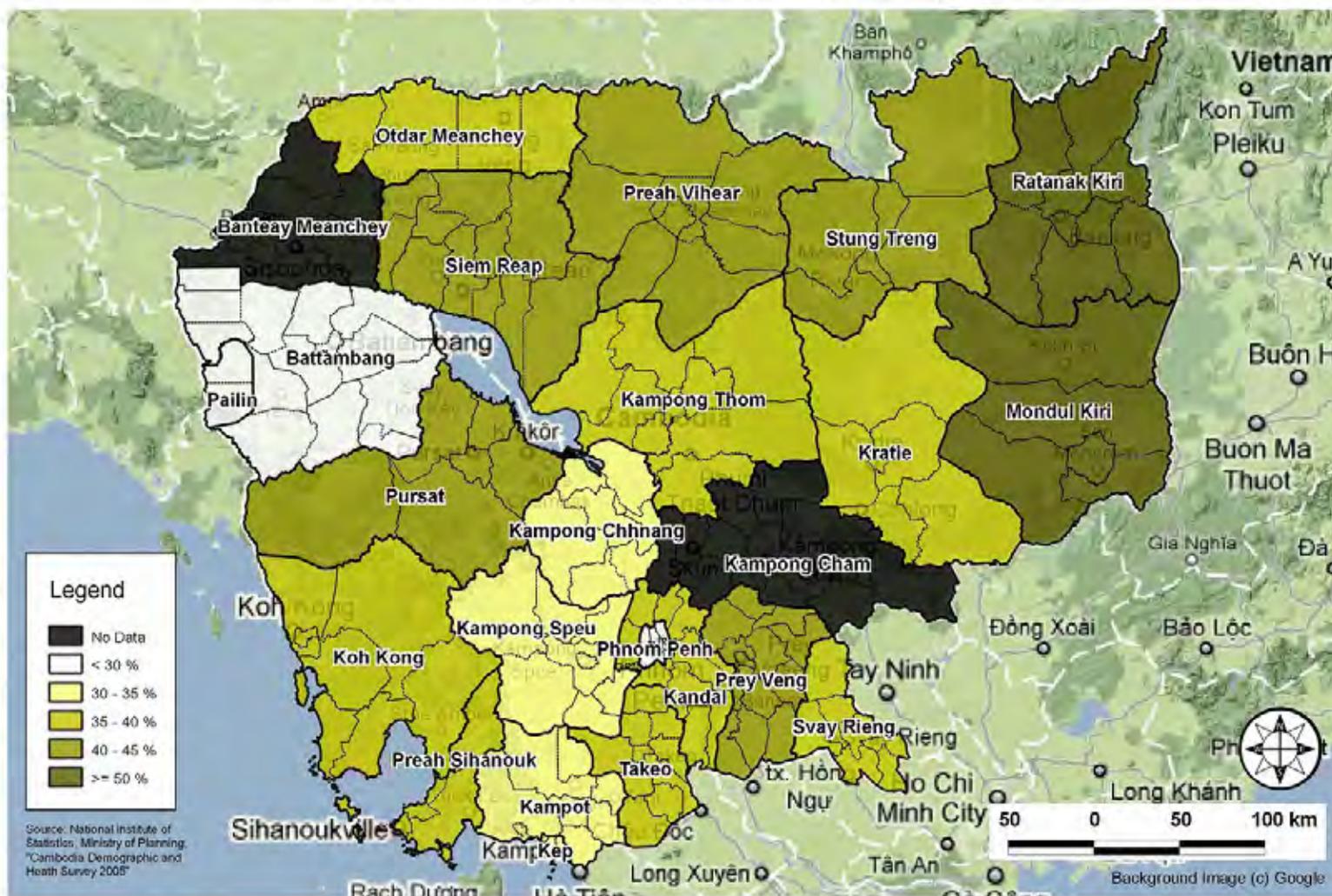
6歳以上人口の小学校出席率%(郡別)2008年
 % of Population Aged 6 and over Attending Primary School by District, 2008



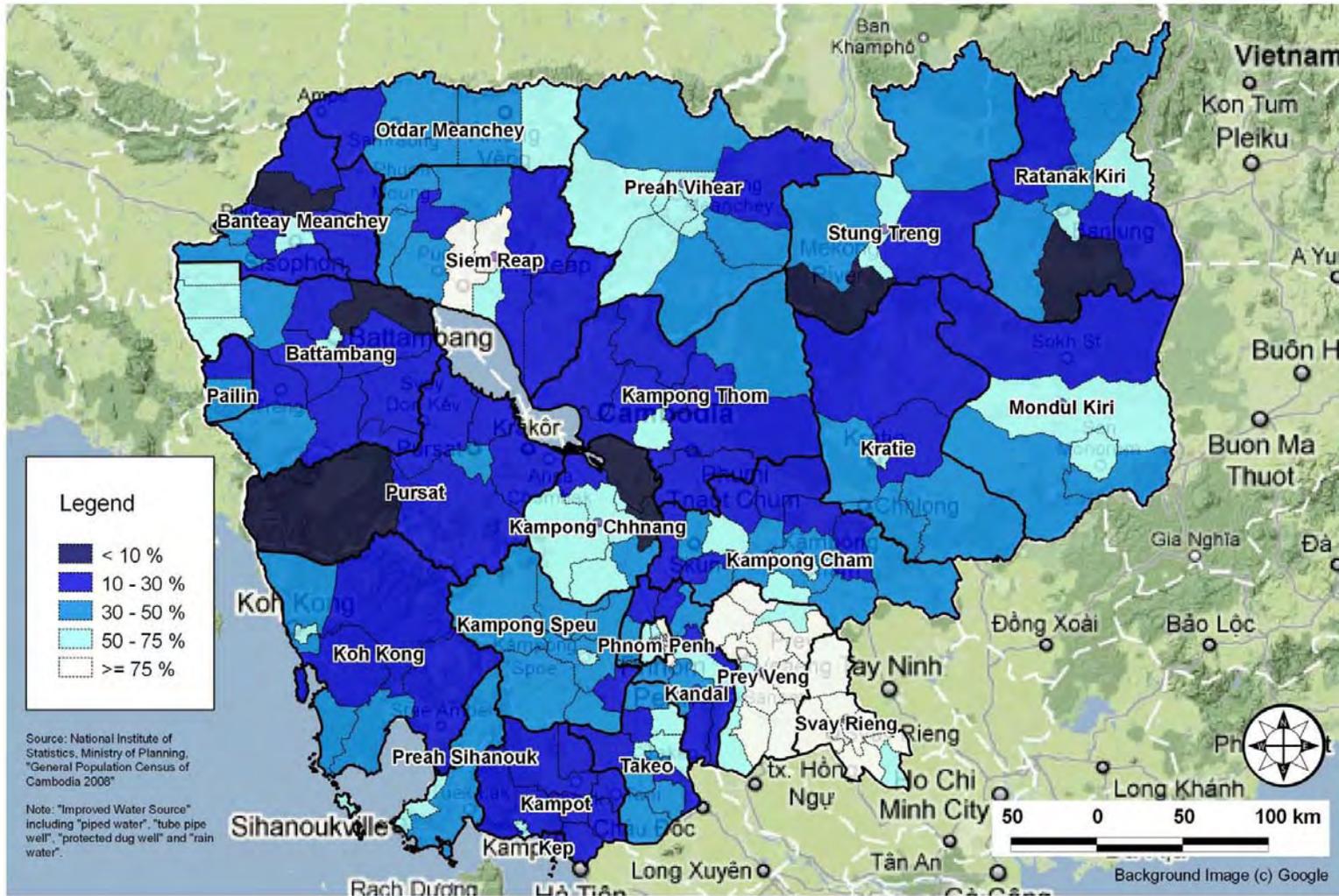
小学校(1-6年生)退学率%(州別) 2007/08年
 Dropout Rate (%) at Primary Level (Grade 1-6) by Province, 2007/08



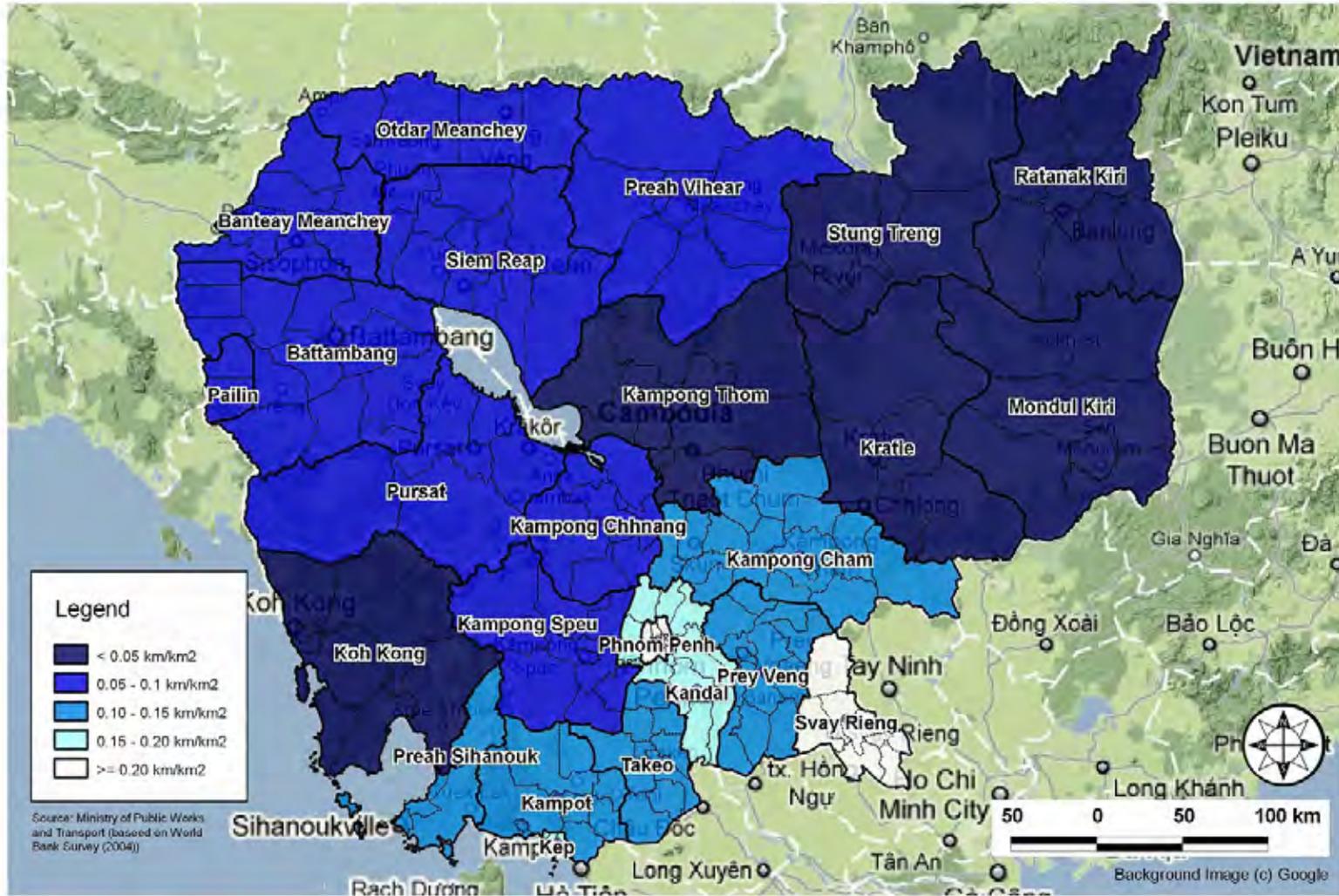
5歳未満の子どもの低体重児の割合%(州別) 2005年
 Prevalence of Malnutrition (Weight for Age), % of Children under 5 by Province, 2005



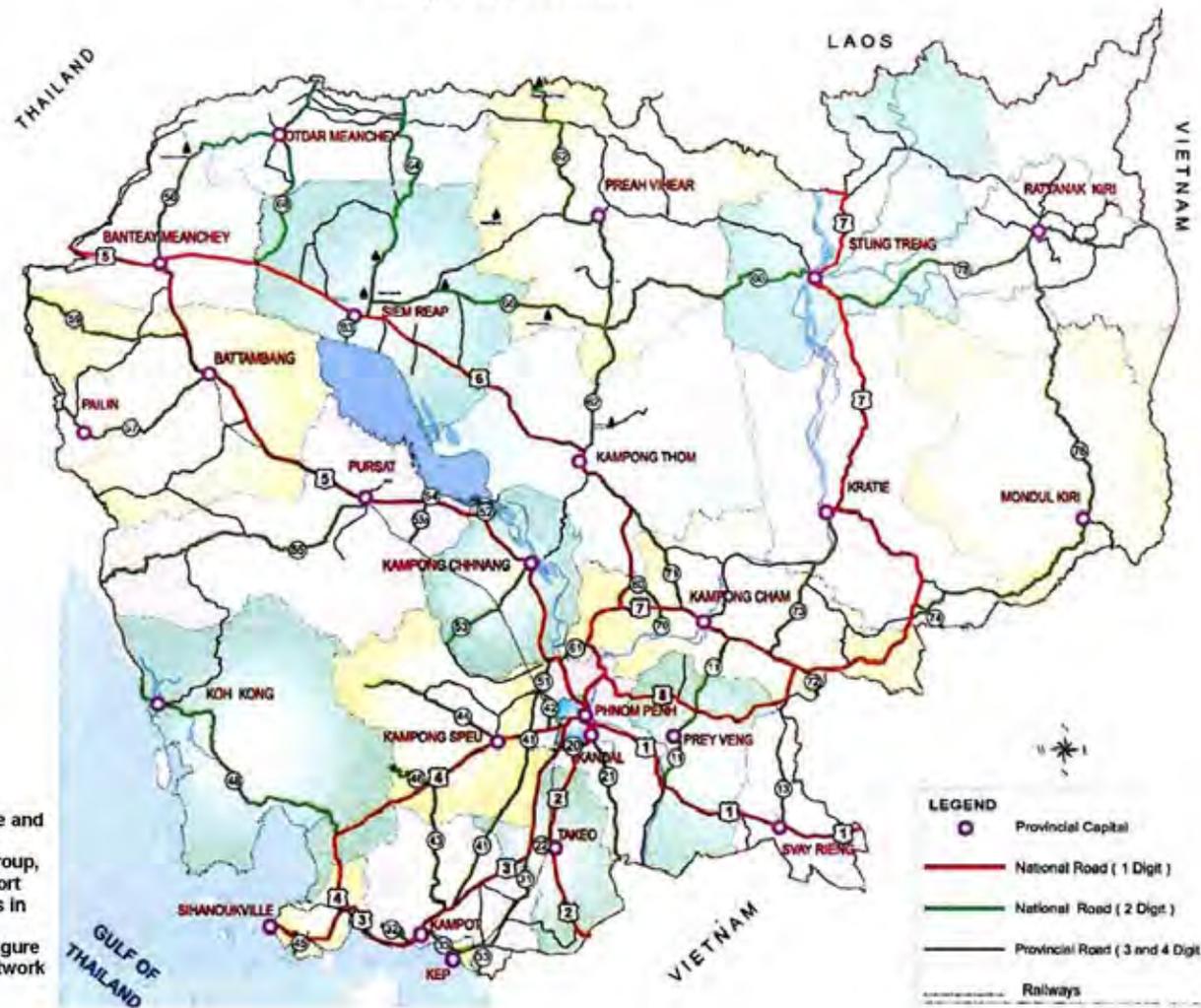
安全な水源へのアクセスのある世帯の割合(郡別)2008年
 % of Households with Access to Improved Water Source by District, 2008



道路密度(国道・州道)km/km²(州別) 2004年
 Road Density (National & Provincial Road), by Province (km/km²) 2004

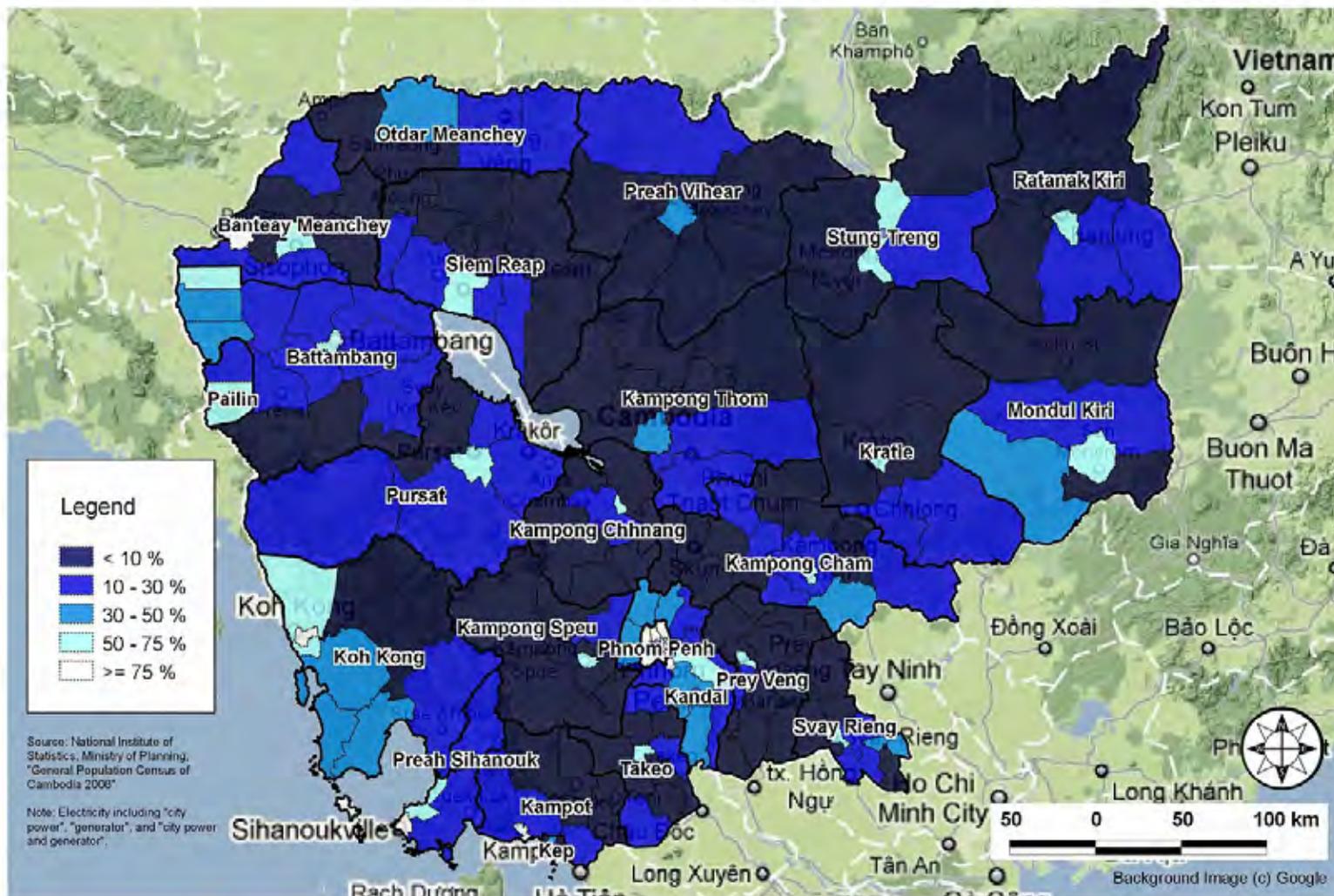


主要道路ネットワーク
Major Road Network



Source: Infrastructure and Regional Integration Technical Working Group, "Overview on Transport Infrastructure Sectors in the Kingdom of Cambodia", (2009), Figure 1-1 National Road Network in Cambodia

電気のある世帯の割合% (郡別) 2008年
 % of Household with Electricity by District, 2008



目 次

貧困指標	
全国地図	
社会指標マップ	
目次	
略語一覧	

第 1 章 所得貧困による分析.....	1
1.1 所得貧困の測定.....	1
1.1.1 貧困分析に使用するデータ.....	1
1.1.2 貧困ライン.....	1
1.2 貧困ラインに基づく貧困分析.....	2
1.2.1 国レベルおよび都市・農村部の貧困状況.....	2
1.2.2 地理的区分および県レベルの貧困状況.....	4
1.2.3 地形別貧困状況.....	6
1.2.4 社会・経済的特徴による貧困状況.....	7
1.3 不平等指数と経年変化.....	10
1.3.1 ローレンツ曲線とジニ係数.....	10
1.3.2 タイル指数.....	11
第 2 章 所得貧困以外の方法による分析.....	13
2.1 当該国政府による指定貧困地域・集団.....	13
2.1.1 コミュンデータベース (CDB).....	13
2.1.2 貧困世帯特定プログラム (ID Poor).....	19
2.2 脆弱性分析.....	19
2.3 人間開発指数および人間貧困指数.....	21
2.4 危険分析：地雷および不発弾 (UXO : Unexploded Ordnance).....	23
第 3 章 貧困に影響を与えている要因.....	27
3.1 国内要因.....	27
3.1.1 国家開発と公共支出.....	27
3.1.2 産業構造と雇用機会.....	29
3.1.3 土地配分および土地利用.....	32
3.1.4 民族.....	33
3.2 地政学的要因.....	33
3.2.1 地雷と ERW.....	33
3.2.2 自然災害.....	35
3.3 グローバル化における要因.....	36
3.3.1 出稼ぎ労働者および人身売買と海外送金.....	36

3.3.2	貿易自由化.....	37
3.3.3	アジア地域における外国投資および経済危機の影響.....	38
第 4 章	社会保障メカニズム.....	39
4.1	公的保障	39
4.1.1	社会保険プログラム.....	39
4.1.2	医療保険制度.....	40
4.1.3	その他の社会保障政策.....	41
4.2	準公的保障	41
4.2.1	マイクロファイナンス機関の規制と商業化.....	41
4.2.2	セクター別マイクロファイナンス.....	42
4.2.3	州別マイクロファイナンス動向.....	44
4.2.4	公的金融セクターによるマイクロファイナンス活動.....	45
4.2.5	マイクロ保険.....	47
4.3	インフォーマルな保障.....	47
第 5 章	貧困削減のモニタリング.....	49
5.1	CMDGs の達成状況	49
5.1.1	CMDG 1：貧困・飢餓の撲滅.....	49
5.1.2	CMDG 2：9 年間の基礎教育の普及の達成.....	49
5.1.3	CMDG 3：ジェンダーの平等の促進と女性の地位の向上.....	50
5.1.4	CMDG 4：乳幼児死亡率の削減.....	50
5.1.5	CMDG 5：妊産婦の健康改善.....	50
5.1.6	CMDG 6：HIV/AIDS、マラリアおよびその他疾病の蔓延防止	50
5.1.7	CMDG 7：環境の持続性の確保.....	50
5.1.8	CMDG 8：開発のためのグローバルパートナーシップ	51
5.1.9	CMDG9：地雷および不発弾除去と被害者救済.....	51
5.2	貧困モニタリング等のモニタリング方法.....	54
5.2.1	国家戦略開発計画（NSDP）と貧困削減.....	54
5.2.2	データ収集方法.....	54
5.2.3	データモニタリングの調和化.....	54

別添

別添 1：貧困・不平等指標の解説

別添 2：本文補足資料

添付資料

(1) 主要な政策文書一覧と入手先

(2) 主要な統計調査一覧

- (3) 主要なマイクロファイナンス機関一覧
- (4) 主要な NGO・市民社会組織一覧
- (5) 主要な現地調査研究機関とその活動
- (6) 参考文献

図表目次

【図】

図 1-1：州別貧困者比率（2004 年）	5
図 1-2：地域別貧困人口の分布（2004 年）	7
図 1-3：カンボジアのローレンツ曲線	10
図 1-4：タイル指数の分解（2004 年および 2007 年）	11
図 2-1：コミュニティデータベースによる貧困率（2004-2010）（郡レベル）	15
図 2-2：コミュニティデータベースによる貧困マップ（郡レベル）	16
図 2-3：コミュニティデータベースによる貧困マップ（コミュニケーションレベル）	18
図 2-4：カンボジアの包括的食料保障および人道的局面分類（2007 年）	20
図 2-5：カンボジアの食料保障（2008 年）	21
図 2-6：カンボジアの地雷および爆発戦争残余物の被害者（1992-2008）	24
図 2-7：地雷事故発生地（2008 年）	25
図 2-8：地雷および ERW による被害を最も受けている 21 郡の分布状況	26
図 3-1：セクター別政府支出（2003-2007）	27
図 3-2：コミューン別生活環境の分布	29
図 3-3：カンボジアにおける土地配分状況（2007 年）	32
図 3-4：カンボジアにおける地雷・ERW 汚染マップ（2008 年）	35
図 4-1：マイクロファイナンスの利用目的の変化	42
図 4-2：州別マイクロファイナンス貸付残高	44
図 4-3：州別マイクロファイナンス借入者数	44
図 4-4：ACLEDA Bank の州別貸付残高	46
図 4-5：ACLEDA Bank の州別借入者数	47
図 4-6：融資資金の提供者	48

【表】

表 1-1：絶対貧困ライン（1 人 1 日当たり）	2
表 1-2：地域別貧困者比率	3
表 1-3：地域別貧困ギャップおよび貧困重度	4
表 1-4：州別貧困指標（2004 年）	5
表 1-5：地域別貧困者比率（2004 年）	6
表 1-6：地形による貧困ギャップ比率および貧困重度比率	7
表 1-7：世帯主の職業による貧困者比率（2004 年）	8
表 1-8：土地所有による貧困者比率	9

表 1-9 : 村落の規模および全天候道路への距離による貧困者比率 (2004 年)	9
表 1-10 : 1 人当たり消費によるジニ係数	10
表 2-1 : 州別貧困率 (2004-2010)	14
表 2-2 : 貧困率の最も高い郡 (2009 年)	17
表 2-3 : カンボジアの HDI・住宅 HDI および HPI (2004 年)	22
表 2-4 : 地雷および ERW による被害を最も受けている 21 郡のリスト	25
表 3-1 : よりよい生活環境にある世帯の分布 (2008 年)	28
表 3-2 : 主要セクターによる成長への貢献度 (1994-2004 年)	30
表 3-3 : セクター別雇用シェア (2008 年)	31
表 3-4 : 村における地雷・ERW の社会経済インパクト (2002 年)	34
表 3-5 : カンボジアにおける地雷処理の達成状況 (1992-2008)	34
表 3-6 : 移住者の動向 (1998 および 2008 年)	36
表 5-1 : カンボジアの CMDG 達成状況	52
表 5-2 : CamInfo のデータベース構造	55

略語一覧

ADB	: Asian Development Bank	アジア開発銀行
APM	: Anti-personnel mine	対人地雷
ATM	: Anti-tank mine	対戦車地雷
CARD	: Council for Agriculture and Rural Development	農業農村開発委員会
CBHI	: Community Based Health Insurance	地域健康保険
CDB	: Commune Database	コミュニンデータベース
CDHS	: Cambodia Demographic and Health Surveys	カンボジア人口保健調査
CIDA	: Canadian International Development Agency	カナダ国際開発庁
CMAC	: Cambodian Mine Action Centre	カンボジア地雷処理センター
CMVIS	: Cambodia Mine UXO Victim Information System	カンボジア地雷・不発弾被害者情報システム
CMDGs	: Cambodia Millennium Development Goals	カンボジアミレニアム開発目標
CNIP	: Cambodia Nutrition Investment Plan	カンボジア栄養投資計画
CPI	: Consumer Price Index	消費者物価指数
CSES	: Cambodia Socio-Economic Survey	カンボジア社会経済調査
D&D	: Decentralization and Deconcentration	地方分権・分散化
EIC	: Economic Institute of Cambodia	カンボジア経済研究所
EMIS	: Education Management Information System	教育管理情報システム
ERW	: Explosive Remnants of Wars	戦争爆発残余物
FAO	: Food and Agriculture Organization of the United Nations	国際連合食糧農業機関
GIS	: Geographic Information System	地理情報システム
GTZ	: Deutsche Gesellschaft für Technische Zusammenarbit GmbH	ドイツ技術協力公社
HDI	: Human Development Index	人間開発指数
HEF	: Health Equity Fund	公平な健康基金
HIV/AIDS	: Human Immunodeficiency Virus / Acquired Immune Deficiency Syndrome	ヒト免疫不全ウイルス・後天性免疫不全症候群
HMIS	: Health Management Information System	健康管理情報システム
HPI	: Human Poverty Index	人間貧困指数
ID Poor	: Identification of Poor Households Programme	貧困世帯特定プログラム
IFAD	: International Fund for Agricultural Development	国際農業開発基金
JICA	: Japan International Cooperation Agency	国際協力機構
JMIs	: Joint Monitoring Indicators	合同モニタリング指標
L1S	: National Level 1 Survey	国家レベル1調査
MAFF	: Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries	農業森林漁業省
MDGs	: Millennium Development Goals	ミレニアム開発目標

MDI	: Microfinance Deposit-taking Institution	マイクロファイナンス預金受入機関
MEF	: Ministry of Economy and Finance	経済財政省
MFIs	: Microfinance Institutions	マイクロファイナンス機関
MOH	: Ministry of Health	保健省
MOL	: Ministry of Labor	労働省
MOSVY	: Ministry of Social Affairs, Veteran and Youth Rehabilitation	社会、退役軍人、青年回復省
MOP	: Ministry of Planning	計画省
NBC	: National Bank of Cambodia	カンボジア国家銀行
NCDD	: National Committee for Sub-National Democratic Development	地方民主化国家委員会
NGO	: Non Governmental Organization	非政府組織
NIS	: National Institute of Statistics	国家統計院
NPRS	: National Poverty Reduction Strategy	国家貧困削減戦略
NSDP	: National Strategic Development Plan	国家戦略的開発計画
NSSF	: National Social Security Fund	国家社会保障基金
NSSFC	: National Social Security Fund for Civil Servants	国家公務員社会保障基金
PRSP	: Poverty Reduction Strategy Paper	貧困削減戦略書
RTAVIS	: Road Traffic Accident and Victim Information System	交通事故・被害者情報システム
SESC	: Socio-Economic Survey of Cambodia	カンボジア社会経済調査
Sida	: Swedish International Development Agency	スウェーデン国際開発庁
TWG	: Technical Working Group	技術ワーキンググループ
UNDP	: United Nations Development Programme	国連開発計画
UNFPA	: United Nations Population Fund	国連人口基金
UNHCR	: United Nations High Commissioner for Refugees	国連難民高等弁務官事務所
UNICEF	: United Nations Children's Fund	国連児童基金
UNESCAP	: United Nations Economic and Social Commission for Asia and the Pacific	国連アジア太平洋社会経済委員会
UNTAC	: United Nations Transition Authority in Cambodia	国連カンボジア暫定機構
UXO	: Unexploded Ordnances	不発弾
VAT	: Value Added Tax	付加価値税
WB	: World Bank	世界銀行
WFP	: United Nations World Food Programme	国際連合世界食糧計画
WHO	: World Health Organization	世界保健機関

第1章 所得貧困による分析

1.1 所得貧困の測定

1.1.1 貧困分析に使用するデータ

カンボジアの貧困分析は、世帯の社会経済状況を示すサンプル調査である、「カンボジア社会経済調査（CSES : Cambodia Socio-Economic Surveys）」に基づいて行われている。世界銀行（WB : World Bank）の支援を受けた国家統計院（NIS : National Institute of Statistics）によって、CSES は過去 7 回実施されている。しかしながら、CSES のサンプル抽出枠および抽出地域に地理的な差異がある¹こと等から、既存の各 CSES のデータの経年比較を行うことは限界がある。

この他、カンボジアの社会経済状況を把握するための主要な情報源としては、「カンボジア国勢調査（the General Population Census of Cambodia）」がある。最新の国勢調査（以下、「2008 年国勢調査」）は、日本の国際協力機構（JICA : Japan International Cooperation Agency）を含むドナーの支援を受けて、2008 年に実施されている。「2008 年国勢調査」は、人口に関する信頼度の高いデータを提供しており、コミューン、郡、州と異なる行政レベルでの集計も可能である。

本調査では、消費に関する共通の質問票を基本的に使用し、比較分析可能な調査構造となっている CSES (1993/94) および CSES (2004) を中心に貧困分析のレビューを行う。なお、これらの 2 回の CSES による分析結果との単純な比較を行うことはできないものの、CSES (2007) の分析結果についても本調査では参照している。また、世帯レベルでの最近の社会経済状況については、「2008 年国勢調査」のデータについても参照する。

1.1.2 貧困ライン

カンボジア政府は、世帯の消費データに基づいて貧困者比率の推定を行っている。国家貧困削減戦略（NPRS : National Poverty Reduction Strategy）では、生存に必要な最低エネルギー所要量 2,100 キロカロリー²を満たす食料消費バスケットにより、食料貧困ラインを設定している。また、食料消費に加えて、非食料消費も考慮した、絶対貧困ライン³も定義された。最低支出レベルを算出するための食料バスケットは、CSES (1993/94) のデータに基づいている⁴。

¹ カンボジア社会経済調査（CSES : Cambodia Socio-Economic Surveys）の信頼度および比較可能性の詳細については、第 5 章を参照。

² 世界保健機関（WHO : World Health Organization）および国際連合食糧農業機関（FAO : Food and Agriculture Organization）による、途上国の標準最低エネルギー所要量は、2,000～2,400 キロカロリーである。標準エネルギー所要量は、国、年齢、民族によって調整される。

³ カンボジアの関連資料では、食料支出および非食料支出で構成される貧困ラインを「完全貧困ライン（complete poverty line）」あるいは「総合貧困ライン（overall poverty line）」としているが、混乱を避けるため、本報告書では、「絶対貧困ライン」という呼称を使用する。

⁴ カンボジアにおける最初の家計調査は、1993/94 年に実施されたカンボジア社会経済調査（SESC : Socio-Economic Survey of Cambodia）である（サンプル数：約 5,600 世帯）。初めて全国を網羅するサンプル出が行われた CSES (2004) では（対象：720 カ村 約 12,000 世帯）、世帯収入・支出に関する詳細な情報

絶対貧困ライン＝必要最低食料支出（食料貧困ライン）＋必要最低非食料支出

貧困状況について比較分析を行うためには、価格の経年変化や地域間格差を反映した貧困ラインの調整が必要である。2007年価格による貧困ラインは、プノンペンで1人1日当たり3,092リエル（0.76ドル）⁵、その他都市部で2,704リエル（0.66ドル）、農村部で2,367リエル（0.57ドル）である⁶。

表 1-1：絶対貧困ライン（1人1日当たり）

地域	1993/94			2004*			2007*		
	食料貧困 ライン (a)	非食料 支出 (b)	絶対貧困 ライン (c) = (a) + (b)	食料貧困 ライン (a)	非食料 支出 (b)	絶対貧困 ライン (c) = (a) + (b)	食料貧困 ライン (a)	非食料 支出 (b)	絶対貧困 ライン (c) = (a) + (b)
プノンペン	1,185	393	1,578	1,782	569	2,351	2,445	647	3,092
その他都市部	996	269	1,265	1,568	384	1,952	2,274	430	2,704
農村部	882	236	1,118	1,389	364	1,753	1,965	402	2,367

（出所）World Bank, “Poverty Profile and Trend in Cambodia. Phnom Penh” (2009).p.7, p.12

（注）* 年平均価格

しかしながら、政府当局や WB やスウェーデン国際開発庁（Sida : Swedish International Development Agency）を含むドナーの間では、1993/94年時点で貧困ラインが導入されて以降、生活・消費パターンが急激に変化している上、農村の消費者物価指数が2004年に導入されるなど、価格調整の変数にも変化が生じていることから、現行の貧困ラインが、現在のカンボジアの貧困の実態を反映するものであるか、否かについての議論が生じている。

1.2 貧困ラインに基づく貧困分析

1.2.1 国レベルおよび都市・農村部の貧困状況

サンプル数や調査方法の違いにより、異なる年に実施された CSES に基づいた貧困分析の比較を行うには制約がある。しかしながら、カンボジアの貧困のレベルがどの程度であるかについての議論はあるものの、CSES による貧困状況の推定値に基づいて、貧困の全体的な傾向をみることは可能である。

1993/94年から2007年までの間、カンボジアでは全体的に貧困削減が進展してきた。国

の収集を行うために、1ヶ月単位の日誌が導入されるなど、より多くのサンプル数で、より質の高い調査が行われた。CSES（2007）および（2008）では、小規模サンプル抽出による、より頻度の高い（1年1回）調査実施が図られ（対象：360村 約3,600世帯）、同時点で、プノンペンに加えて、5つの州都の価格データが利用できるようになっている。CSES（2009）は約12,000世帯を対象に実施済みであるが、NISによる同調査結果の分析終了時期は2010年9月から10月と見込まれている。なお、CSES（2008）の分析についても、2010年5月時点で未了となっている。

⁵ 参照為替レート（期中平均）：1ドル＝4,056.2リエル（2007年）（International Monetary Fund, “International Financial Statistics 2009”）

⁶ 世界銀行（WB : World Bank）は、CSES（2008）の結果に基づく貧困状況の分析を独自に実施している。同分析結果に拠ると、2008年時点の貧困ライン（暫定）は、プノンペン3,994リエル、その他都市部3,270リエル、農村部3,121リエルである（2010年4月現在）。

の絶対貧困ラインによる貧困者比率（以下、「貧困者比率」）⁷は、39%から 30%に減少した。首都プノンペンにおいては、絶対貧困ライン以下の人口は、2007年には1%未満に低下した。その他都市部においては、貧困者比率は 37%から 22%に改善している。また、農村の貧困者比率も 43%から 35%に削減された。

他方、食料貧困の削減は、2004年から2007年にかけては、19.7%から 18.0%と限定的である。プノンペンの食料貧困者比率は、0.1%と非常に低い水準である。他の都市部では、13~14%程度であり変化は見られない。農村における食料貧困ライン以下の人口の比率についても、約 20%程度で大きな変化はない。

表 1-2：地域別貧困者比率

地域	1993	1997	1999	2004	2007
貧困者比率					
貧困ライン					
プノンペン	11.4	11.1	9.7	4.60	0.83
その他都市部	36.6	29.9	24.73	24.73	21.85
農村部	43.1	40.1	40.1	39.18	34.70
カンボジア	39.0	36.1	35.9	34.68	30.14
食料貧困ライン					
プノンペン	-	-	-	2.55	0.11
その他都市部	-	-	-	14.15	12.73
農村部	-	-	-	22.23	20.78
カンボジア	-	-	-	19.68	17.98

(出所) World Bank. "Poverty Profile and Trend in Cambodia" (2009), p.28, Table 11

国全体では、貧困層の支出水準の貧困ラインからの乖離度（貧困の深度）を示す、貧困ギャップ比率は、6.6~9.2%の範囲で変動している。プノンペン以外のその他都市部および農村部では、同様の変動傾向を示しているが、貧困ギャップの水準は、農村部に比して都市部で低くなっている。他方、プノンペンの貧困ギャップは、1993年 3.1%から 2007年 0.08%と一貫して低下している。プノンペンの貧困層の平均的な消費レベルは、貧困ラインにほぼ達しており、比較的高い消費水準を確保していると考えられ、また、プノンペン以外のその他都市部の貧困者の消費者レベルは、貧困ラインから依然として乖離し、明らかな改善が認められていない。

貧困層間での支出分配状況に反応する二乗貧困ギャップ比率（貧困の重度。以下、貧困重度）も、貧困ギャップと同様の変化を示している。プノンペンでは、2007年時点で、貧困層間での不平等はほぼ解消されている。その他の都市部では、1993年時点においては農村部よりも貧困重度が高い水準であったが、2007年には 2%まで低下し、農村部の 2.9%を下回っている。国全体では、1993年 3.1%から、2.0~3.3%の範囲で変動した後、2007年 2.6%

⁷ 特に言及がない場合、本報告書では、「貧困者比率」および「貧困人口」は、「絶対貧困ライン」により計測された「絶対貧困者比率」および「絶対貧困人口」を指す。

に低下した。最貧層の消費レベルは、僅かながらも増加していることが考えられる。

表 1-3：地域別貧困ギャップおよび貧困重度

地域	1993	1997	1999	2004	2007
貧困ギャップ					
プノンペン	3.1	2.2	2.0	1.23	0.08
その他都市部	9.6	7.5	6.8	6.55	5.32
農村部	10.0	9.7	6.9	10.17	8.31
カンボジア	9.2	8.7	6.6	9.02	7.22
貧困重度					
プノンペン	1.2	0.6	0.6	0.49	0.01
その他都市部	3.6	2.7	2.6	2.48	2.01
農村部	3.3	3.4	2.1	3.76	2.95
カンボジア	3.1	3.1	2.0	3.34	2.58

(出所) World Bank. “Poverty Profile and Trend in Cambodia” (2009), p.28, Table 11

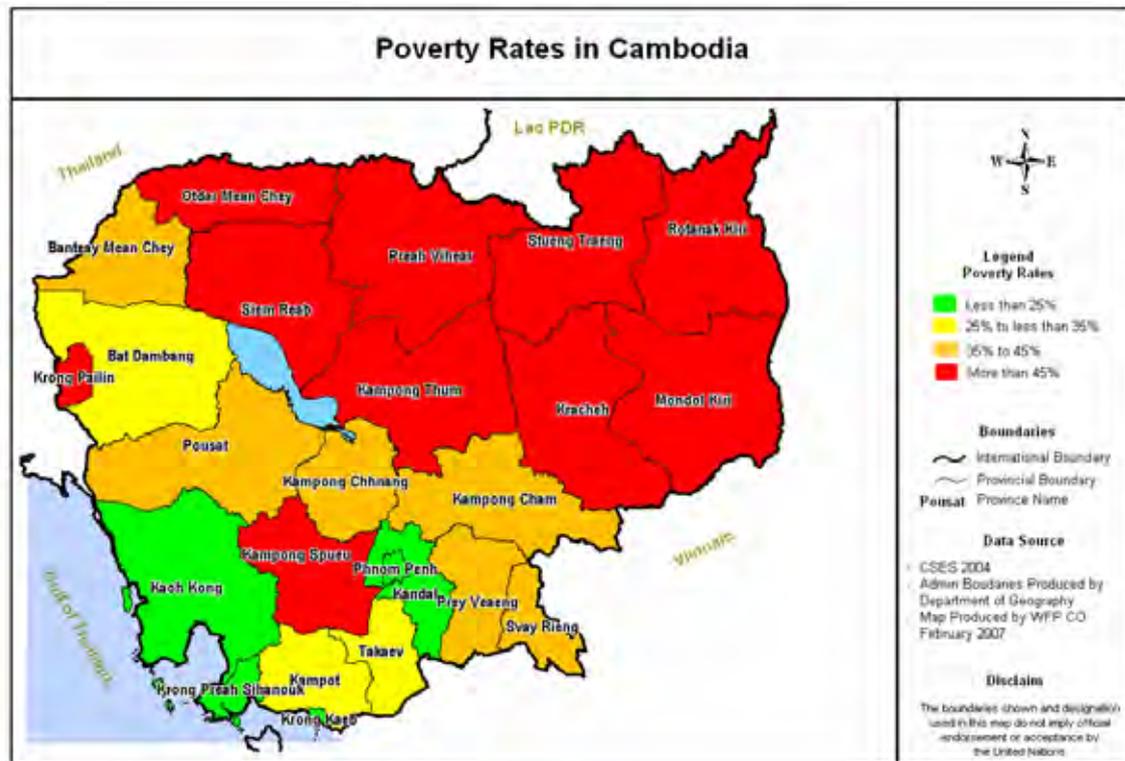
1.2.2 地理的区分および県レベルの貧困状況

CSES (2004) は大規模なサンプル数で行われたため、州レベルでのデータ集計が可能であり⁸、州別の貧困者比率の算出が行われている。州別の貧困者比率では、州間で大きな格差が見られる。

首都プノンペンでは、貧困者比率が最も低い。他方、Kampong Thom と Siem Reap (Tonle Sap 部) および Kampong Speu (高原／山岳部) では、貧困者比率は 50% を超えている。平野部では、Kandal および Takeo の 2 つの州で貧困者比率が 30% 以下と比較的低く、その他 3 つの州では 35% 以上となっている。Tonle Sap 部では、全ての州が国全体の貧困者比率を上回っており、高い水準にある。他方、海岸部の州は、30% 未満と低い水準である。高原／山岳部の州は、40% 以上と非常に高い貧困者比率である。

また、州によって、貧困ギャップおよび貧困重度に格差が見られる。前述の通り、プノンペンにおいては、貧困ギャップおよび貧困重度は極めて低い水準である。貧困者比率が 50% 以上と高い州においては、貧困ギャップおよび貧困重度ともに非常に高い水準であるが、貧困者比率が低い州においては、貧困ギャップおよび貧困重度は低い傾向がある。Tonle Sap 部の Siem Reap の貧困ギャップおよび貧困重度が最も高く、それぞれ 17.3%、7.46% である。同州の貧困層は、貧困ラインから乖離した厳しい状況にある上、貧困層間の不平等も深刻であるといえる。高原／山岳部においても、より深刻な貧困ギャップおよび貧困重度に直面している。

⁸ CSES (2009) は、(2004) と同様に 12,000 世帯程度を対象とした調査であり、2004 年と 2009 年との相互比較分析が可能となる。一方、CSES (2007)・(2008) は、サンプル数が 3,500 世帯程度に留まるため、州レベルの分析が行えない。



(出所) World Food Programme and Food and Agriculture Organization, “Integrated Food Security and Humanitarian Phase Classification (IPC): Pilot in Cambodia” (2007), p.19

図 1-1 : 州別貧困者比率 (2004 年)

表 1-4 : 州別貧困指標 (2004 年)

コード	州	貧困者比率	貧困ギャップ	貧困重度 (%)
プノンペン				
12	Phnom Penh	4.60	1.23	0.49
平野部				
03	Kampong Cham	37.04	9.28	3.34
08	Kandal	22.24	4.81	1.68
14	Prey Veng	37.20	8.09	2.65
20	Svay Rieng	35.93	8.35	2.75
21	Takeo	27.71	6.31	2.09
Tonle Sap 部				
01	Banteay Meanchey	37.15	9.82	3.58
02	Battambang	33.69	7.94	2.65
06	Kampong Thom	52.40	15.55	6.23
17	Siem Reap	51.84	17.31	7.46
04	Kampong Chhnang	39.57	10.35	3.78
15	Pursat			
海外部				
07	Kampot	29.96	6.60	2.30
18	Preah Sihanouk	23.18	4.60	1.38
23	Kep			
09	Koh Kong			

コード	州	貧困者比率	貧困ギャップ	貧困重度
高原／山岳部				
05	Kampong Speu	57.22	16.98	6.72
10	Kratie	46.11	13.20	4.98
11	Mondul Kiri			
13	Preah Vihear			
16	Ratanak Kiri			
19	Stung Treng			
22	Otdar Meanchey			
24	Pailin			

(出所) Ministry of Planning, "A Poverty Profile of Cambodia 2004" (2006), p.55, Table 10.4

(注) 高原/山岳部の7州の貧困指標は、これらの州へのアクセスが限定的かつサンプル数が不十分であることから、高原/山岳部全体として貧困指標が算出されている。

1.2.3 地形別貧困状況

地形別に見ると、プノンペンを除くと、海岸部の貧困者比率が 27%と最も低い。平野部がこれに続き、32.5%である。Tonle Sap 部では、人口の 40%以上が貧困ライン以下の生活水準にあり、高原/山岳部では、人口の半数が貧困にあえいでいる。

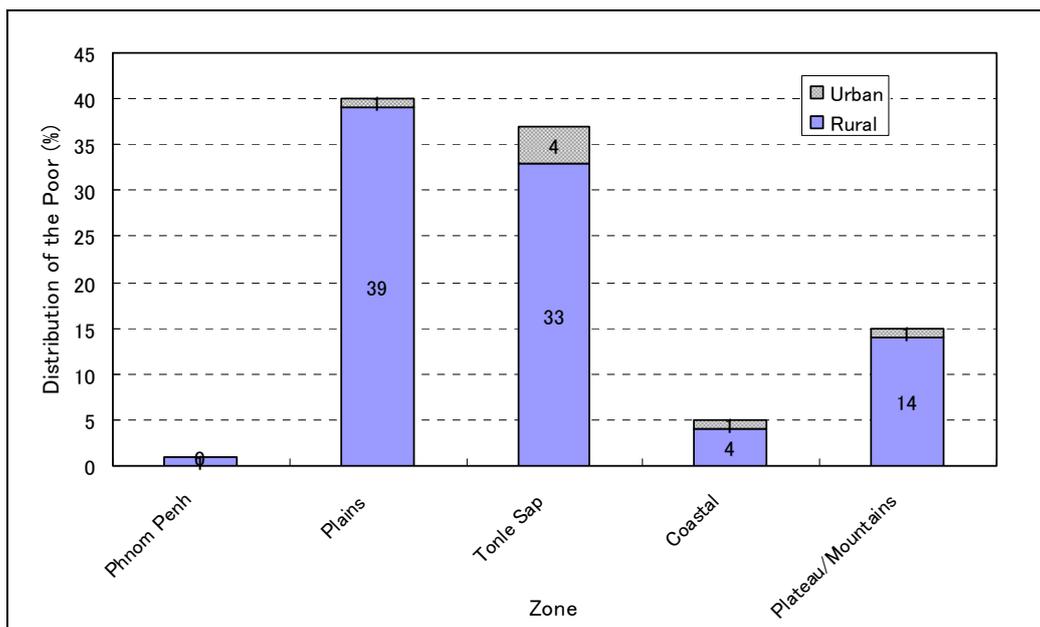
また、それぞれの地域内で、都市・農村格差がある。平野部および海岸部では、都市貧困者比率は、それぞれ 14%、20%と低いが、農村貧困者比率は約 30%である。高原/山岳部では、都市貧困者比率は 33%と、農村貧困者比率の 56%をかなり下回っているものの、海岸部の農村貧困者比率 (30%) よりも高い水準である。

表 1-5：地域別貧困者比率 (2004 年)

地域	(%)		
	都市部	農村部	全体
プノンペン	1	9	5
平野部	14	33	32
Tonle Sap 部	28	45	43
海岸部	20	30	27
高原／山岳部	33	56	52

(出所) World Bank, "Cambodia Halving Poverty by 2015? Poverty Assessment 2006" (2006), p.39, Table 3.1

貧困層の分布を見ると、大多数が平野部および Tonle Sap 部の農村地域に居住しており、貧困層のおよそ 70%が、両地域の農村に集中している。これは、平野部は、貧困者比率は低いものの、人口密度が高いために貧困者の絶対数が多く、Tonle Sap 部については、人口および貧困者比率ともに高いために、貧困者の絶対数が非常に多くなっているためである。一方、貧困者比率が最も高い、高原／山岳部の貧困層は、国全体の貧困人口の 14%に過ぎないが、これは、同地域の人口が国全体に占める割合も小さいためである。



(出所) World Bank, “Cambodia Halving Poverty by 2015? Poverty Assessment 2006” (2006), p.39, Table 3.1

図 1-2：地域別貧困人口の分布（2004年）

地形により、貧困ギャップおよび貧困重度にも著しい格差が見られる。平野部および海岸部では、貧困ギャップおよび貧困重度は低いが、Tonle Sap 部および高原／山岳部では、貧困ギャップは大きく、また貧困層間の不平等も大きい。すなわち、Tonle Sap および高原／山岳部では、平野部および海岸部に比して、貧困層はより厳しい貧困状況に置かれているといえる。

表 1-6：地形による貧困ギャップ比率および貧困重度比率 (%)

地域	貧困ギャップ	貧困重度
プノンベン	1.23	0.49
平野部	7.62	2.65
Tonle Sap 部	12.09	4.74
海岸部	6.11	2.02
高原／山岳部	15.47	6.22

(出所) Ministry of Planning, “A Poverty Profile of Cambodia 2004” (2006), p.55, Table 10.4

1.2.4 社会・経済的特徴による貧困状況

(1) 雇用

雇用による貧困分析では、世帯主の職業グループによって、貧困者比率に格差があることが示されている。家事労働者⁹を世帯主とする世帯の貧困者比率が最も高く、50%である。

⁹ “Cambodia Halving Poverty by 2015? Poverty Assessment 2006” によると、「家事労働者 (domestic worker)」は、家事労働従事者として雇用されている人口を差す。バイクタクシー運転手や建設現場労働者、小規模街頭商売人らと同様に非正規雇用であり、インフォーマルセクターに位置づけられている。なお、家事労働者

また、農民世帯の貧困者比率も高く、40%を超えている。家事労働者の世帯が、貧困層の48%を占めている一方で、農民世帯は貧困層の13%にとどまっている。

他方、非農業の自営業者や民間セクターの賃金労働者が世帯主である世帯の貧困者比率は、30%未満である。公共セクターに従事している世帯の貧困者比率は、最も低く13%である。

なお、カンボジアにおいては、依然として、女性は低賃金・低所得の経済セクターに従事している割合が高く、また、同じ仕事に従事していても、女性の賃金は男性よりも低い状況にある。しかしながら、世帯主の性別による貧困状況を見ると、CSES（2004）のデータでは、特に男女間で差は見られない。

(2) 土地所有

平均的に、カンボジアにおける土地なし貧困層は、必ずしも土地を所有している貧困層に比して、厳しい状況におかれているわけではない。

カンボジアの農村人口にとっては、土地は非常に重要な資産であるが、貧困者比率を見ると、土地を所有している世帯の貧困率が35.2%であるのに対し、土地なし世帯では25.3%と低い水準である。海岸部の農村部では、土地所有者の貧困者比率が29.4%と、土地なし層の貧困者比率の7.9%を大幅に上回っている。都市部においても土地所有者と土地なし層の格差は大きく、貧困者比率は、土地所有者28.6%、土地なし層8.9%である。

WBの報告書（2007）¹⁰では、非常に限られた面積の土地で、自給自足的な農業を行っている土地所有者よりも、土地に関連しない、より有望な雇用や生計機会が、土地なし層にあることが指摘されている。特に、都市部においては、土地なし層は、インフォーマルセクターなどでの農業以外の生計を得るための資金として、農業で生計を立てることが困難なほど小さい面積の土地を売ってしまうケースがあると考えられている。

表 1-7：世帯主の職業による貧困者比率（2004年）

職業	貧困者比率 (%)
公共セクター	13
自営（非農業）	28
民間賃金労働者	29
その他	32
非労働力	32
無給家族労働	32
失業	39
自営（農業）	41
家事労働	50

（出所）World Bank, “Cambodia Halving Poverty by 2015? Poverty Assessment 2006” (2006), p.45, Figure 3.9

働者についての明確な定義が無く、その詳細（男女比や従事者の年齢層など）についても不明である。

¹⁰ World Bank, “Sharing Growth: Equity and Development in Cambodia (Equity Report 2007)” (2007), p.53-p.60

表 1-8 : 土地所有による貧困者比率

(%)

地域	土地所有をしている世帯	土地なし世帯
カンボジア	34.8	19.4
都市部	28.6	8.9
プノンペン	2.6	2.0
平野部	19.9	4.7
Tonle Sap 部	35.4	16.2
海岸部	28.5	10.6
高原／山岳部	28.8	23.4
農村部	35.2	25.3
プノンペン	3.1	7.5
平野部	28.7	28.2
Tonle Sap 部	42.0	30.7
海岸部	29.4	7.9
高原／山岳部	51.1	40.4

(出所) World Bank, “Sharing Growth: Equity and Development in Cambodia (Equity Report 2007)” (2007), p.59, Table 4.1

(3) 村の位置と規模

住民 1,000 人未満の小規模村落のうち、道路への距離が 5 キロメートル以上の村落の貧困者比率 (52.5%) は、同様の規模の村落で、道路へのアクセスが容易な村落よりも高くなっている (43.4%)。また、住民 1,000 人以上の大規模村落で、道路への距離が 5 キロメートル以上の村落の貧困者比率 (38.0%) は、同様の規模の村落で、道路へのアクセスが容易な村落よりも高い (32.5%)。

孤立した小規模村落と、アクセスのあるより規模の大きい村落の貧困者比率の差は歴然としており、このことから、孤立状態にあることが、貧困状態や貧富の格差に悪影響を及ぼしていることが考えられる。一方、孤立したより規模の大きい村落の貧困者比率 (38.0%) は、アクセスのよい小規模村落 (43.4%) よりも、わずかながら低い数値を示している。

一定の人口規模が確保されることによって、村落内において様々なインフラへが整備され、これによって貧困および貧富の格差が緩和される可能性は、わずかながらあり得るが、幹線道路へのアクセスほどその効果が明らかではない。

表 1-9 : 村落の規模および全天候道路への距離による貧困者比率 (2004 年)

村の規模	全天候道路への距離	
	5km 未満	5km 以上
1,000 人以上	32.5% (±0.7)	38.0% (±1.7)
1,000 人未満	43.4% (±0.9)	52.5% (±1.8)

(出所) World Bank, “Sharing Growth: Equity and Development in Cambodia (Equity Report 2007)” (2007), p.59, Table 4.1

1.3 不平等指数と経年変化

1.3.1 ローレンツ曲線とジニ係数

カンボジアにおいては、1993/94年から2007年にかけて、貧困削減が進展する一方で、図1-3に示すローレンツ曲線によれば、不平等が継続的に悪化していることが示されている。

ジニ係数でも、2004年0.396から2007年0.431に上昇しており、不平等が悪化していることが分かる。また、2007年のジニ係数の水準は、著しい分配上の不平等があることを示している。

地域別に見ると、プノンペンでは、0.37から0.34に若干改善している。プノンペンにおける貧困ギャップおよび貧困重度は、ほとんど無視できるレベルの水準であり、貧困削減が不平等の改善にも貢献していると考えられる。

農村部においては、貧困者比率は低下したものの、2004年から2007年にかけて0.34から0.36に悪化した。これは、経済成長の恩恵が、農村の一部の貧困世帯が貧困から抜け出すことに留まり、全体に裨益しなかったことを示している。

その他都市部の状況は、最も深刻であり、ジニ係数は0.43から0.47に上昇し、著しい不平等の状態である水準となっている。都市部における貧困者比率は低下しているものの、低所得者層の世帯の支出は、より高い所得階層の支出に比して増加しなかったことが、不平等を悪化させたものと見られる。

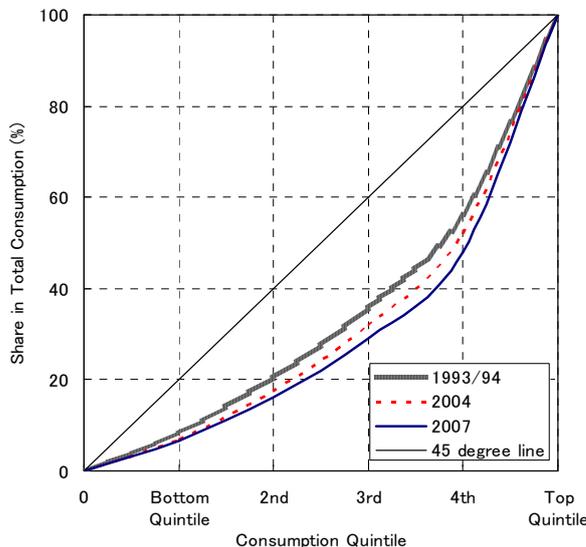


表 1-10:1 人当たり消費によるジニ係数

地域	2004	2007
プノンペン	0.369	0.340
その他都市部	0.435	0.468
農村部	0.342	0.360
カンボジア	0.396	0.431

(出所) World Bank. (2009). Poverty Profile and Trend in Cambodia. Phnom Penh. p.21

(出所) Data on 1993/94 and 2004 from Ministry of Planning, "Poverty Profile of Cambodia 2004" (2006), p.40, Table 9.2 and Data on 2007 from World Bank, "World Development Indicator 2010", p.94

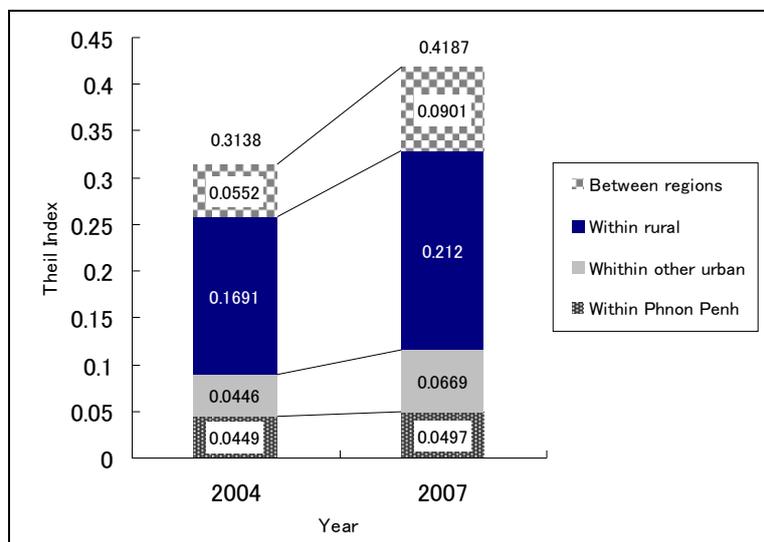
図 1-3 : カンボジアのローレンツ曲線
(1993/94, 2004, 2007)

1.3.2 タイル指数

タイル指数も、不平等指標の一つであり、サブグループ内での不平等やサブグループ間の不平等の加重平均である。すなわち、タイル指数は、タイル指数全体を分解し、地域内（もしくはグループ内）および地域間（もしくはグループ間）の貢献度に分解することができるため、不平等の地域的要因を示し、分析に役立てることができる。

タイル指数も、2004年 0.31 から 2007年 0.42 に上昇しており、不平等が悪化していることを示している。

不平等全体に最も深刻な影響を与えているのは、農村地域間の不平等であり、2004年 0.17 から 2007年 0.21 に悪化している。その他都市部およびプノンペン内での不平等の影響は限定的であるが、地域間の不平等が拡大していることも、国全体の不平等の悪化の要因となっている。



(出所) World Bank, “Poverty Profile and Trend in Cambodia” (2009), p.25, Figure 14

図 1-4 : タイル指数の分解 (2004年および2007年)

第2章 所得貧困以外の方法による分析

2.1 当該国政府による指定貧困地域・集団

国家貧困削減戦略 2003-2005 (NPRS : National Poverty Reduction Strategy) において、カンボジア政府は、特定の地域を指定してはいないが、国全体で 7,500 世帯 37,500 人を対象として、住宅および生活条件の改善を図ることを目標としている。

国家戦略的開発計画 2006-2010 (NSDP : National Strategic Development Plan) は、貧困削減とカンボジアミレニアム開発目標 (CMDGs : Cambodian Millennium Development Goals) を進展させることを第一優先として、明確な目標を掲げており、国全体として農村部の貧困削減に取り組んでいるものの、特定の対象地域や優先地域は示されていない。

前述の通り、カンボジアの国家開発において貧困削減に関する特定の対象地域は定められていないが、カンボジア政府は、地方分権・分散化 (D&D : Decentralization and De-concentration) と、社会経済開発に向けたコミューン委員会を通じた、計画、管理、資源利用を含む参加型開発を促進している。また、貧困削減は、地方開発とサービス提供における貧困層のサービス条件や機会へのアクセスの改善を通じて、取組まれている。

2.1.1 コミューンデータベース (CDB)

コミューンレベルでの参加型開発の効果的かつ効率的な実施に向けて、計画省 (MOP : Ministry of Planning) は、コミューンデータベース (CDB : Commune Database)¹¹の整備を行っている。CDB は、コミューン / *sangkat* の計画、資金配分および地方レベルの行政管理・開発を支援する情報システムである。CDB は、村およびコミューンレベルの人口および社会経済データで構成され、コミューン / *sangkat* における貧困状態の推定に利用され、コミューン / *sangkat* 開発基金の配分を行うための目安となっている。

CDB に基づく貧困率は、以下の 13 の指標に基づいて計測されている。収集されたデータは、毎年 12 月に集計され、中央政府および各州の計画局のコンピュータに入力される。同データは各コミューンの状況を示す報告書として取りまとめられ、翌年 3~4 月にかけて、各コミューンにフィードバックされる。

- 世帯人数
- 識字率
 - 18-64 歳女性の識字率
 - 18-64 歳男性の識字率
 - 学校に通っていない 6-14 歳児童の割合

¹¹ コミューンデータベース (CDB : Commune Database) の開発は、CMDGs のモニタリングのため、国連開発計画 (UNDP : United Nations Development Programme) が支援を行っている。

- 住宅・資産
 - トイレがある世帯の割合
 - テレビがある世帯の割合
 - バイクがある世帯の割合
 - 家屋がコンクリートである世帯の割合
 - シュロ葺き屋根の割合
 - 電気のある家屋の割合

- 基礎サービスへのアクセス
 - 伝統的産婆を利用している世帯の割合
 - 水場までの距離が 150 メートル未満の世帯の割合

なお、村、コミュニオン / *sangkat* のデータは、村長、コミュニオン職員によって収集された、村の状況を示すデータではあるものの、世帯や個人が各々の状況を示したものではない。このため、データの信頼度および客観性にかかる課題が指摘されている。

CDB に基づく貧困率によれば、貧困削減は、州ごとに速度は異なるものの、全ての州において進展している。2010 年に、プノンペン是最も低く 0.1% であるが、他方、高原／山岳部の Mondul Kiri、Preah Vihear、Ratanak Kiri の 3 州では 40% を超えている。平野部および海岸部の州では、相対的に低く、15～25% の範囲である。Tonle Sap 部の貧困率は、約 30% である。高原／山岳部では、Kampong Speu および Pailin を除く州で、貧困率は比較的高く、約 40% である。

表 2-1 : 州別貧困率 (2004-2010)

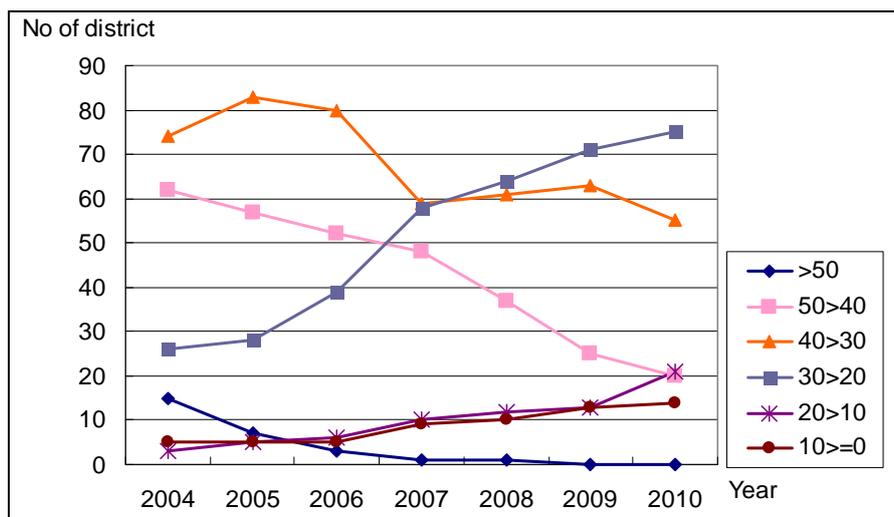
コード	州	年						
		2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
(%)								
プノンペン								
12	プノンペン	6.8	6.9	5.8	0.5	0.3	0.2	0.1
平野部								
03	Kampong Cham	33.1	32.1	31.0	29.0	27.6	25.8	24.3
08	Kandal	27.6	26.2	24.1	21.2	19.7	17.6	15.9
14	Prey Veng	33.2	33.2	32.2	30.2	29.1	27.3	25.5
20	Svay Rieng	32.5	31.6	30.1	27.8	25.9	23.6	21.5
21	Takeo	31.6	30.7	29.2	28.1	26.8	25.2	23.4
Tonle Sap 部								
01	Banteay Meanchey	39.9	38.7	37.1	34.1	32.5	31.4	29.7
02	Battambang	37.8	36.5	35.4	33.3	31.7	29.7	28.7
06	Kampong Thom	41.1	40.5	39.3	37.7	36.5	34.4	32.7
17	Siem Reap	42.2	40.7	38.8	36.0	34.4	32.3	31.1
04	Kampong Chhnang	37.9	37.2	36.7	35.6	34.2	32.3	30.4
15	Pursat	40.7	39.9	39.0	37.5	35.8	34.1	32.0

コード	州	年						
		2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
海岸部								
07	Kampot	26.6	25.6	25.0	23.4	22.4	20.5	19.1
18	Preah Sihanouk	31.6	30.7	29.4	24.8	22.8	20.5	19.6
23	Kep	33.6	33.0	31.5	28.6	25.2	22.8	21.4
09	Koh Kong	34.8	34.7	32.6	30.7	29.0	26.5	25.1
高原／山岳部								
05	Kampong Speu	41.4	40.3	39.5	37.3	35.2	32.2	30.1
10	Kratie	43.9	43.3	42.5	41.5	40.2	38.6	37.1
11	Mondul Kiri	47.0	45.1	44.0	42.4	40.3	38.0	37.1
13	Preah Vihear	50.2	48.2	47.2	45.7	44.5	43.1	41.5
16	Ratanak Kiri	50.7	48.9	46.6	45.0	43.8	41.5	41.2
19	Stung Treng	46.1	45.9	46.1	44.3	43.5	42.4	41.1
22	Otdar Meanchey	46.6	45.9	44.0	42.3	40.6	39.1	36.5
24	Pailin	41.7	40.5	38.9	36.9	35.0	31.0	28.1

(出所) Ministry of Planning および the National Committee for Sub-National Democratic Development (NCDD)

全国 185 郡における 2004 年から 2010 年までの毎年の貧困率の推移を見ると、カンボジアにおける堅調な貧困削減の成果が認められる。貧困率 30%以上の郡の数が、151 郡（2004 年）から 75 郡（2010 年）へと、ほぼ半減しており、特に、貧困率 40～50%の郡は、62 郡（2004 年）から 20 郡（2010 年）へと劇的に減少している。最も高い貧困率の値は、56.5%（2004 年）から 47.1%（2010 年）へ、中央値は 37.4%から 27.6%へとそれぞれ低下している。

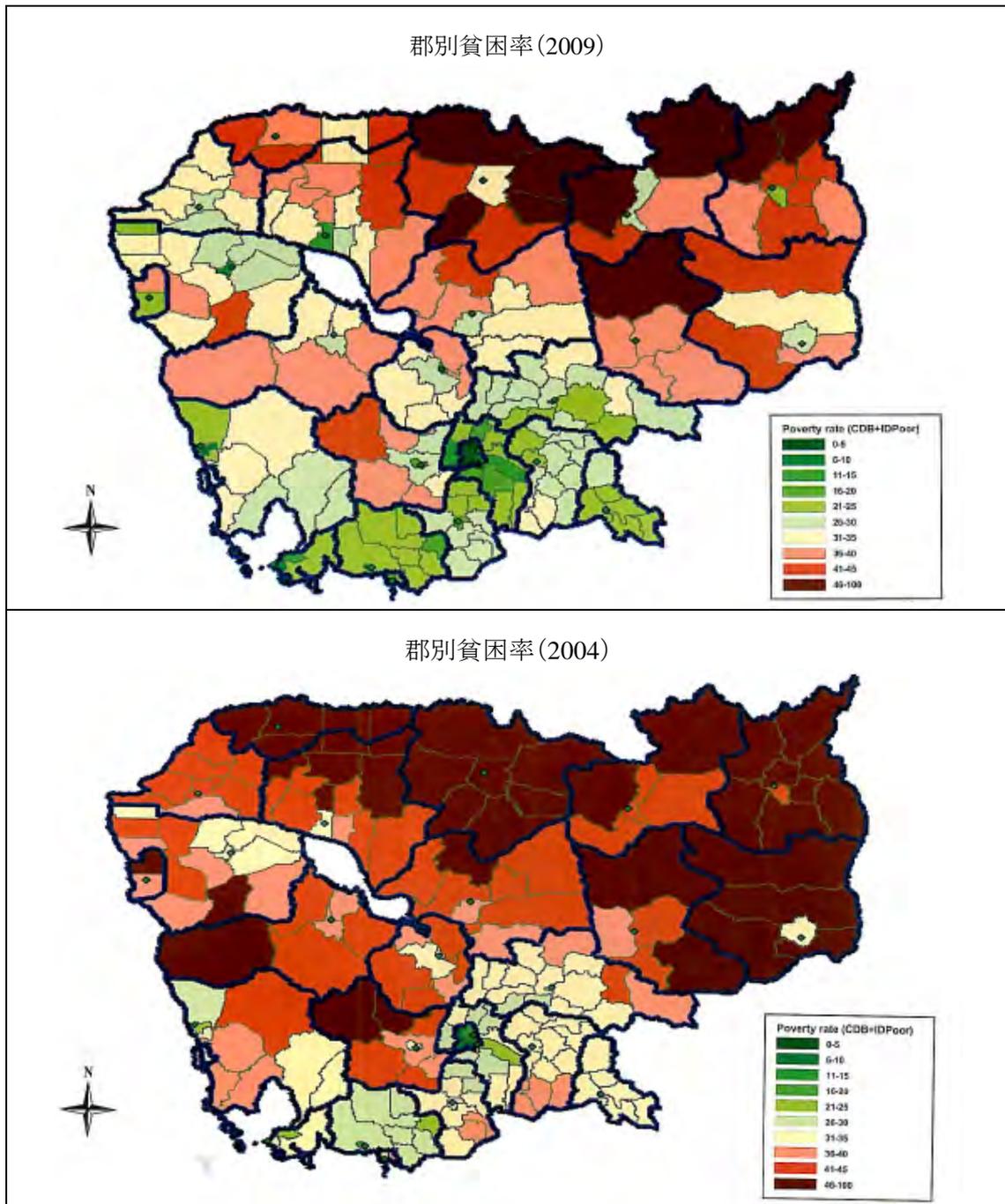
一方では、貧困率 20～30%の郡は、26 郡（2004 年）から 75 郡（2010 年）へと増加しており、貧困率改善に一定の下げ止まり傾向があることも明らかである。



(出所) Ministry of Planning および the National Committee for Sub-National Democratic Development (NCDD)

図 2-1：コミュニティデータベースによる貧困率（2004-2010）（郡レベル）

郡レベルの貧困率低下を、地域別に、2004年と2009年について見ると、平野部および海岸部の多くの郡で、30%以下に低下している。Tonle Sap部では、ほとんどの郡で貧困率は40%以下に低下したものの、いくつかの郡では40%を上回っている。高原／山岳部においては、北東部の9つの郡では依然として45%を超えているが、ごく少数の郡では30%以下に低下している。



(出所) Ministry of Planning, “Poverty and Select CMDGs Maps and Charts 2003-2008” (2009), p.8-p.9, Map3-4.

図 2-2 : コミュニティデータベースによる貧困マップ (郡レベル)

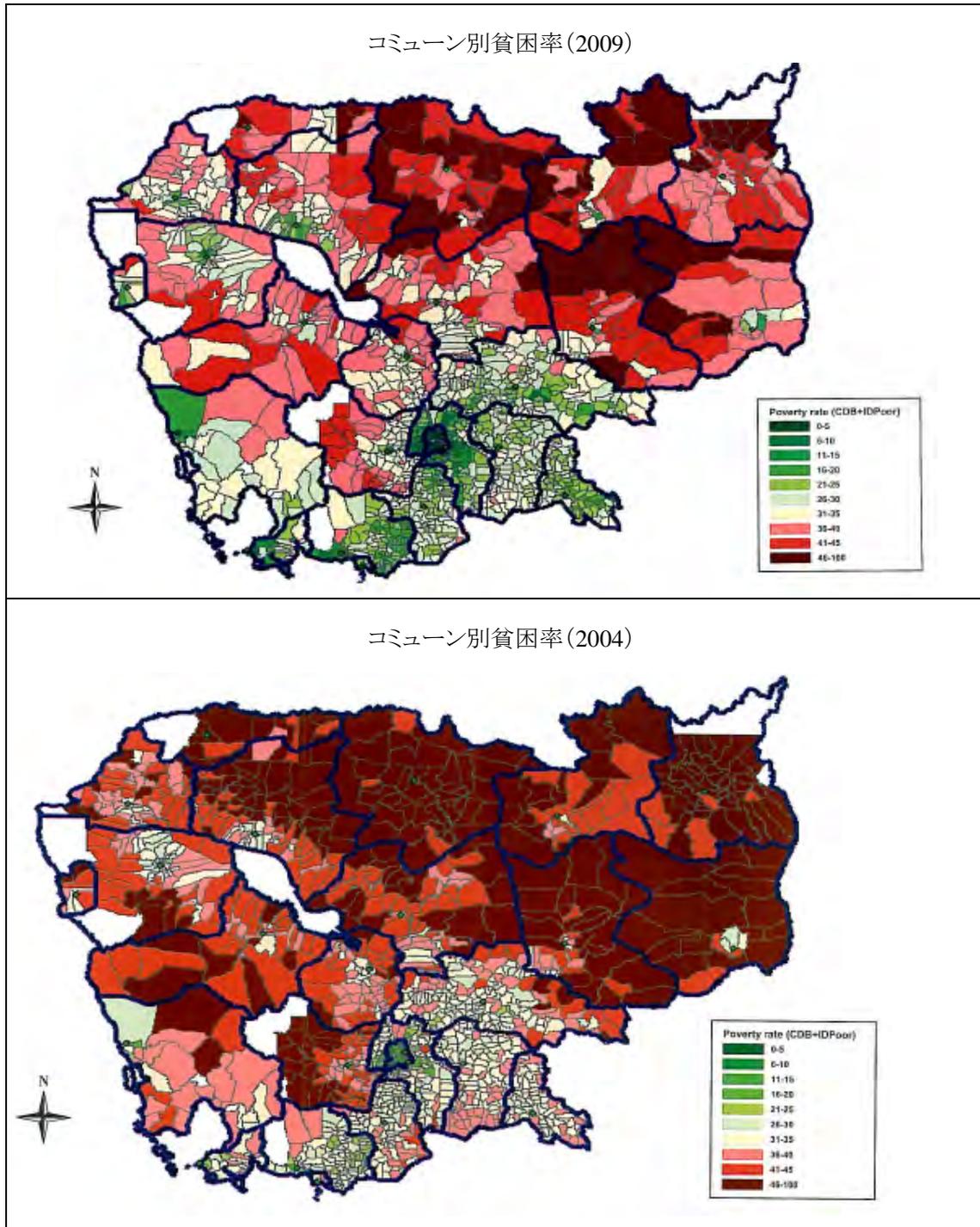
2009年時点で最も貧困率が高い15の郡は、貧困率が42.4～48.6%の範囲にあり、すべての郡が高原／山岳部に位置し、中でも Preah Vihear 州が6郡と最も多くを占める。

表 2-2：貧困率の最も高い郡（2009年）

No	郡名	貧困率 (%)	州名	地域
1	1608-Ta Veang	48.6	16-Ratanak Kiri	高原／山岳部
2	1903-Siem Pang	48.3	19-Stung Treng	高原／山岳部
3	1302-Chhaeb	47.7	13-Preah Vihear	高原／山岳部
4	1905-Thala Barivat	46.5	19-Stung Treng	高原／山岳部
5	1004-Sambour	46.5	10-Kracheh	高原／山岳部
6	1609-Veun Sai	46.0	16-Ratanak Kiri	高原／山岳部
7	1301-Chey Saen	45.5	13-Preah Vihear	高原／山岳部
8	1303-Choam Khsant	45.3	13-Preah Vihear	高原／山岳部
9	1306-Sangkom Thmei	45.3	13-Preah Vihear	高原／山岳部
10	1601-Andoung Meas	44.6	16-Ratanak Kiri	高原／山岳部
11	1102-Kaoh Nheaek	43.4	11-Mondul Kiri	高原／山岳部
12	1305-Rovieng	43.2	13-Preah Vihear	高原／山岳部
13	1101-Kaev Seima	42.9	11-Mondul Kiri	高原／山岳部
14	1304-Kuleaen	42.7	13-Preah Vihear	高原／山岳部
15	504-Aoral	42.4	5-Kampong Speu	高原／山岳部

(出所) Ministry of Planning および National Committee for Sub-National Democratic Development (NCDD)

コミュニティレベルにおいても、貧困削減の傾向は、郡レベルでの貧困削減の傾向とほぼ一致している。



(出所) Ministry of Planning, “Poverty and Select CMDGs Maps and Charts 2003-2008” (2009), p.6-p.7, Map1-2

図 2-3 : コミュニティデータベースによる貧困マップ (コミュニティレベル)

2.1.2 貧困世帯特定プログラム (ID Poor)

貧困削減に向けた開発の計画策定およびサービスの提供に当って、支援を必要とする貧困層がこれまで適切に特定されていなかったため、MOP は、ドイツ技術協力公社 (GTZ : Deutsche Gesellschaft für Technische Zusammenarbeit GmbH) の支援を得て、「貧困世帯特定プログラム (ID Poor : Identification of Poor Households Programme)」を開始した¹²。ID Poor の主要な目的は、国全体における貧困世帯の特定方法の標準化を図り、政府組織、非政府組織 (NGOs : non-governmental organizations) やコミュン委員会、また、セクタープログラムおよびプロジェクトを通して収集されたデータの、幅広い活用を促進することである。

収集される世帯レベルのデータは、世帯の所得水準を示す、客観的で検証可能な資産に関するもののほか、扶養率 (dependency ratio)、学校の出席率、世帯の緊急事態、家族構成などの社会指標が含まれており、村、コミュン、郡、州の各レベルでの貧困状況を計測するために活用することができる。ID Poor では、収集プロセスの透明性と、データ収集結果の精度を確保するため、データ収集を行う村の代表者グループに対して訓練を施すなど、調査手法の標準化や、調査の質の向上が図られている。

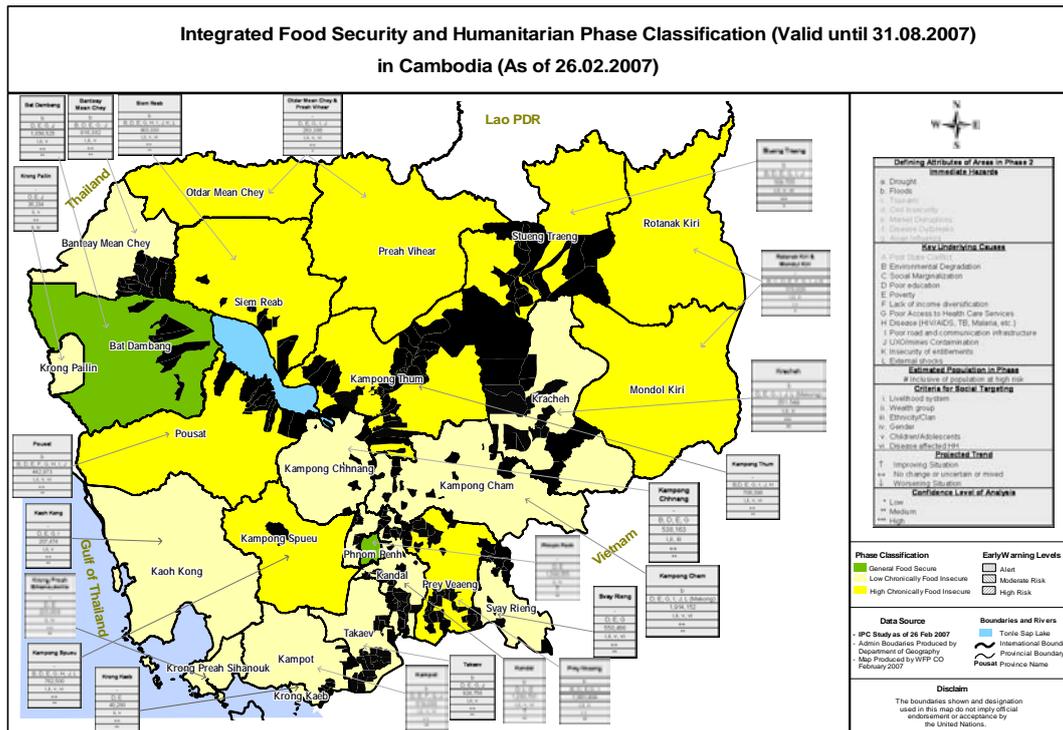
ID Poor は現在継続中であり、2011 年までにプノンペンを除く 23 州の農村部が網羅される予定である。

2.2 脆弱性分析

脆弱性は、個人あるいは世帯が飢餓やショックに陥るリスク、または、世帯の貧困レベルに関わらず、食料保障が悪化するリスクに対する危険度または感度として定義される。リスクは、危険発生の確率や頻度、その結果の重大性の組み合わせとして定義されている。脆弱性の度合いは、リスクの性質とショック後の世帯の抵抗力あるいは回復力に左右される。

カンボジアにおいては、総じて社会経済成長が認められているものの、人口の 5 分の 1 が、食料保障が確保されない状況に苦しんでおり、高い脆弱性が指摘されている。カンボジアの栄養不良率は、アジアの中でも最も劣悪な水準にある。国全体では、コメ生産に余剰があるが、世帯レベルの食料保障は深刻である。世帯レベルの食料保障が確保されていない主な原因は、所得貧困の高さや、頻発する自然災害 (洪水や旱魃など) を主な要因とする食料生産の脆弱性、灌漑施設・設備の未整備に起因する農業の低生産性、農業技術の不足、備蓄・流通システムの未整備、輸送に利用する道路状況の劣悪さや輸送手段の不足などが上げられる。

¹² ID Poor 他の詳細については、以下の MOP ウェブサイトを参照のこと。
<http://www.mop.gov.kh/Projects/IDPoor/tabid/154/Default.aspx> (2010 年 7 月現在)



(出所) World Food Programme and Food and Agriculture Organization, “Integrated Food Security and Humanitarian Phase Classification (IPC): Pilot in Cambodia” (2007), p.9

図 2-4：カンボジアの包括的食料保障および人道的局面分類（2007年）

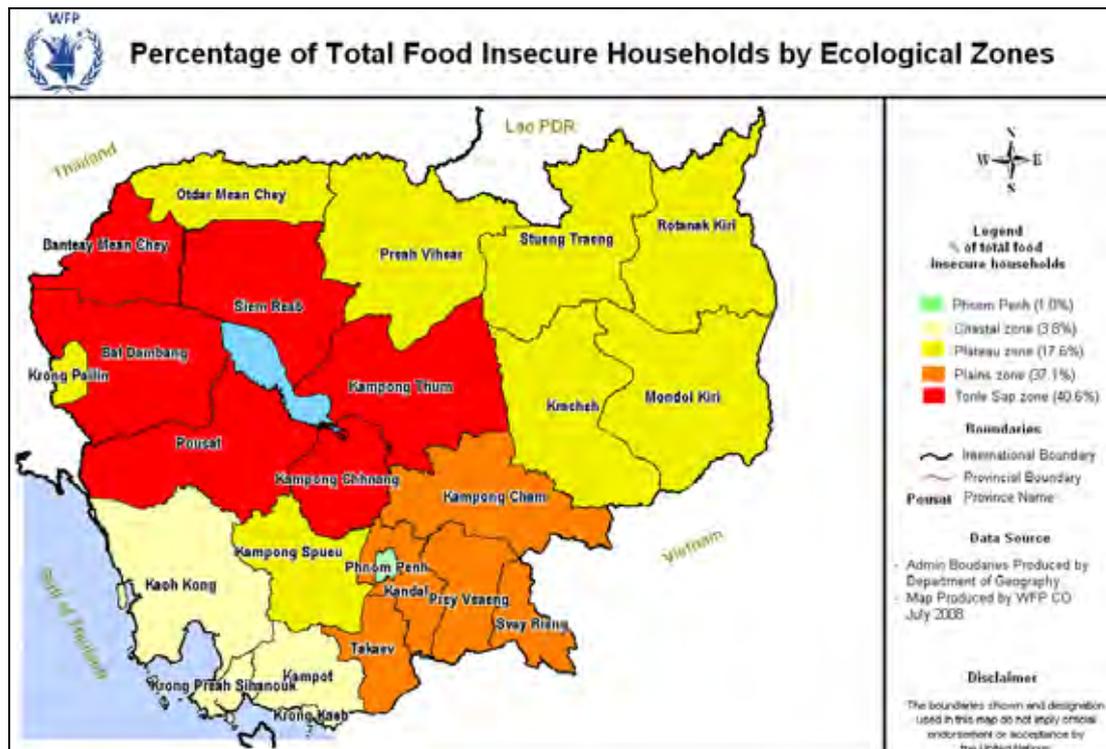
2007年に国際連合食糧農業機関（FAO：Food and Agriculture Organization）および国際連合世界食糧計画（WFP：World Food Programme）の合同で実施された、「包括的食料保障および人道的局面分類（IPC：Integrated Food Security and Humanitarian Phase Classification）」によると、Battambang および Phnom Penh を除いて、ほとんどの州で恒常的に食料保障が不十分な状況にある。食料保障が不安定となっている事態は、旱魃の発生と、都市部に比して農村部の経済成長が限定的であることによるものである。特に、旱魃は、多くの州における食料供給量と食料価格に影響を及ぼしており、食料価格は2003年以降上昇を続けている。

カンボジア開発資源研究所（CDRI：Cambodia Development Resource Institute）¹³によると、全国の20万世帯以上が不安定な食料保障に直面しており、特に農村地域で顕著となっている。しかしながら、不安定な食料保障の傾向は、プノンペンを除いて貧困率の分布とは異なる分布を示している。貧困率が最も低いプノンペンでは、食料保障が不安定な世帯は1.3%に留まり、国内でも最も低い割合となっている。海岸部では比較的貧困率は低く、また、食料保障の不安定さについても4.8%となっている。一方、高原／山岳部については、高い貧困率を示すものの、平野部やTonle Sap部よりも低い食料保障状況にあり、22%である。Tonle Sap部は食料保障の不安定な状況が35.5%で、平野部より低い、Tonle Sap部の貧困率は平野部よりも高い。平野部は食料保障の不安定さが最も高く、36.5%にのぼるが、貧困

¹³ CDRI, “Impact of High Food Prices in Cambodia” (2008). 同報告書は、WFP、NGO フォーラム、Oxfam America、WB、UNDP および FAO からの資金提供および支援を受けたものである。

率は Tonle Sap 部および高原／山岳部よりも低い。

カンボジア政府は、一連の貧困削減政策を推進しており、その中核となる国家開発戦略として、「四辺形戦略 (Rectangular Strategy)」を 2004 年に発表している。同戦略は、グッド・ガバナンスを指針とし、農業分野の向上、民間部門の開発と雇用創出、インフラの更なる復興と建設、能力開発と人材育成の 4 つの分野の成長促進を図ることを狙いとするものである。政府は同戦略の枠組みにおいて、貧困世帯の栄養状態の改善および食料保障の向上を図り、脆弱性を低下させることに取組んでいる。



(出所) Cambodia's Leading Independent Development Policy Research Institute, "Impact of High Food Prices in Cambodia" (2008), p.41

(注) 食料保障の定義は以下のとおり。

- 食料消費が不十分：標準範囲 0-21 (新範囲 0-31)
- 食料消費がボーダーライン：標準範囲 21.5-35 (新範囲 31.5-45)
- 食料消費が十分：標準範囲 35 以上 (新範囲 45 以上)

図 2-5：カンボジアの食料保障 (2008 年)

2.3 人間開発指数および人間貧困指数

人間開発指数 (HDI : Human Development Index) および人間貧困指数 (HPI : Human Poverty Index) は、平均余命、成人識字率、就学率、1 人当たり所得などの複数の指標を組み合わせられて構成されている。HDI が高いほど、人々はより良い環境にあることを示し、また、HPI が高いほど、経済的・非経済的要因による貧困が深刻な状況にあることを示している。

この HDI および HPI に加え、カンボジアにおいては、国連開発計画（UNDP : United Nations Development Programme）によって、HDI に住宅に関する変数を加えた「住宅 HDI」が 2007 年に算定されている。この住宅 HDI が開発された背景には、河川沿いや洪水発生地域のコミュニティでは、河川の増水や濁流によって住宅が失われるケースが多く見られ、住宅整備に多額の資金を必要とすることや、住宅所有権が明確でない不安定な中での生活を強いられることなどがある。また、カンボジア国内での移住によって住むところを失った人々が、ホームレス化するケースが散見されることも挙げられる。住宅 HDI は、カンボジアのこうした脆弱なグループが置かれる状況を、より客観的に把握しようとするものである。

カンボジア全体の HDI は、0.583、HPI は 39.3 である。地域別に見ると、HDI および住宅 HDI が最も高いのは、プノンペンであり、ともに 0.8 を越えている。HDI については、平野部、Tonle Sap 部は 0.5 前後の水準であり、海岸部は 0.5～0.6 の範囲とやや高く、高原／山岳部は 0.31～0.49 と全体にやや低い。なお、最も HDI が低いのは、Ratanak Kiri で、0.3 である。住宅 HDI は、HDI に比して全体に高めになっているが、地域的な格差は HDI と同様の傾向を示している。

HPI を見ると、プノンペンの HPI は、14.3 と最も低い水準にある。平野部の州は 40 未満であり、Pery Veng および Svay Rieng はそれぞれ 23.2 および 25.6 と低い水準である。Tonle Sap 部の HPI は国全体の水準に近く、40 台か、もしくはこれを上回っている州が多い。海岸部および高原／山岳部では、海岸部の Preah Sihanouk (33.2) および Koh Kong (34.0) を除くと、40 前後と国全体の水準である州がほとんどである。HPI が最も高いのは Tonle Sap 部の Kampong Thom の 44.8 である。

表 2-3 : カンボジアの HDI ・住宅 HDI および HPI (2004 年)

コード	州	HDI	住宅 HDI	HPI
プノンペン				
12	Phnom Penh	0.83	0.87	14.3
平野部				
03	Kampong Cham	0.47	0.53	38.0
08	Kandal	0.56	0.62	33.9
14	Prey Veng	0.41	0.47	25.6
20	Svay Rieng	0.48	0.53	23.2
21	Takeo	0.50	0.58	37.7
Tonle Sap 部				
01	Banteay Meanchey	0.51	0.58	37.2
02	Battambang	0.46	0.52	40.4
06	Kampong Thom	0.47	0.53	44.8
17	Siem Reap	0.50	0.53	42.3
04	Kampong Chhnang	0.49	0.51	42.3
15	Pursat	0.50	0.54	46.2

コード	州	HDI	住宅 HDI	HPI
海岸部				
07	Kampot	0.58	0.61	41.7
18	Preah Sihanouk	0.55	0.63	33.2
23	Kep	0.61	0.64	41.7
09	Koh Kong	0.52	0.60	34.0
高原／山岳部				
05	Kampong Speu	0.41	0.48	39.1
10	Kratie	0.48	0.51	39.5
11	Mondul Kiri	0.31	0.38	41.5
13	Preah Vihear	0.39	0.44	39.6
16	Ratanak Kiri	0.30	0.37	41.5
19	Stung Treng	0.39	0.45	39.6
22	Otdar Meanchey	0.49	0.57	40.4
24	Pailin	0.46	0.52	34.7
	カンボジア	0.583	-	39.3

(出所) Ministry of Planning and United Nations Development Programme. “Cambodia Human Development Report 2007” (2007), and United Nations Development Programme” Human Development Report 2006” (2006).

2.4 危険分析：地雷および不発弾（UXO：Unexploded Ordnance）

地理的に、カンボジアは、タイ、ベトナム、ラオスと国境を接しており、長年にわたる政情不安、緊張状態、植民地化および内戦、国境紛争など、地域全体の歴史に大きく影響を受けてきている。地政学的な動向の結果、カンボジアは数十年にわたる紛争・戦争に巻き込まれ、多くの人命を失い、深刻で広範な被害を受けた。さらに、これらの紛争・戦争は、国中に広がる不発弾および地雷という負の遺産をカンボジアにもたらした。

1979年から1993年¹⁴にかけて、戦争に関与した全てのグループが、集中した地雷敷設作戦を行い、カンボジアは世界でも地雷および戦争残余爆発物（ERW：Explosive Remnants of Wars）による汚染が最も激しい国の一つとなった。内戦終結後も、非常に多くの犠牲者が地雷・ERWによる事故に苦しめられることとなり、年間の被害者数は1996年のピーク時には4,000人以上に上った。

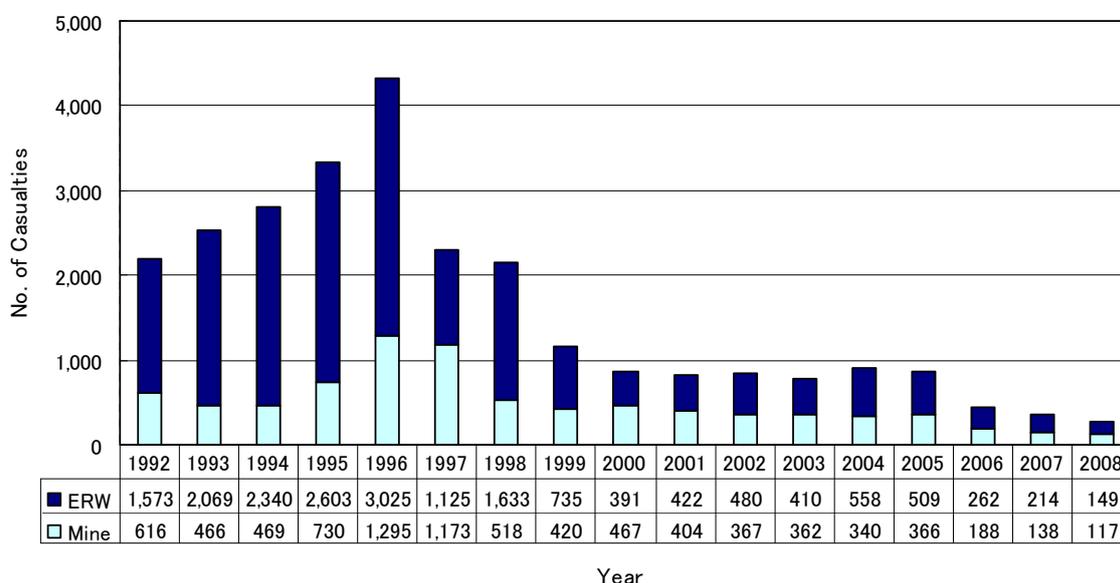
地雷およびERWのインパクト調査を行った、国家レベル1調査2002（L1S 2002：National Level 1 Survey 2002）¹⁵によれば、国土の2.5%に当たる4,544平方キロメートルが、地雷、不発弾およびクラスター爆弾に汚染された。汚染地域は6,422村に相当し、国の人口の45.3%である500万人以上が、リスクにさらされることとなった。

¹⁴ 内戦は、1991年10月のパリ和平合意により停戦となった。

¹⁵ 同調査は、カンボジア政府とカナダ国際開発庁（CIDA：Canadian International Development Agency）による合同で行われた。

その後、カンボジア地雷処理センター（CMAC : Cambodian Mine Action Centre）¹⁶の地雷除去の取組みにより、過去 10 年間の地雷・ERW による被害者数は減少している。しかしながら、CMAC の 2008 年年報によれば、2008 年には地雷・ERW による事故が 269 件発生し、153 人の被害者が出た¹⁷。地雷・ERW による被害リスクは、タイ国境地域、特に国境沿いの北西部に多く、Banteay Meanchey、Battambang、Preah Vilhear、Otdar Meanchey および Pailin では、依然として深刻な問題となっている。

地雷およびERWは、人的被害をもたらすだけでなく、戦争終了後もなお長期間にわたって、人命や肉体の損失による苦しみを与えている。さらに、社会経済的な状況や、国民の健康、環境に、かつてない広範な負の影響を及ぼしている。

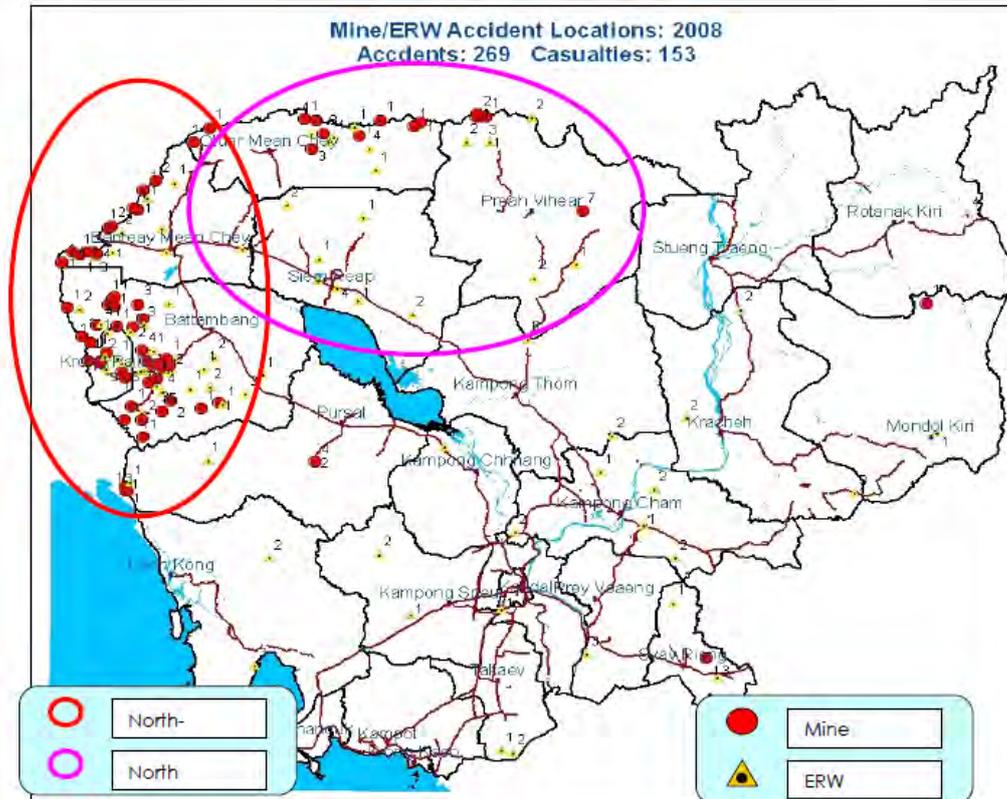


(出所) Cambodian Mine Action Center, “Annual Report 2008” (2008), p.2, Chart 1

図 2-6 : カンボジアの地雷および爆発戦争残余物の被害者 (1992-2008)

¹⁶ カンボジア地雷処理センター（CMAC : Cambodian Mine Action Centre）は、地雷および不発弾除去を目的として、カンボジアと国連カンボジア暫定機構（UNTAC : United Nations Transition Authority in Cambodia）によって、停戦後の 1992 年に設立された。

¹⁷ 犠牲者の数が図 2-6 と異なるも、CMAC 年次報告書（2008 年）に言及なし。



(出所) Cambodian Mine Action Center, “Annual Report 2008” (2008), p.6, Figure 2

図 2-7：地雷事故発生地（2008年）

L1S2002年によると、下記の21郡が、地雷およびERWによる被害を最も受けている。

表 2-4：地雷およびERWによる被害を最も受けている21郡のリスト

州	郡
Banteay Meanchey	Ou Chrov, Thma Puok, Svay Chek and Malai
Battambang	Banan, Bavel, Moug Ruessei Rotonak Mondol, Samlout, Sampov Lun, Phnom Proek, Kamrieng and Koas Krala
Preah Vihear	Choam Khsant
Pursat	Veal Veang
Takeo	Samraong
Otdar Meanchey	Anlong Veang, Banteay Ampil and Trapeang Prasat
Palin	Krong Pailin and Sala Krau



(出所) Kingdom of Cambodia and Cambodian Mine Action Centre, “Five-Year Strategic Plan 2010-2014”

図 2-8：地雷および ERW による被害を最も受けている 21 郡の分布状況

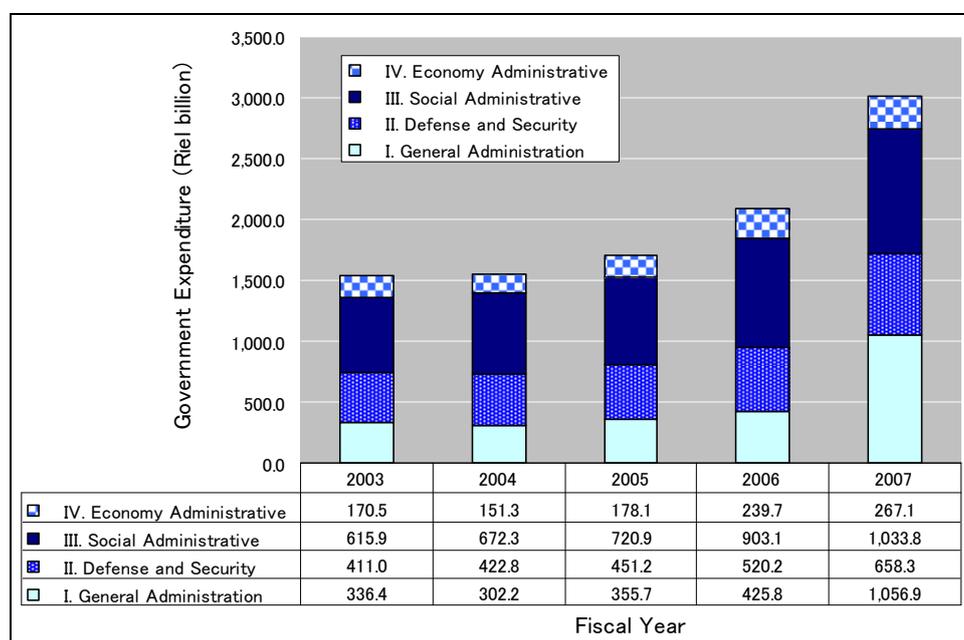
第3章 貧困に影響を与えている要因

3.1 国内要因

3.1.1 国家開発と公共支出

1990年代半ば以降、カンボジア政府は、貧困削減への取組みを続けており、貧困削減を長期的な国の開発目標として、1996年より5ヵ年開発計画である社会経済開発計画（SEDP：Socio-Economic Development Plans）を策定・実施してきた。SEDP II（2001-2005年）の実施中に、政府は国家貧困削減戦略（NPRS2003-2005）を策定し、公平な経済成長を通じた貧困削減を実現を目指した。SEDP IIに続く、国家戦略開発計画（NSDP2006-2010）は、CMDGの達成を視野に入れて策定・実施されているものであり、貧困層および農村部に裨益する将来的な公平な開発に向けて、対象を明確にし、方向性を示したものになっている。なお、現在は、NSDP2006-2013が実施されている。

こうした開発政策の実施にあたり、社会セクターへの予算配分・実行額が継続的に増加している。社会セクターへの政府支出額は、2003年の6,159億リエル（151.84百万ドル）から、2007年には1兆338億リエル（254.49百万ドル）に拡大し、政府支出全体の30～35%を占めている。社会セクターへの政府支出の拡大は、保健および教育サービスの提供の改善につながっている。セクター別政府支出の推移を図3-1に、その内訳を別添2に示す。



(出所) Ministry of Planning National Institute of Statistics, “Statistical Yearbook 2008”, Table 19.8
 (注) 参考為替レート(期中平均): 1ドル=4,056.2リエル(2007年)(IMF, International Financial Statistic Yearbook 2009”)

図 3-1 : セクター別政府支出 (2003-2007)

農業、農村開発および土地管理を含む、経済セクターへの政府支出は、同期間に 1,705 億リエル (42.03 百万ドル) から 2,671 億リエル (65.85 百万ドル) に増加した。農業や農村開発は、農村貧困の削減に重要な役割を果たすと考えられるが、社会セクターと比較すると、経済セクターの政府支出に占める割合は 10% と、その支出規模は限定的である。

第 2 章で述べた通り、カンボジア政府は、貧困削減をその上位目標とし、対象者を明確化した参加型開発を実施するために、地方分権・分散化 (D&D: decentralization and deconcentration) 政策を推進している。しかし、郡およびコミューンレベルの地方行政組織は、依然として財政面および人材面での能力に限界がある。そのため、州間および郡あるいはコミューン間で、水や電気などの基礎サービスへのアクセスに格差が生じている。

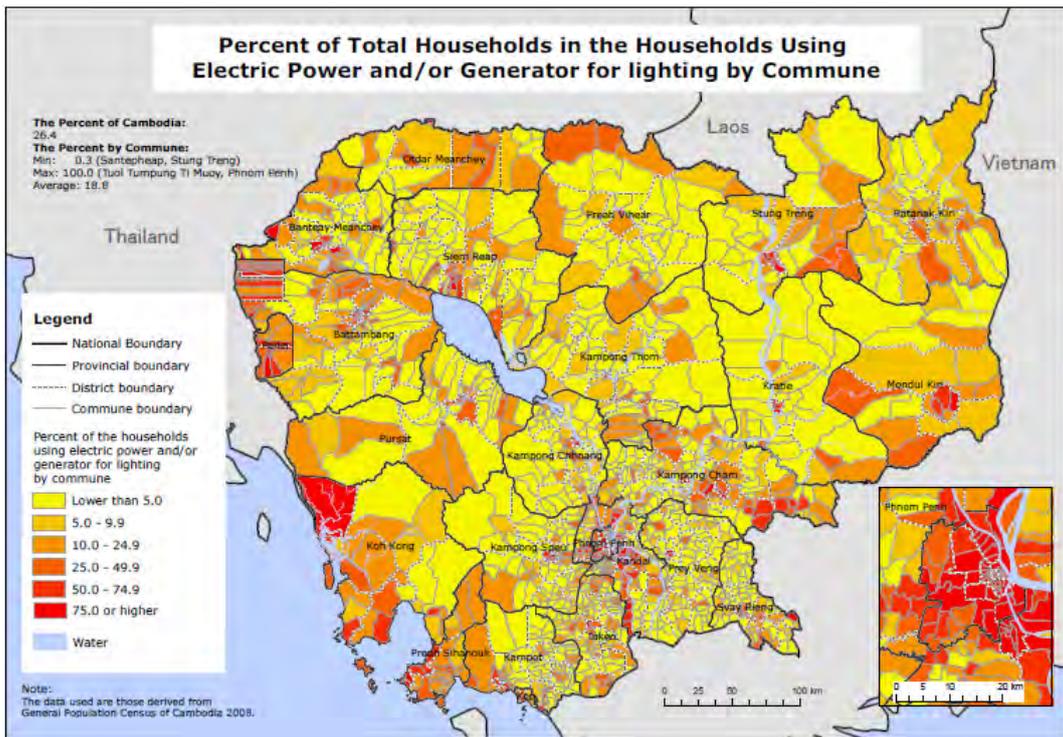
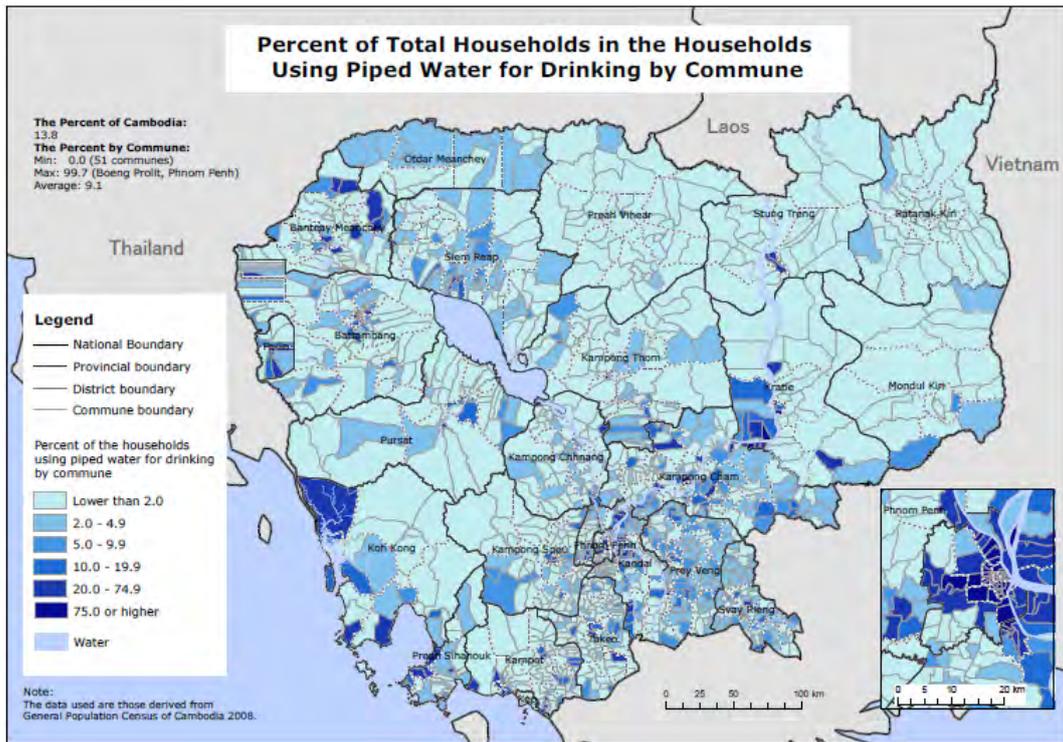
表 3-1: よりよい生活環境にある世帯の分布 (2008 年)

コード	州	全世帯数	安全な水*への アクセス (%)	トイレ ** (%)	電気 *** (%)	改善された調理用 エネルギー**** (%)
プノンペン						
12	プノンペン	250,597	85.0%	90.3%	94.8%	58.0%
平野部						
03	Kampong Cham	368,114	38.5%	24.9%	17.9%	2.4%
08	Kandal	255,029	39.0%	45.1%	37.1%	6.5%
14	Prey Veng	226,312	85.8%	15.6%	7.6%	1.4%
20	Svay Rieng	114,758	93.1%	20.4%	12.1%	3.2%
21	Takeo	183,742	36.2%	22.9%	11.8%	2.2%
Tonle Sap 部						
01	Banteay Meanchey	144,658	28.1%	34.6%	30.5%	5.0%
02	Battambang	209,702	32.0%	42.8%	25.1%	3.3%
06	Kampong Thom	133,878	22.9%	26.5%	12.0%	1.2%
17	Siem Reap	179,754	52.5%	26.5%	23.4%	7.7%
04	Kampong Chhnang	100,801	43.1%	17.8%	12.1%	1.3%
15	Pursat	83,412	23.4%	16.6%	16.4%	1.4%
海岸部						
07	Kampot	129,646	24.1%	25.6%	12.9%	1.9%
18	Preah Sihanouk	44,656	49.0%	48.6%	58.3%	12.3%
23	Kep	7,193	20.9%	24.0%	19.5%	2.7%
09	Koh Kong	24,166	34.6%	34.5%	48.3%	13.0%
高原/山岳部						
05	Kampong Speu	149,270	39.1%	17.2%	11.1%	1.8%
10	Kratie	65,323	37.7%	24.0%	14.3%	1.4%
11	Mondul Kiri	12,270	43.0%	16.2%	25.5%	5.4%
13	Preah Vihear	33,115	46.0%	10.1%	12.0%	0.8%
16	Ratanak Kiri	27,485	35.1%	18.0%	21.7%	3.4%
19	Stung Treng	20,922	30.9%	31.6%	22.1%	1.7%
22	Otdar Meanchey	38,398	41.7%	20.4%	17.6%	2.1%
24	Pailin	14,436	25.5%	37.8%	42.7%	10.8%

(出所) National Institute of Statistics, Ministry of Planning, (2009). General Population Census of Cambodia 2008

(注) * 水道、管井戸、保護された掘井戸、雨水。 ** 下水接続トイレ、下水槽、汲取トイレ。

*** 配電網、発電機、配電網および発電機。 **** 液化石油ガス (LPG)、電気。



(出所) Ministry of Planning National Institute of Statistics, “General Population Census of Cambodia 2008”

図 3-2 : コミューン別生活環境の分布

3.1.2 産業構造と雇用機会

1994年から2004年にかけて、カンボジアは高度経済成長を享受した。成長の原動力は、工

業セクター、特に、衣料である。衣料セクターの GDP への貢献は、2.0%から 45.6%と大きく拡大した。また、GDP シェアは 35%前後と変化は見られないものの、サービスセクターも、GDP への貢献度を 2.6%から 45.6%に増加させた。他方、農業セクターは、GDP シェアおよび成長率ともに低下させていることから、GDP への貢献度も 49.3%からマイナス 8.7%に激減した。

表 3-2：主要セクターによる成長への貢献度（1994-2004 年）

セクター	GDP シェア (%)		年成長率 (%)		GDP への貢献度 (%) *	
	1994	2004	1994	2004	1994	2004
農業	45.9	30.9	9.9	-2.0	49.3	-8.7
工業	13.6	28.9	14.2	16.1	20.0	56.3
製造業	8.0	21.8	9.0	17.4	7.9	45.3
衣料	0.9	16.3	25.1	24.9	2.0	45.6
アグリビジネス	5.2	3.3	8.2	-3.4	4.7	-1.6
サービス	35.4	34.4	0.6	9.2	2.6	40.7
ホテル・レストラン	2.6	4.7	19.5	23.6	5.0	12.5
GDP	100.0	100.0	9.2	7.7	100.0	100.0

(出所) World Bank, “Cambodia Halving Poverty by 2015? Poverty Assessment 2006” (2006), p.57, Table 4.1

(注) GDP への貢献度は、各年の GDP 成長率を 100%として、年成長率に前年の GDP シェアを乗じて算定している。

雇用を見ると、農業セクターは、依然として、カンボジアの労働力の 70%以上を吸収する重要な産業である。特に、農村部においては、およそ 85%の労働力が、生産性の低い、自給自足的農業に従事している。農業セクター全体として、カンボジア経済に貢献する力を低下させていることから、農業以外に生計手段を持たない農村貧困層が、貧困から抜け出すことを困難にしている。

他方、都市部の労働人口は、農村の労働人口に比べて、より高い収入を得られる工業あるいはサービスセクターにおける雇用機会がある。都市部の労働力の 80%以上が、工業あるいはサービスセクターに従事しており、都市部における貧困者比率は農村部に比してかなり低い水準である。

郡レベルでの雇用と貧困の関係に関する詳細な分析は行われていないが、雇用機会が貧困の水準に密接に関係していることが伺われる。例えば、最も貧困率の低いプノンペンでは、工業およびサービスセクターに従事している割合が最も高い。また、貧困率が高い Tonle Sap 部や高原／山岳部の州においては、およそ 80%の労働人口が農業に従事している。

また、カンボジアにおいて、工業およびサービスセクターにおける雇用機会は限定的であるため、雇用機会の地域間格差が世帯間の不平等の原因となっている。そのため、政府は、長期的に、農業に従事している労働力をより付加価値の高い製造業やサービスセクターに移行させるための取組みを行っている。

「2008年国勢調査」によれば、前回の国勢調査が行われた1998年時点と比べて、都市化率が1998年19.1%から23.28%に拡大している。これは、都市部における自然増に加えて、農村部から都市部への人口流入が要因として挙げられる。その結果、カンボジアでは、公的な「都市部」の指定地域が拡大された¹⁸。そうした国内人口移動は、都市部における労働市場と都市貧困に影響を及ぼしているものと推察される。

表 3-3：セクター別雇用シェア（2008年）

(%)					
コード	州	貧困者比率（2004年）	第1次産業	第2次産業	第3次産業
-	カンボジア	4.6	72.2	8.6	19.2
-	都市部	24.73	14.0	25.3	60.7
-	農村部	39.18	84.9	4.9	10.2
プノンペン					
12	Phnom Penh	4.6	5.3	32.6	62.1
平野部					
03	Kampong Cham	37.04	83.7	3.8	12.5
08	Kandal	22.24	61.6	19.2	19.2
14	Prey Veng	37.20	88.7	2.4	8.9
20	Svay Rieng	35.93	85.7	3.8	10.5
21	Takeo	27.71	87.6	3.8	8.7
Tonle Sap 部					
01	Banteay Meanchey	37.15	70.1	7.1	22.8
02	Battambang	33.69	76.6	5.0	18.4
06	Kampong Thom	52.40	86.3	2.5	11.2
17	Siem Reap	51.84	72.9	6.3	20.8
04	Kampong Chhnang	39.57	82.4	4.8	12.9
15	Pursat		83.8	2.5	13.6
海岸部					
07	Kampot	29.96	86.1	2.7	11.2
18	Preah Sihanouk	23.18	47.1	14.9	38.0
23	Kep		78.9	4.5	16.6
09	Koh Kong		63.6	6.9	29.5
高原／山岳部					
05	Kampong Speu	57.22	81.5	9.0	9.5
10	Kratie	46.11	82.2	3.7	14.1
11	Mondul Kiri		77.9	4.5	17.6
13	Preah Vihear		85.6	1.9	12.5
16	Ratanak Kiri		85.0	2.6	12.4
19	Stung Treng		79.8	3.5	16.7
22	Otdar Meanchey		81.3	3.0	15.7
24	Pailin		70.3	4.8	24.9

(出所) Ministry of Planning National Institute of Statistics, "General Population Census of Cambodia 2008" (2010)

(注1) 第1次産業：農業、林業、漁業

第2次産業：鉱工業、製造業、電気、ガス、水道、下水、廃棄物処理、建設等

第3次産業：卸売業、小売業、運輸・倉庫、ホテル・飲食店、情報・通信、金融・保険、不動産、行政、社会保障、教育、保健、その他サービス業

(注2) 都市部の貧困者比率は、プノンペンを除く、その他の都市部の貧困者比率

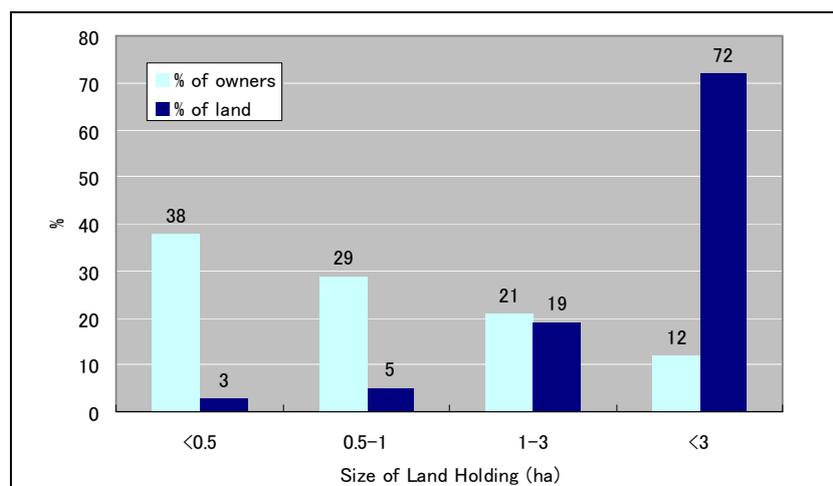
¹⁸ カンボジアでは、コミューンの人口統計上の特性により「都市部」を定義している。

3.1.3 土地配分および土地利用

カンボジアは、労働力の 71%が農業に従事する、農業主体の経済である。また、貧困層の 90%以上が農村で生活している。しかしながら、農村世帯の 40%が、1人当たり精米必要最低量である年間 165 キロの半分の生産を確保するのがやっとである、0.5ヘクタール未満で生計を立てている。人口増加圧力と農村の相続慣行は、土地の細分化を引き起こしている。同時に、困窮した農民による土地の投売りが、カンボジアにおける土地所有の二極化を生み出している。都市部の土地所有者はより投機的な土地への投資を行う一方で、農村世帯は非常に限られた土地を所有しているのみである。こうしたことから、農村世帯では、現金収入のみならず、自給自足的な農業を行うために必要な土地を所有することも困難になっているものと見られる。

政府は、農地の公平性と効率性を改善するために、政策的なイニシアティブをとっている。一つは、もとは大規模な商業用地としてコンセッションを与えた利用されていない土地を、貧困な土地なし世帯に配分する、「社会的土地コンセッション」(SLC: social land concessions)である。もう一つは、農地の脆弱性や不安定性を低下させるために、所有権の保障を向上させる、制度的な土地所有権の確定である。しかしながら、耕作のための土地へのアクセスを持たない「土地なし層」は、CSES (1997) の 12.6%から CSES (2004) 19.6%に増加している。これは、農村世帯で、非農業による生計を得るための資金を調達するために、自給自足もままならないほどわずかな土地を売ることを選好している可能性を示唆している。また、病気やその他の緊急事態に対応するために、土地を売らざるを得ない状況に陥った可能性もある。

なお、Oxfam GB の調査によれば (図 3-3)、土地の 72%が土地所有者全体の 12%の所有者により所有されており、0.5ヘクタール未満の土地所有面積の割合は 38%と、土地配分に関して深刻な不平等が存在していることを示している。



(出所) World Bank, “Sharing Growth: Equity and Development in Cambodia (Equity Report 2007)” (2007), p.55

図 3-3 : カンボジアにおける土地配分状況 (2007 年)

さらに、農村世帯においては、人的資源も技術も乏しいことから、より所得を得られる農業以外の雇用機会を得られるために、労働力を活用することが困難な状況である。その結果、農村の貧困層にとっては、土地が最も重要な資産となっている。

他方、第 1 章で述べたとおり、農地以外におけるより有望な雇用あるいは生計の機会の方が、非常に限られた農地における、自給自足的な生産性の低い農業よりも貧困から抜け出すことに効果的であるとも考えられている。そのため、土地の配分が、必ずしも、土地なし貧困層にとって最良の解決策であるということとはできない。

3.1.4 民族

カンボジアは、ラオスなど近隣国に比べて、比較的民族の単一性が高い。主要民族は、Khmer であり、人口の 95%以上を占めている。人口の 4%がその他の少数民族で構成されている。これらの民族グループは、多数民族である Khmer との関係や開発において、異なる経済的、社会的特徴を持っている。少数民族の人口が少ないことから、CSES では非 Khmer 世帯のサンプル数が少なく、CSES のデータに基づいた貧困率の推定を統計的に行うことは困難である。しかしながら、これは、少数民族が貧困でないことを意味するものではない。

カンボジアで最も貧困である民族グループは、「高地民族」(Khmer Loeu, chunchiet) と呼ばれる部族である。彼らは、森林に覆われた高地で生活しており、ベトナム国境に近い山岳部の Ratanak Kiri, Mondul Kiri, Kratie および Stung Treng に集中している。これらの民族は、それぞれ数百から 19,000 人程度の小規模なグループで構成されており、全体でおよそ 10.4 万人、人口全体の 0.1%である。

遠隔地で非常に孤立しているうえ、人口密度も低く、こうした「高地民族」は、取り残され、貧困な状況に陥っている。また、生計を、焼畑を含めた森での活動に依存していることから、非常に脆弱な状況である。さらに、言葉の障壁も、教育や保健といった社会サービスへのアクセスを阻害する要因となっている。

3.2 地政学的要因

3.2.1 地雷と ERW

第 2 章で述べたとおり、地雷および ERW は、人的被害だけでなく、貧困の発生に関わる問題に密接に関連した負の社会経済的影響を及ぼしている。

LIS 2002 によれば、地雷および ERW は、地雷・ERW 汚染地域に居住している人々の生計に対し、深刻な影響を与えている。表 3-4 は、LIS 2002 で、地雷・ERW 汚染地域に住民を対象に行った、地雷の影響に関する住民の意識調査の結果をとりまとめたものである。人々にとって、最も深刻な問題は、地雷/ERW の存在によって農地や農業生産へのアクセスが制約を受けていることである。同時に、農業生産を制約されている人々は、汚染地区において食料の採集を行わなければならない状態に追い込まれており、地雷・ERW の犠牲者とな

る危険にさらされている。さらに、生計手段が欠如していることから、子どもを含め、人々は地雷や ERW をくず鉄として売って収入を得ようとして、誤って被害を受ける危険が生じている。

表 3-4：村における地雷・ERW の社会経済インパクト（2002 年）

社会経済インパクト	合計	非常に深刻	深刻	それほど深刻ではない
十分な住宅用地がない	1,006 (61.3%)	362 (22.0%)	399 (24.3%)	245 (14.9%)
十分な農地がない	1,046 (85.7%)	767 (46.7%)	444 (27.0%)	194 (11.8%)
人的被害が多すぎる	1,283 (78.2%)	243 (14.8%)	258 (15.7%)	782 (47.6%)
家畜の損失	929 (56.6%)	55 (3.3%)	172 (14.8%)	701 (42.7%)
水へのアクセスが困難である	790 (48.1%)	47 (2.8%)	112 (6.8%)	631 (38.4%)
採集活動への影響	1,201 (73.2%)	96 (5.8%)	215 (13.3%)	890 (54.2%)

(出所) Kingdom of Cambodia and Cambodian Mine Action Centre, “Five-Year Strategic Plan 2010-2014”, p.4, Table 2.

これらより、地雷除去や不発弾の撤去は、被害のリスクおよび汚染地区の貧困リスクを軽減・排除するに当って、重要な課題となっている。カンボジア政府は、カンボジア地雷処理庁（CMAA：Cambodian Mine Action Authority）を 2000 年に設立し、こうした課題に取り組んでいる。また、地雷除去は、NSDP および CMDG にもその目標として掲げられている。

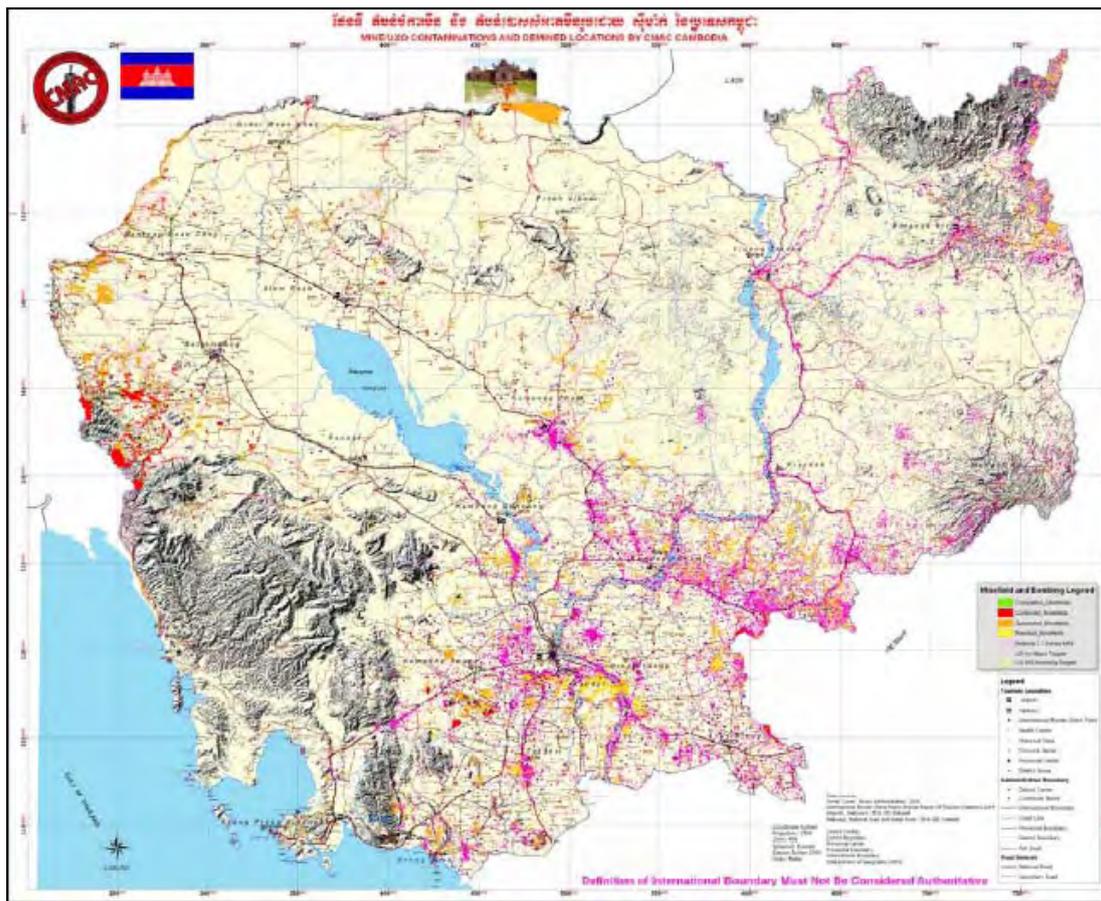
CMAC を含む、地雷除去実施機関は、技術調査、除去、地域住民に対するリスク教育などの活動を熱心に行っている。1992 年から 2008 年の間に、地雷および不発弾が除去された面積は、476.50 平方キロメートルに上る。また、地雷除去活動により、同期間において、80 万個以上の対人地雷（APMs：anti-personnel mines）および 1.9 万個以上の対戦車地雷（ATMs：anti-tank mines）が撤去された。また、1992 年以降に解体された不発弾は、170 万個に上る。

表 3-5：カンボジアにおける地雷処理の達成状況（1992-2008）

成果	CMAC	RCAF	MAG	HALO	合計
除去面積（km ² ）	227.37	170.64	26.43	52.06	476.50
対人地雷の処理数	404,523	161,636	47,405	200,634	814,198
対戦車地雷の処理数	7,657	8,337	585	2,530	19,109
不発弾の処理数	1,370,028	100,168	140,317	130,318	1,740,831

(出所) Kingdom of Cambodia and Cambodian Mine Action Centre, “Five-Year Strategic Plan 2010-2014”, p.17 Table 4.

(注) RCAF：カンボジア王国軍（Royal Comabodia Armer Force）
MAG：Mine Advisorty Group。地雷除去を専門とする NGO
HALO：HALO Trust。英国に本部を置く NGO



(出所) Cambodian Mine Action Center, “Annual Report 2008” (2008), p.1, Figure 1

図 3-4：カンボジアにおける地雷・ERW 汚染マップ（2008 年）

地雷除去および不発弾による正のインパクトとしては、多くの人々が再定住や生産活動に利用できる土地へのアクセスを得られるようになったことや、地雷や不発弾の爆発により被害者となることが防止されたことが上げられる。CMAC の報告書¹⁹によれば、CMAC はおよそ 4,500 の地雷原における除去を行い、地方政府を通じて人々に土地を引き渡した。これにより、地雷除去の直接的な便益として、117,900 以上の世帯が生計のための安全な土地を手に入れることができ、138,800 人の学生が安全に通学できるようになった。さらに、500 万世帯以上が、地雷除去のプロセスにおいて間接的な便益を受けている。

しかしながら、カンボジアにおいては、依然として汚染が疑われる土地の 90%が残っており、地雷除去および不発弾処理の継続的な取組みが、貧困削減の重要な課題の一つとなっている。

3.2.2 自然災害

カンボジアにおいては、国民の大多数が天水農業に依存し、季節性の洪水氾濫を受けやす

¹⁹ Cambodia Mine Action Centre, “Ten Years: Achievement and Perspective: 2000-2009-2014”, p.7

い河川などの地域に居住しているため、特に、貧困層は自然災害に対して脆弱である。2000年に発生した大規模な洪水は、カンボジア史上、最も甚大な被害をもたらしたと言われており、コメを含む農業生産や農村インフラ、家屋に損害を与え、全体で44.4万ヘクタール、すなわちほとんどの州の半数以上の農地が影響を受けたと見られている。

また、旱魃、凶作および自然火事などの自然災害も、農村貧困層の生計に影響を及ぼしている。

貧困層は、こうした自然災害による損害を緩和する、また、損害に対応する能力に乏しいことから、自然災害によって更に深刻な貧困状況に陥るリスク、脆弱性が高い。

3.3 グローバル化における要因

3.3.1 出稼ぎ労働者および人身売買と海外送金

カンボジアからの海外への人口移動は、国内に比べると限定的である。また、2008年国勢調査によれば、海外への人口移動は1998年21万人から2008年9.48万人に減少している。農村からの人口移動の要因は、村落内における土地へのアクセスが限られていることから、より良い生計を求めて土地を離れることにある。

表 3-6：移住者の動向（1998 および 2008 年）

移動前の居住地	移住者	
	1998	2008
移住者数	3,597,769	3,552,173
同じ州内	58.84%	51.34%
他州	35.31%	45.99%
カンボジア国外	5.85%	2.67%
合計	100.00%	100.00%

(出所) Ministry of Planning National Institute of Statistics, “General Population Census 2008”, Table 6.2

カンボジアの出稼ぎ労働者にとって、最も重要な国はタイであるが、出稼ぎ労働者のほとんどは正規に登録されていない。国際移住機関 (IOM : International Organization of Migration)²⁰によれば、カンボジアからタイへの出稼ぎ労働者の90%以上が、不法労働者である。2005年10月時点で、公式に登録された出稼ぎ労働者は182,007人であり、タイへの出稼ぎ労働者の13%に当たる。カンボジアからの登録されていない労働者数は把握されていないが、登録労働者の数と同数ぐらいであると推定されている。

国境管理が必ずしも厳しいとは言えないタイと国境線を長く接していることから、カンボジア北部の州とタイ側の州の間で、出稼ぎ労働者の国境を越えたネットワークが存在している。タイへの合法および非合法の出稼ぎ労働者の多くは、漁業、建設および農業に従事

²⁰ International Organization for Migration, “Review of Labor Migration Dynamics in Cambodia” (2006)

している。

タイ以外では、マレーシアおよび韓国への出稼ぎが多く、マレーシアはカンボジアのイスラム系の少数民族である Cham の出稼ぎ先となっている。マレーシアへの出稼ぎ労働者のほとんどが家事労働を行う女性である。他方、韓国への出稼ぎ労働者は、帰国後にカンボジアで活用できる新たな技術をカンボジアからの労働者が取得できる「研修員制度」による、制度化されたものである。

しかしながら、非合法の出稼ぎ労働者には、人身売買された強制労働者も含まれている。国連難民高等弁務官事務所（UNHCR : United Nations High Commissioner for Refugees）²¹によれば、カンボジア政府は 2008 年 2 月に人身売買禁止法令を施行したものの、カンボジアは商業性産業や強制労働のための人身売買のための、供給地、中継地、かつ受入地になっている。

他方、国際的な出稼ぎ労働者は、海外送金をもたらしている。WB の「人口移動および海外送金動向 2007 年版（Migration and Remittance Factbook 2007）」によると、カンボジアへの海外送金はおよそ年間 298 百万ドルであり、これは GDP の 4.1% に相当する。公式統計は登録された送金のみを反映したデータであり、登録されていない送金額は、海外送金額全体のおよそ 50% を占めると推定される。

海外送金は、主に、食料、保健医療費やごく小額の生産的投資といった生活費に使われている。出稼ぎ労働者による海外送金は、地域経済にとってはプラスの影響を及ぼしているものと考えられる。

3.3.2 貿易自由化

1993 年以降、カンボジア経済は、民間投資、特に外国直接投資（FDI: foreign direct investments）などの自由化を含む、市場経済化に向けた政策により、成長してきた。しかしながら、そうした投資は、衣料、観光および建設と言った、非常に限られたサブセクターに集中してきた。

貿易自由化による雇用への影響もまた、限られた範囲に集中したものであった。UNDP の報告書(2004)²²によれば、観光を含む輸出セクターにおける雇用は、労働力全体の 6~7% に過ぎず、農村の半失業に一定の影響を及ぼすには、過去の高成長率を維持する必要がある。また、カンボジアで最も高い経済成長率を示した、衣料産業における雇用の伸びは、全体のわずか 3% に留まっている。

そのため、カンボジアにおける経済成長は、成長セクターが立地する極めて限られた範囲

²¹ United Nations High Commissioner for Refugees, “Trafficking in Persons Report 2009-Cambodia”

²² United Nations Development Programme, “The Macroeconomic of Poverty Reduction in Cambodia” (2004)

に裨益したのみであった。言い換えれば、貿易自由化は、こうした成長セクターにおける雇用にアクセスできた都市部の一部においては貧困削減にインパクトがあったが、農村部の貧困削減のインパクトはほとんどもたらさなかった。

他方、そうした輸出志向型産業は、当該産業および関連産業における直接および間接雇用への大きなインパクトを及ぼす可能性を秘めている。しかしながら、そうした輸出志向型産業は、外的ショックに脆弱であり、安定性に懸念がある。

3.3.3 アジア地域における外国投資および経済危機の影響

世界的な金融危機は、カンボジア、ベトナム、ミャンマーなどの移行経済にも影響を及ぼした。カンボジア経済は、輸出産業および衣料産業、観光業、建設業への外国投資により牽引されていたが、2007年には10.2%、2008年には7%の落込みを経験した。2008年のWBの報告書によれば、そうしたショックは、経済見通しを不安定なものにしている。実質GDPは、2009年にも4.9%落ち込む見通しである。政府は、(イ) コメ、(ロ) 衣料、(ハ) 建設、(ニ) 観光の4つの産業を、成長を牽引するセクターとして、課題に取り組んでいる。なお食料費の高騰はインフレ圧力となっていたが、燃料費および食料費の下落は、消費者物価の上昇を減速させる見通しである。

金融危機のインパクトは、工場閉鎖とそれに伴う解雇の増加や収入と海外送金の著しい減少という形で表れている。カンボジア経済研究所 (EIC : Economic Institute of Cambodia) の衣料産業に関する報告書によると、2008年には、衣料産業の労働者の給与50百万ドルが農村の経済活動を支えていたが、商業省 (Ministry of Commerce) が発表した公式統計では、米国およびEU向け衣料品輸出は、2007年に比して2008年は2%減少しており、そのため、衣料工場の閉鎖も見られている。所得の喪失を伴う失業の増加は、不良債権や債務不履行の増加や預金引出の増加の懸念をもたらしている。また、少しずつ増えてきた預貯金が、今後鈍る可能性もある。

第4章 社会保障メカニズム

4.1 公的保障

4.1.1 社会保険プログラム

カンボジアの公的社会保険制度を所管しているのは、社会問題・退役軍人・青少年更正省（MOSVY : Ministry of Social Affairs, Veteran and Youth Rehabilitation）、労働省（MOL : Ministry of Labor）および保健省（MOH : Ministry of Health）である。公務員、退役軍人、民間被雇用者、自営業者（農民を含む）が対象とされ、年金、医療保険、労働災害保険、傷病保険、妊娠手当などの支給が行われている。なお、手当での支給条件は、それぞれ異なっている。

(1) 公務員・退役軍人社会保障制度

年金、傷害保険、妊娠保険、死亡保険、労働災害および扶養家族保険が、公務員に対して給付される²³。このうち、年金および傷害保険は、MOSVY の経常予算から直接支給され、その他の給付は、所属省庁・政府機関から支払われることになっている。2009 年末時点で、年金受給者は 32,372 人であり、退役軍人の受給者は 88,661 人に上る。年金の受給に当たって月額保険料の支払いは不要であった。

これらの年金・保険・諸手当は給付額が低く、また支払いも遅延していたことから、カンボジア政府は 2008 年初めに公務員向け国家社会保障基金（NSSFC : National Social Security Fund for Civil Servants）の設立を認可した。NSSFC は、前述の社会保護項目に対して経済財政省（Ministry of Economy and Finance）から予算配分を受け、給付を行っている。公務員の月額基本給の 6% が保険料として天引きされ、18% が雇用者によって別途支払われる。NSSFC は MOSVY の内部に設置されており、従前の社会保障制度からの移行期にある。

(2) 民間被雇用者社会保障制度

労働法（Labor Law、1997 年改正）に準拠して、老齢年金・障害年金・遺族年金・労働災害手当に関する指針を規定する社会保障法（Social Security Law）が 2002 年に承認された²⁴。また、民間被雇用者向けの国家社会保障基金（NSSF : National Social Security Fund）の設立に関する関連法が 2007 年に成立している²⁵。NSSF は、事務および財務に関する権限を有する法的組織であり、2008 年初めから会社組織および被雇用者双方の登録受付を開始し、同年末には会社組織より保険料の徴収を開始した。2010 年 5 月現在、1,390 社 43.5 万人が NSSF に加入している²⁶。給付対象は、医療費手当、交通費、一時的障害手当、保育手当、終身障害手当、葬儀費用、遺族手当、およびリハビリ手当である。8 人以上の従業員を雇用している企業・事業所は、NSSF への登録と労働災害制度に対して被雇用者の月額基本給の 0.8%

²³ 国勢調査 2008 年によると、政府被雇用者は全国で約 155,000 人である。

²⁴ Law on Social Security Schemes for Persons Defined by the Provisions of the Labour Law (September 2002)

²⁵ Sub-Decree No.16 GRD (2007)

²⁶ 2009 年に実施された全国事業所名簿整備調査によると、2009 年 2 月 9 日時点でカンボジアには 375,095 件の事業所が存在している。

の拠出²⁷を義務付けられている。なお、今後の予定として、保健医療制度が 2011 年に、年金制度が 2013 年に、それぞれ開始されることとなっている。

(3) 農民を含む自営業者

保健省は、国民の大多数を占める農民や自営業者などインフォーマルセクターに従事している労働者向けの社会医療保護プログラムを実施している。しかしながら、国民皆保険といった包括的な医療保険制度はカンボジアではまだ導入されていないため、カンボジア政府は、国の枠組みに地域社会が参画した将来的に持続可能かつ低コストの包括的モデルを導入すべく、予算の確保を急いでいる。

4.1.2 医療保険制度

医療保険は、カンボジアにおいては公的セクターによって十分にカバーされていない分野である。包括的な医療保険制度が存在していないため、患者は医療費を自己負担しなければならず、特に貧困層にとっては大きな負担となっている。深刻な貧困状態にある住民は集落から離れた僻地に居住しており、医療機関への交通費の負担も困難な状況にある。現状の医療保険制度は以下のとおりである。

(1) 公平な健康基金 (Health Equity Fund)

公平な健康基金は、保健セクター支援プロジェクト (2004-2008年) により開始された新たな制度であり、医療費負担が非常に困難な貧困患者の治療に対し、医療施設への還付を行うものである。これは、2000年頃から保健省が取り組み始めた新しい試みで、米国国際開発庁 (USAID : United States Agency for International Development) やベルギー開発庁、WB、アジア開発銀行 (ADB : Asian Development Bank)、英国国際開発省 (DFID : UK Department for International Development)、オーストラリア国際開発庁 (AusAID : the Australian Government Overseas Aid Program) などのドナーが支援を行っている。公平な健康基金は病院での医療費だけでなく、交通費、同伴者の食費に利用され、医療費を負担できない貧困ライン以下の貧困層の31%に裨益している²⁸。しかしながら、現在パイロット事業が行われている50郡における貧困層の半数程度をカバーしているのみであり、貧困層全体への普及が強く望まれているにもかかわらず、普及に向けた明確な方針は未だ示されていない。

(2) 地域健康保険制度 (CBHI : Community Based Health Insurance)

地域健康保険制度は国内・国際 NGO およびマイクロファイナンス機関により運営されており、加入者数は 2008 年の 8 万人から 2009 年には 12.3 万人に増加している。地域健康保険制度の想定対象者は、最低限の保険料を支払うことができるものの、やや貧困寄りの層であるが、実際にカバーされているのは対象人口の 1%未満に留まっている。

²⁷ Prakas No. 108 KB/ KRB (2008 年 6 月 16 日付け)「就労リスクに関する拠出金支払いに係る拠出率および手続きに関する決定」。Prakas No.133 KB/KRB (2009 年 6 月 29 日付)「2009-2010 年度衣料および製靴企業・事業所による就労リスク拠出金」2009-2010 年以降は、衣料および製靴企業・事業所の拠出率は、0.8% から 0.5%に引き下げられる。その他 0.3%は、カンボジア政府により支払われる。

²⁸ Dr. SOK Kanha, Vice Director of Planning Department, Ministry of Health (2010 年 6 月 19 日インタビュー)

カンボジアにおいては、基本的な保健サービスを受けるための機会費用や実際の利用コストが高く、1人当たり年平均40ドルに上るが、その3分の2を自己負担とすることを余儀なくされており、貧困層にとって重い負担となっている²⁹。

4.1.3 その他の社会保障政策

その他政府の社会保護分野における施策は、関連各セクターを所管する省庁が推進している。教育・青少年・スポーツ省による奨学金事業、保健省による栄養事業、経済財政省による緊急食料配布などがこれに該当する。各省庁は、社会保護に関するマスタープラン、戦略、行動計画を策定している。その中でも農業農村開発委員会（CARD：Council for Agricultural and Rural Development）が中心となって計画を行った『貧困層および弱者層を対象とした国家社会保護戦略』（National Social Protection Strategy for the Poor and Vulnerable）は、最新かつ最初の戦略であり、社会保障に関する既存の制度をすべて網羅している。CARDは1998年末に設立され、農業農村開発における政府優先セクターの実施支援を行い、農村貧困層の生活水準の向上を図ってきた組織であり³⁰、上記社会保護戦略の今後の普及・実施に当たってもカンボジア政府からその責任を与えられている。同戦略においては、2015年までの方針として、長期的な貧困削減目標の達成に貢献するとともに、カンボジアと国民が直面している危機への短期的な緊急対応として、社会保障への投資を促進することとしている。

4.2 準公的保障

カンボジアにおいては、貧困層の多くが農村地域に居住しているが、同地域における公的な金融市場は依然として整備が十分ではない。このため、貧困層の公的金融サービスへのアクセスは非常に限られており、高利貸しなどインフォーマルな貸付市場への依存が散見されている。

4.2.1 マイクロファイナンス機関の規制と商業化

カンボジア国営銀行（NBC：National Bank of Cambodia）は、マイクロファイナンス機関（MFI：Microfinance Institute）の規制を行うことにより、マイクロファイナンスを金融市場に統合するために先導的な役割を果たしており、効率的な運営のために新商品や関連金融インフラの開発を認可している。優先課題の一つは、MFIがその活動拡大に必要な資金調達を行えるよう、商業銀行との連携を支援・促進することである。銀行・金融機関法（Law on Banking and Financial Institutions、1999年）などの法律は、金融機関の機能、義務や権限、MFIの枠組みを規定しており、また「金融セクター開発戦略 2006-2015」（Financial Sector Development Strategy 2006-2015）は、全国における効果的なマイクロファイナンスおよび農村金融の実施に向けて、預金者保護制度の更なる改善・見直しを行い、銀行法および規制

²⁹ Council for Agricultural and Rural Development (2010). “National Social Protection Strategy for the Poor and Vulnerable.” ,P.26,

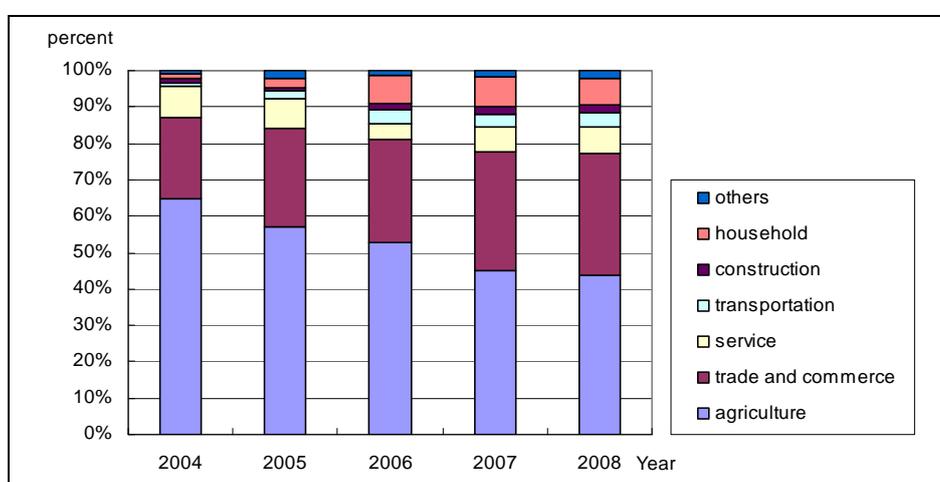
³⁰ 事務局長1人、副事務局長13人の下に7つの部局（計画・国際協力局、食料保全・栄養局、農業局、農村開発局、水資源局など）が連なる。

の包括的な見直しが必要としている。

前述の銀行・金融機関法によって、マイクロファイナンス活動を行う組織は、NBC への MFI 登録または免許取得が義務付けられることになった³¹。2008 年末時点において、免許を得た MFI は 18 機関³²、登録を行った機関は 26 機関（農村信用機関を含む）となっている³³。NBC は、一定の要件を満たした MFI を預金受入 MFI（MDIs：Microfinance Deposit-taking Institutions）として免許を交付し、一般から預金を集めることを認めている³⁴。

4.2.2 セクター別マイクロファイナンス

MFI18 機関によるマイクロファイナンスの用途セクターもしくはビジネスモデルを見ると、2008 年時点、農業が最も多く 43.8%を占め、商業が 33.3%でこれに続く。



（出所） Developed based on Banking Supervision Department, National Bank of Cambodia, Annual Report 2008

図 4-1：マイクロファイナンスの利用目的の変化

マイクロファイナンス市場規模は 2004 年（約 1,262 億リエル）から 2008 年（約 1 兆 1,305 億リエル）にかけて約 8 倍となっており、なかでも農業向け貸付残高は 2004 年以降 5 倍に

³¹ 詳細については、別添 2 を参照のこと。

³² AMRET Microfinance Institution (旧名 EMT)、Angkor Mikroheranhvatho (Kampuchea) Co. Ltd (AMK)、Cambodian Business Integrate in Rural Development Agency (CBIRD)、CHC-Limited (former Credit Program of the Cambodian Health Committee)、Cambodia Rural Economic Development Initiatives for Transformation (CREDIT)、Entean Akpevath Pracheachun (EAP)、Farmer Union Development Fund (FUDF)、Farmer Finance Ltd. (FF)、Green Central Microfinance (GCMF)、Hattha Kaksekar Limited (HKL)、Intean Poalroath Rongroeurng (IPR)、Maxima Mikroheranhvatho Co.Ltd (MAXIMA)、PRASAC MFI Ltd (PRASAC)、SATHAPANA Limited (SATHAPANA)、SEILANITHIH Limited (SEILANITHIH)、Tong Fang Micro Finance Ltd. (TFMF)、Thaneakea Phum Cambodia (TPC)、VisionFund Cambodia (VisionFund)。2009 年末現在、Chamroeun と SAMIC Microfinance (SAMIC)が追加されている。

³³ 詳細については、別添 2 を参照のこと。

³⁴ 2007 年 12 月以降。MFI の最低資本金は 250 百万リエル（62,500 ドル）であるのに対し、MDI の最低資本金は 100 億リエル（2.5 百万ドル）と定められている。2009 年 3 月時点で要件を満たした 2 つの MFI が MDI としての免許を交付されたが、制度自体は依然として移行期間にある。

増加している（2004年 818 億リエル、2008年 4,953 億リエル）。全市場におけるシェアが増加しているのは建設、交通、家庭での利用である³⁵。これは、世帯家屋の建設や交通手段の確保、家庭での緊急時の対応などに費やす機会が相対的に増えていることを表しており、マイクロファイナンスがその市場規模拡大に伴い、利用者の主な生計手段を支えるための基本的な資金確保だけでなく、生計の多様化に伴い多様化する住民の生活ニーズにより柔軟に対応していると考えられる。

2004/2005年に Cambodia Development Resource Institute (CDRI) が行ったパネル調査からも、年々借入金の使途が変化していることが伺える。635 のパネル世帯の借入金の 55%以上がビジネスや農業を含む生産目的であり、なかでも農業向けが 45%を占めている。38%が食料不足といった何らかのショックや病気への対応に利用されており、その内訳は 23%が食料不足の解消、15%が医療費の支払いである。より貧困かつ低下傾向にある世帯では、ショックや食料不足の解消のためにローンを借り入れている。また、より状況が悪化したり、恒常的に貧困状態にある貧困層は、生産目的で借入をおこなうことはほとんど無く、むしろ食料の購入や医療費、他債務の支払いに活用している。さらに、最貧層は何らかのショックを少しでも和らげるために借入を行う傾向にあり、貸付はむしろ保険の役割を果たしている。

カンボジアにおいては、法整備に後押しされる形でマイクロファイナンス市場が拡大し、これに従事する要員の確保や育成の促進や組織体制の強化が促進され、今後より良質かつ多様なサービスが貧困層に対しても提供されることが期待される。



Box 1: ある漁師の場合

小さなビジネスを始めようと借りた資金は、Vanna と彼の妻 Sroeng、そして 4 人の子どもがより良い生活を営む助けになった。

5 年前、Kandal 州のこの家族はごく小さな家に暮らしていたが、あまりにも小さな家であったので、いずれ 4 人の子どもを育てるのは難しくなると考えていた。2004 年に、この夫婦は 75 ドルの釣竿を買うのに借入をした。彼らが借りたマイクロファイナンスは 2008 年までに 500 ドルに増え、預金もできるようになった。彼らは、船や、網も買い、販売用に豚や鶏も飼い始めた。

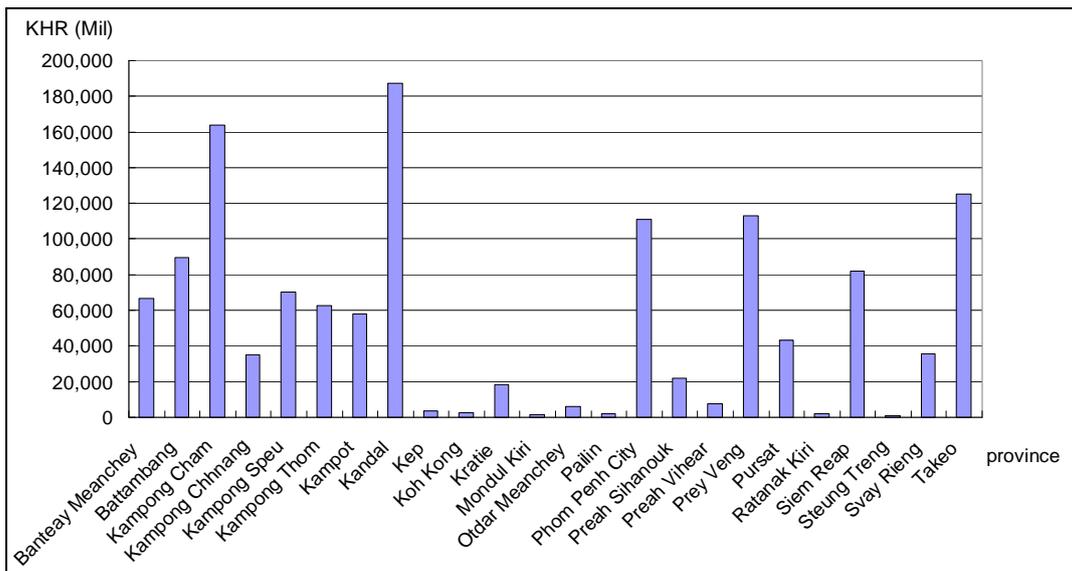
最初に融資を受けるまでは、Sroeng は 1 日に 0.50~0.75 ドルを稼いでいた。「今ではおかげで 1 日 5~7.50 ドルを稼ぐわ」と Sroeng。「私たちは、もっと良い家、自転車、バイクも手に入れ、子どもたちは他の子どものように学校にも行っているわ。私たちはもう、貧しいことを恥ずかしいとは思っていないの」

(出所) <http://www.cambodia-mfi-forum.info/> (Accessed in June 2010)

³⁵ 詳細については、別添 2 を参照のこと。

4.2.3 州別マイクロファイナンス動向

2010年3月現在で、MFI20機関とNGO1機関の貸付残高と預金のバランスを見てみると、融資の提供およびサービス地域に関して、明確な地域間格差がある。プノンペンおよびその周辺州（Kandal、Kampong Cham、Prey Veng など）では貸付残高が最も多いが、ラオス・ベトナム国境近くの Otdar Meanchey、Preah Vihear、Stung Treng、Ratanak Kiri、Mondul Kiri 州、海岸部の Pailin、Koh Kong および Kep 州では、貸付残高は最も少なくなっている。このうち Stung Treng、Ratanak Kiri、Mondul Kiri では、マイクロファイナンス利用者数も絶対的に少なく、1,000～2,000 人台に留まっている。（図 4-2、図 4-3 および別添 2 参照）。



(出所) Cambodia Microfinance Network ウェブサイト (<http://www.cma-network.org/information.htm>)
(2010年6月現在)

図 4-2 : 州別マイクロファイナンス貸付残高

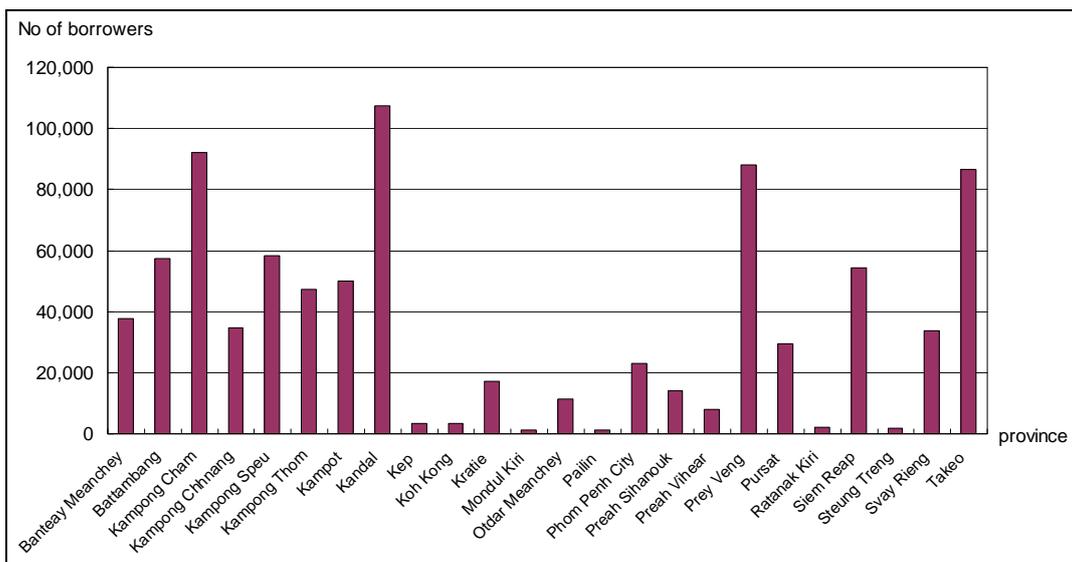


図 4-3 : 州別マイクロファイナンス借入者数

これらの地域の貧困率を見ると、Preah Vihear、Stung Treng、Ratanak Kiri においては貧困率が 40%を越え、Otdar Meanchey、Mondul Kiri では 37%前後である(第 2 章 表 2-1 参照)³⁶。これらの地域間格差が生じる背景には、これら山岳・遠隔地域の貧困層へのマイクロファイナンス機会提供が地理的アクセスの問題によって困難となっていること、同地域の貧困層の潜在的資金ニーズが効果的に汲み取られていないこと、当該地域にサービスを拡大してもなお MFI としての組織財務健全性を確保するためには更に組織規模や資金規模を拡大する必要があることなどが今後の課題として挙げられる。

MFI の支店・支所の営業が地域によって限られる中、支店・支所を持たずに営業を行っている MFI は、借入人の返済活動や事業実施状況のモニタリングを、地元組織や地元パートナー機関、村落貸付グループにある程度依存せざるを得ない。こうした状況下では、特に高原・山岳地域において、道中のアクセスの困難さに加え、銀行の支店・支所や ATM もない村にプノンペンから資金を運んだり、あるいは預金者から集めた預金を管理することは MFI にとって必ずしも安全な行為とはいえ、金融セクター全体の全国的な未整備が MFI の地方進出を足踏みさせる大きな要因ともなっている。

なお、国全体の貸付残高の平均額は 362 ドルであり、男女比で見ると Mondul Kiri (43.2%) と Ratanak Kiri (28.4%) を除くすべての州で女性の融資利用者が過半数を超え、74.1~89.6%となっている。

4.2.4 公的金融セクターによるマイクロファイナンス活動

カンボジアの他の商業銀行とは異なり、ACLEDA Bank Plc は、零細・中小の起業家が効率的に資金を管理し、生活の質を向上させるための融資を行うことをその使命としている。

BOX 2 : NGO から商業銀行へ : ACLEDA Bank の事例

ACLEDA は、国内 NGO として 1993 年 1 月に設立され、零細・小企業育成・融資を行ってきた。

2000 年に特別銀行としての免許を取得し、ACLEDA Bank は、全ての州および町においてサービスを提供するためにそのネットワークを拡大し、資本金を 3 倍の 13 百万ドルに増資した後、ACLEDA Bank Plc.として、2003 年に商業銀行に転換した。

これにより、NGO という位置づけでは欠いていた法的に安定した枠組みが与えられただけでなく、コアとなるマイクロファイナンス事業の拡大を支える資金調達の実施方法を広げることとなった。

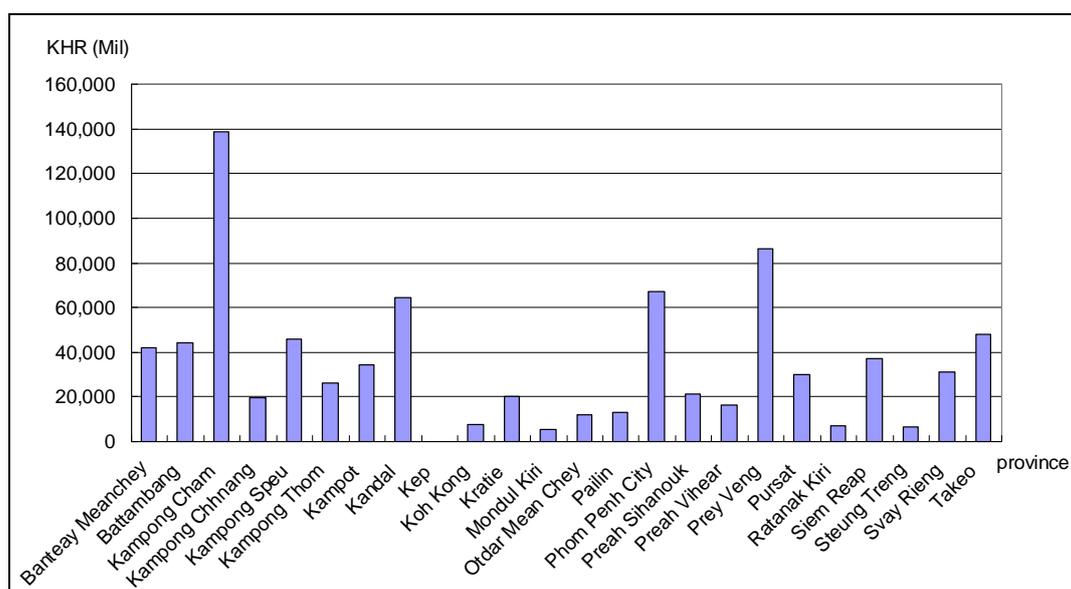
2008 年末時点で融資は 5 億 9 千万ドル、融資利用者は 253,186 人にのぼる。このうち 55.67%が女性である。2009 年 6 月時点で ACLEDA Bank は払込資本金を 68.15 百万ドルに上げた。

ACLEDA Bank の本社はプノンペンにあり、全国 223 支店・支所に 7,084 人の従業員を抱える。現在のサービス地域は Phnom Penh、Banteay Meanchey、Battambang、Kampong Cham、Kampong Chhnang、Kampong Speu、Kampong Thom、Kampot、Kep、Kandal、Koh Kong、Kratie、Monduliri、Otdar Meanchey、Pailin、Preah Vihear、Prey Veng、Pursat、Rattanakiri、Siem Reap、Sihanouk、Stung Treng、Svay Rieng および Takeo である。

2008 年 7 月に、ACLEDA Bank はラオスのビエンチャンに最初の海外子会社(商業銀行)を設立し、その後 Savannakhet・Champasak に支店を開設した。

³⁶ 州別マイクロファイナンス貸付残高・借入者数と貧困率との比較参照については、別添 2 についても参照のこと。

ACLEDA Bank は、小額融資（零細・小規模事業向け融資）と高額融資（中規模事業・企業向け融資、個人融資、住宅融資その他）を取り扱っている。ACLEDA Bank は小額融資と高額融資を併せて行い、かつ融資対象を貧困層や特定の用途に絞らないことで一定の資金需要および預金残高を各州で確保し、これによって貧困層にも多様かつ多くの資金機会を提供することに成功している。小規模融資のみを見ると、ACLEDA Bank は 2010 年 3 月現在、Kep を除く 24 州で融資利用者 224,229 人に対し、8,244 億リエルの融資を行っている。これは、カンボジアの全てのマイクロファイナンスの貸付残高の 63%、融資利用者では 26% に相当する。小額融資件数のうち 165,109 件は零細事業融資であり、平均融資額は 421.23 ドル³⁷となっている。



(出所) Cambodia Microfinance Network ウェブサイト (<http://www.cma-network.org/information.htm>) (2010 年 6 月現在) および ACLEDA Bank 提供資料 (2010 年 5 月) により作成

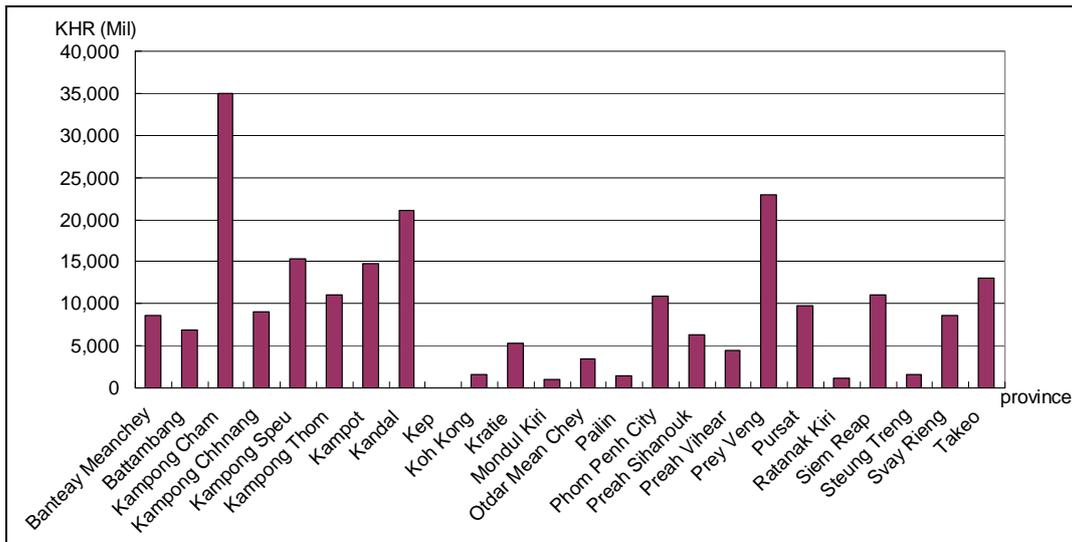
図 4-4 : ACLEDA Bank の州別貸付残高

なお、組織力を誇る ACLEDA Bank にあっても Mondul Kiri や Ratanak Kiri、Steung Treng といった貧困率が高い州での利用者数は 1,000 人前後に留まっており、こうした山岳・遠隔地域における貧困者支援の困難さが浮き彫りになっている³⁸。

金融セクターの全国的な整備が推進されることによって MFI の遠隔地での活動も推進され、引いては貧困層に多様な選択肢を提供できることから、ACLEDA Bank だけでなく他銀行の積極的な地方展開が今後も期待される。

³⁷ 小規模事業融資の平均融資額は 2,154 ドル、融資利用者は 59,120 人である。

³⁸ 詳細については、別添 2 を参照のこと。



(出所) Cambodia Microfinance Network ウェブサイト (<http://www.cma-network.org/information.htm>) (2010年6月現在) および ACLEDA Bank 提供資料 (2010年5月) により作成

図 4-5 : ACLEDA Bank の州別借入者数

4.2.5 マイクロ保険

貧困者は、将来のリスクに備え、死亡や疾病、資産の損失といったショックに対応するものとして、貯蓄の重要性は理解しているものの、日々の厳しい生活では貯蓄に回す余裕はなく、そのためカンボジアにおいてはマイクロファイナンス利用者による預金はあまり行われていない。こうした中、最低限度額の保険料を負担することが可能な、貧困層に近い低所得者層を対象として地域医療保険事業が試行され、2008年時点で国内・国際 NGO および MFI³⁹による 12 の地域医療保険事業が実施されている。これらの事業は主に GTZ などのドナーによる支援を受けて推進されてきたが、その効果や商品デザイン、価格などについての統一した結論に至っておらず、国全体での統合や主流化は進んでいない。加入率は対象人口の 1%未満に留まり⁴⁰、2008年にはおよそ 8 万人、2009年には 12.3 万人程度となっており、質・量の両側面において貧困層のショックを緩衝する役割は果たせていない。

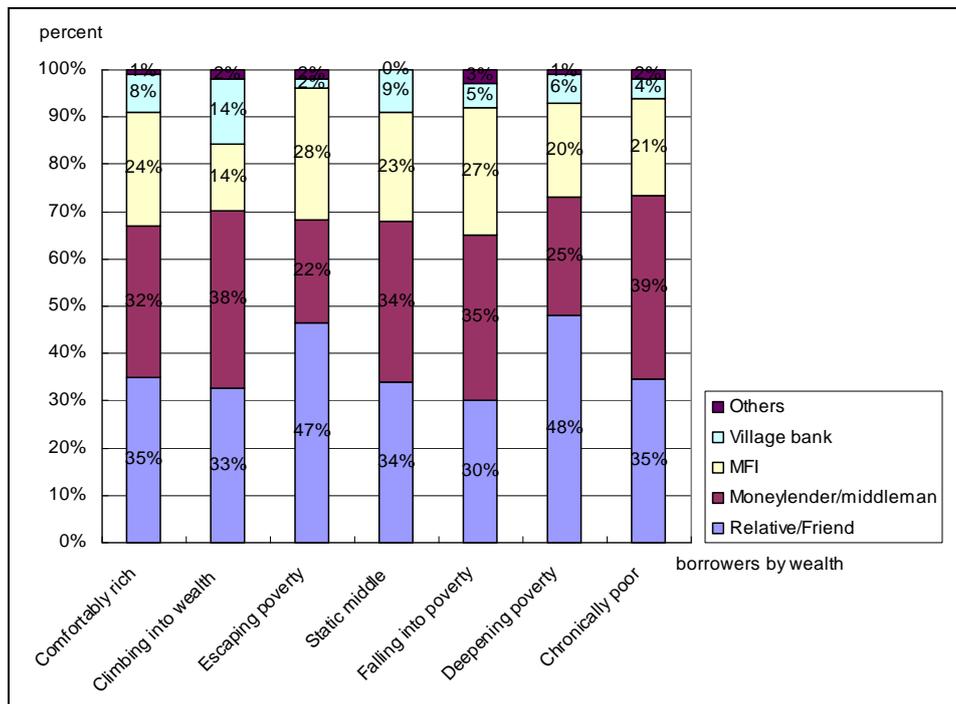
4.3 インフォーマルな保障

2004/2005年まで、ほとんどの村において MFI や ACLEDA Bank、NGO によって運営される貸付事業が少なくとも一つは提供されていたものの、硬直的な条件や返済スケジュールのため、こうした事業の多くはあまり成功していない。世帯の大多数は、他にも資金源は増加し、公的な融資機関よりも高い金利を提示されるにもかかわらず、融資条件があまり厳しくないことから、友人・親戚・高利貸しから借入を行ってきた。

³⁹ World Vision Cambodia, Measure for Accelerate Development for All (MEADA), GRET など。

⁴⁰ Council for Agricultural and Rural Development (2010). National Social Protection Strategy for the Poor and Vulnerable.

CDRI の 2004/2005 年のパネル調査では、890 のパネル世帯の 71% に借金があり、友人や親戚、高利貸し、MFI、村落銀行など異なる借入先から平均 2.3 件の借入を行っていることが明らかになっている。恒常的貧困層は、他の世帯に比べて、仲介業者や高利貸しから借入を行う傾向が同調査結果に見られた（図 4-6 参照）。最貧困層や最貧困村は、現物返済を行っている。また、ほとんどの村で、利率が低いことは評価されているものの、ACLEDA Bank や NGO が提供する貸付は融通が利かないとされている。最も貧しい村では、より富裕な世帯以外は、土地やその他の資産による担保の提供などの融資要件を満たすことができないため、これらの機関は相手にしてくれないといわれている。



(出所) Cambodia Development Research Institute, “Moving Out of Poverty?” (2007)

図 4-6：融資資金の提供者

第5章 貧困削減のモニタリング

5.1 CMDGs の達成状況

カンボジア政府は、同国の実情に合わせ、カンボジアミレニアム開発目標（CMDGs）を設定している。CMDGsには、国際的に共通のMDGに地雷除去を加えた9つの目標を掲げ、25の包括的な目標値と106の細目に関する目標値が示されている。CMDGsは、現在、NSDPの一部として統合されている。NSDPに統合されることによって、国家開発の優先課題の実施状況およびCMDGsの達成状況のモニタリングに重点が置かれることとなった。最新のNSDP 2006-2013は、社会保障、気候変動、青年層の人口動態の変化、経済停滞をもたらしている経済的、財政的制約などの新たな課題を反映し、CMDGsの達成に向けたセクター横断的な活動を促進している。

106の細目目標⁴¹のうち、23は国際的なMDGsの指標を反映しており（表5-1参照）、それ以外の指標はカンボジアの実情に合わせて入れ替えられている。

既に確認されているCMDGsの達成状況の概要は以下のとおりである。なお、2010年には国連総会においてCMDGsの達成状況に関する報告がカンボジア政府によって行われる予定である。

5.1.1 CMDG 1：貧困・飢餓の撲滅

CMDGsの開始以降、都市部およびアクセスの良い農村において、貧困者比率は大幅に改善している。近年の食料価格の高騰や世界的な経済危機は、都市部、都市周辺部および農村部の栄養状態や購買力に負の影響を及ぼしている。他方、富裕層と貧困層の格差は拡大し、カンボジアの最貧層によるサービスへのアクセスの障壁となっており、また、資産5分位の最下位層の状況はCMDGの目標値を大きく下回っている。栄養に関する指標についても、ここ数年の食料価格の高騰による影響で目標値を大幅に下回っている。最も楽観的なシナリオにおいても、CMDG 1の2015年までの達成は困難であると見込まれる。

5.1.2 CMDG 2：9年間の基礎教育の普及の達成

2008年国勢調査によれば、就学年齢の児童の94%は通学している。しかしながら、目標値である100%に近づいているとはいうものの、純入学率および純就学率（について、2015年までに達成するには課題が残っている。

6～14歳の子どもの80%は、学校に通うようになっており、目標値からの乖離は縮小している。しかし、基礎教育の留年率および退学率の低下についてはあまり進捗が見られず、CMDG達成に向けて改善すべき主要な課題となっている。また、初等教育はより多くの子どもに普及しているように見受けられるが、教育の質も問題も重要な課題として残されている。初等教育就学率については、目標値との乖離はほとんどないものの、中等教育就学

⁴¹ 詳細については、別添2を参照のこと。

率については大幅に下回っている。中等教育の目標値および修了率に関する目標値については、2015年までに達成することは困難であると見られる。

5.1.3 CMDG 3 : ジェンダーの平等の促進と女性の地位の向上

初等教育の純就学率に係るジェンダー格差は縮まっており、女子の初等教育修了率も男子と比べて遜色の無い水準である。しかしながら、中等教育および高等教育においては、依然としてジェンダー格差は残っており、また女性の識字率も低い水準のままである。これは女性の生計手段を狭め、より高い水準の職業や意思決定を行う権限を持つ地位に着くことの制約要因ともなっている。また家庭内暴力も深刻な問題となっており、CMDG 3 の達成を阻害しているものと推察される。

5.1.4 CMDG 4 : 乳幼児死亡率の削減

乳児死亡率については、2015年のCMDGの目標値は既に達成しており、5歳未満児死亡率についてもほぼ達成している。こうした成果は、国家予防接種プログラム、母乳育児の推進、基礎保健サービスへのアクセスの向上、貧困削減、教育やより整備された道路へのアクセスの向上などの実績によるものである。2015年には目標値を達成することが見込まれているが、依然として地域間格差は残されている。乳幼児死亡率は、Kampong Speu、Preah Vihear、Steung Treng、Prey Veng、Mondol Kiri および Ratanak Kiri といった州では全国平均のおよそ2倍以上となっている。

5.1.5 CMDG 5 : 妊産婦の健康改善

出生率については、既にCMDGの目標値を達成しているが、妊産婦死亡率については2000年以降改善が見られていない。カンボジアにおいては自宅分娩が一般的であり、出産直後の死亡例については、本来、分娩中の適切な介助、処置により回避することができるものである。出産間隔に関する指標と帝王切開に関する指標は目標値を大きく下回っている。また、近代的な避妊法の普及率の低さ、妊婦の鉄分不足による貧血の発生率の高さ、産科および新生児救急にアクセスできない妊産婦と新生児の多さ、安全な中絶への限定的なアクセス、妊婦の教育水準の低さも見られる。こうしたことから、2015年までの目標値の達成は難しいと予測される。

5.1.6 CMDG 6 : HIV/AIDS、マラリアおよびその他疾病の蔓延防止

感染症、特に、HIV/AIDSの減少は特筆すべきである。成人のHIVの発症率は、1997年1.9%から2003年1.2%、2008年0.7%と着実に低下しており、2008年時点において2015年の目標値である0.9%未満を下回っている。その理由としては、重点的かつ組織的な対応策、特に、性産業従事者におけるコンドームの使用の増加が挙げられる。しかしながら、最もリスクの高いグループ（麻薬常用者、男性の同性愛者、娯楽産業従事者）において、感染拡大の新たな懸念が高まっており、配偶者や母子感染によるHIV感染も増加している。

5.1.7 CMDG 7 : 環境の持続性の確保

カンボジアは、都市部においては安全な水へのアクセスが向上し、農村部においては改衛

生的なトイレへのアクセスが向上しているが、農村における衛生的なトイレの普及が最も遅れた国である状況に変化は無い。また、森林・漁業に関する指標についてもほとんど進展は見られない。2002年から2006年において、森林面積の373,510ヘクタールが消失し、森林面積の比率は61.15%から59.09%に縮小している。これは、人口増加と不法伐採に加えて、森林保護・管理制度が不適切であることに起因している。薪燃料への依存度も悪化しており、目標値の達成は難しいと見られる。

5.1.8 CMDG 8：開発のためのグローバルパートナーシップ

カンボジア政府は、WTO加盟や二国間および多国間の貿易協定を通じて、カンボジア経済を世界経済にさらに統合していくことに取り組んでいる。貿易は、「成長のエンジン」と位置づけられており、持続的貧困削減や他のCDMGの達成に貢献する潜在力があると期待されている。

5.1.9 CMDG9：地雷および不発弾除去と被害者救済

地雷およびERWの被害者の削減については、カンボジアは目覚ましい進展を見せている。年間の民間被害者数は、1996年4,320人から2009年241人に減少した。また、2009年6月までに、認可を受けた人道的地雷除去機関およびカンボジア王国軍（RCAF：Royal Cambodian Armed Forces）により5万ヘクタールの地雷除去が行われ、これは推定される目標面積115万ヘクタールの44%に相当する。予定どおりの進捗が見られ、2015年までの目標値の達成は確実であると見込まれる。しかしながら、地雷およびERWは依然としてカンボジアの農村における貧困撲滅と生計の改善を阻害する要因となっている。汚染地域は、住宅、学校、道路あるいは農業に利用することはできず、コミュニティは生存者のケアといった長期的な負担を強いられている。

表 5-1 : カンボジアの CMDG 達成状況

		2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	Target 2015 (National)	Progress (National)
Goal 1: Eradicate extreme poverty and hunger												
1.1	Employment to population ratio, 15+, total (%)	78	79.8"	79.6"	79.3"	79.1"	79	78.4"	78.9"	..		
1.2	Employment to population ratio, ages 15-24, total (%)	68	74	..	75	..		
1.3	GDP per person employed (annual % growth)	5	2	4	6	7	10	8	6	3.8		
1.4	Income share held by lowest 20%	6.9	7.1	..		
1.5	Malnutrition prevalence, weight for age (% of children under 5)	39.5 45.2'	28.4	23	...
1.6	Poverty gap at \$1.25 a day (PPP) (%)	11.3		
1.7	Poverty headcount ratio at \$1.25 a day (PPP) (% of population)	40.2		
1.8	Poverty gap at national poverty line (%)	6.7		
1.9	Poverty headcount ratio below national poverty line (% of population)	40	35	34.7'	20	Improving, but below the target
1.10	Prevalence of undernourishment (% of population)	26		
1.11	Vulnerable employment, total (% of total employment)	84	87	..	87	..		
Goal 2: Achieve universal primary education												
2.1	Literacy rate, youth female (% of females ages 15-24)	71	79	83	..	100	
2.2	Literacy rate, youth male (% of males ages 15-24)	82	88	90	..	100	
2.3	Persistence to last grade of primary, total (% of cohort)	55 65"	51' 63.5"	60"	58.5"	56.9"	55 53.1'	59.5"	54	..	100	Static, little change
2.4	Primary completion rate, total (% of relevant age group)	47	51	59	65	76	85	87	85	..	100	
2.5	Total enrollment, primary (% net)	87	87' 84.5"	86.7"	91.9'	89.9"	89.4"	..	100	Improving, but below the target
Goal 3: Promote gender equality and empower women												
3.1	Proportion of seats held by women in national parliaments (%)	8	7.4"	7.4"	12' 7.4"	9.8"	10 17.1' 9.8"	9.8"	9.8"	19.5"	30	Improving and on target
3.2	Ratio of female to male enrollments in tertiary education	33	38'	47 45.6'	56	85	Improving, but below the target
3.3	Ratio of female to male primary enrollment	87	87'	93 89.5'	93	100	Improving, but below the target
3.4	Ratio of female to male secondary enrollment	55	63'	79 77'	82	100	Improving, but below the target
3.5	Share of women employed in the nonagricultural sector (% of total nonagricultural employment)	51.9 41.1"	43.3"	43.5"	51.9	52		
Goal 4: Reduce child mortality												
4.1	Immunization, measles (% of children ages 12-23 months)	65 49'	59	52	65	80	79	78	79	..	90	Improving and on target
4.2	Mortality rate, infant (per 1,000 live births)	80	73 66'	..	70	..	50	Improving and better than target
4.3	Mortality rate, under-5 (per 1,000)	107	95 82'	93	91	..	40	Improving and better than target
Goal 5: Improve maternal health												
5.1	Adolescent fertility rate (births per 1,000 women ages 15-19)	51	48	46	45	43	42	41	39	..		
5.2	Births attended by skilled health staff (% of total)	31.8"	44	80	...
5.3	Contraceptive prevalence (% of women ages 15-49)	24	40		
5.4	Maternal mortality ratio (modeled estimate, per 100,000 live births)	280	540	140	...
5.5	Pregnant women receiving prenatal care (%)	38 30.5'	69 47'	90'	Improving, but below the target
5.6	Unmet need for contraception (% of married women ages 15-49)	30	25		

		2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	Target 2015 (National)	Progress (National)
Goal 6: Combat HIV/AIDS, malaria, and other diseases												
6.1	Children with fever receiving antimalarial drugs (% of children under age 5 with fever)	0		
6.2	Condom use, population ages 15-24, female (% of females ages 15-24)	1	3		
6.3	Condom use, population ages 15-24, male (% of males ages 15-24)	31 84.4"		
6.4	Incidence of tuberculosis (per 100,000 people)	530	505	..	495	..		
6.5	Prevalence of HIV, female (% ages 15-24)	0.3	..	0	..		
6.6	Prevalence of HIV, male (% ages 15-24)	0.8	..	1	..		
6.7	Prevalence of HIV, total (% of population ages 15-49)	1.6	1.8	1	1	1	1 1.9'	1	0.8	..	2	Improving and better than target
6.8	Tuberculosis cases detected under DOTS (%)	50	..	57	68 61'	61	>85	Improving, but below the target
Goal 7: Ensure environmental sustainability												
7.1	CO2 emissions (kg per PPP \$ of GDP)	0.17"	0.18"	0.19"	0.19"	0.19"	0	0.18"		
7.2	CO2 emissions (metric tons per capita)	0.17"	0.2"	0.21"	0.23"	0.25"	0.26"	0.28"		
7.3	Forest area (% of land area)	65	59	60	...
7.4	Improved sanitation facilities (% of rural population with access)	9"	16.4'	19	30	Improving and better than target
7.5	Improved sanitation facilities (% of urban population with access)	51"	55	62	74	Improving, but below the target
7.6	Improved water source (% of rural population with access)	33"	41.6'	61	50	Improving and better than target
7.7	Improved water source (% of urban population with access)	60"	75.8'	80	80	Improving and better than target
7.6	Marine protected areas, (% of surface area)	0.4"	0.4"	0.4"	0.4"	1.1 0.4"	0.4"	0.4"	0.4"	0.4"		
7.7	Nationally protected areas (% of total land area)	23.5	..	23.5
Goal 8: Develop a global partnership for development												
8.1	Aid per capita (current US\$)	31	39	..	46	..		
8.2	Debt service (PPG and IMF only, % of exports, excluding workers' remittances)	1.4"	0.8"	0.8"	0.9"	0.8"	0.7"	0.6"	0.5"	..		
8.3	Internet users (per 100 people)	0.0	0.3	..	0.5	..		
8.4	Mobile cellular subscriptions (per 100 people)	1	2	3	4	6	8	12	18	29		
8.5	Telephone lines (per 100 people)	0	0	0		
Other												
9.1	Fertility rate, total (births per woman)	4	..	4	..	3	3.4	3	3.2	..	3	Improving and better than target
9.2	GNI per capita, Atlas method (current US\$)	300	300	300	340	390	460	500	550	600		
9.3	GNI, Atlas method (current US\$) (billions)	3.8	3.9	4.0	4.5	5.3	6.4	7.1	7.9	8.9		
9.4	Gross capital formation (% of GDP)	17.5	19	18	20	16	18.5	21	20.8	..		
9.5	Life expectancy at birth, total (years)	56	..	57	58	59	60	..		
9.6	Literacy rate, adult total (% of people ages 15 and above)	67	74	..	76	..		
9.7	Population, total (millions)	12.8	13.0	13.2	13.4	13.7	13.9	14.1	14.4	14.6		
9.8	Trade (% of GDP)	111.6	136.8	138.3		

(出所) World Bank, "Country Table,"

(http://ddp-ext.worldbank.org/ext/ddpreports/ViewSharedReport?&CF=&REPORT_ID=1336&REQUEST_TYPE=VIEWADVANCED Accessed June 2010), and "World Development Indicators Database," (http://databank.worldbank.org/ddp/home.do?Step=2&id=4&hActiveDimensionId=MDG_Series)

(注) ' の出所 : Ministry of Planning, Royal Government of Cambodia and the United Nations, "Achieving the Cambodia MDG 2005 Update" (2005)

" の出所 : United Nations Statistic Division, "MDG Info 2009", (<http://www.devinfo.info/mdginfo2009/> , <http://mdgs.un.org/unsd/mdg/Data.aspx>, as of June 2010)

5.2 貧困モニタリング等のモニタリング方法

5.2.1 国家戦略開発計画（NSDP）と貧困削減

パリ宣言は、モニタリング可能な活動および指標の設定により、成果をもたらすための援助の調和化、統合・管理に向けた、継続的な取組みを行うことについて、加盟国と加盟組織が確約した国際的な合意である。カンボジアも例外ではなく、オーナーシップ、調和化、成果および相互のアカウンタビリティについて、カンボジア政府とドナーの合同によるモニタリングが行われている。カンボジア側のオーナーシップの名の下で、カンボジアはセクター別の計画と 2015 年までの CMDGs の達成に向けたドナーとの共通の枠組みである NSDP に貧困問題を統合している。

関係する省庁・組織によって 19 のテクニカル・ワーキンググループが設置され、計画・貧困削減ワーキンググループの共同議長である MOP と、全体を推進し、他のワーキンググループを促進する、パートナーシップ・調和化ワーキンググループの共同議長であるカンボジア開発委員会が、貧困問題を管轄している⁴²。

合同モニタリング指標（JMIs : Joint Monitoring Indicators）は、開発の成果を管理するとともに、援助効果の相互的アカウンタビリティの原則に取組むものである。貧困削減と CMDG は、モニタリングの枠組みにおいては関連性が高く、CDFC における合意を得てモニタリング評価モデルが構築される予定である⁴³。

5.2.2 データ収集方法

MOP および各ワーキンググループのフォーカルポイントである省庁は、カンボジアの貧困状況に直接、間接に関連する指標の情報源となっている。MOP が所管する国家統計院（NIS）は、CSES および ID Poor 調査を実施している。また、保健省は、カンボジア人口保健調査（CDHS : Cambodia Demographic and Health Surveys）を 5 年ごとに実施している。これらのサンプル調査とは別に、各章は行政統計データおよびコミュニケーションレベルのデータベースを毎年発行している。

MOP とともに、UN 機関、WB、Sida 等のドナーは、貧困指標および CMDG のモニタリングに重要な役割を果たしている。また、ID Poor については、GTZ が技術協力をを行い、オーストラリア、EU、ドイツ政府等が資金提供を行っている。コミュニケーションデータベース（CDB）は、UNDP による資金協力が行われている。JICA は、国連人口基金（UNFPA : United Nations Population Fund）とともに、NIS に対し、国勢調査の実施への支援を行っている。

5.2.3 データモニタリングの調和化

ドナーを含む関係者が戦略策定を行う際に参照すべき統計情報が常に入手可能ではなく、また、適宜更新されていないカンボジアのような国においては、当該関係者自らが、一次

⁴² 詳細については、別添 2 を参照のこと。

⁴³ 同上。

データの収集を行い、必要とされる情報を抽出するためのデータベースとしてそれぞれのソフトウェアにデータを入力し、GISなどを活用して、特定の事象の分布状況などを示す地図などを作成している。

表 5-2 : CamInfo のデータベース構造

フレームワーク		内容
指標		CMDGs・NSDP・教育・医療・カンボジア栄養投資計画その他に関連するもの
年数		1976年から2020年
地理的範囲		国・州・郡・コミュニティレベル
サブ・グループ	性別	男性・女性
	位置	都市部・農村部・遠隔地域
	その他	年齢別グループ
	期間	月単位・四半期単位・年単位
単位		数、パーセント、km、時間、トンなど
情報源		<p>NIS・MOP・関係省庁・UN・NGOなどの調査、国勢調査、行政データ</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Final results of the CDHS 2005 ● The WFP Food Security Atlas of Cambodia version.2.e0 ● The 2006 CDB ● Level Arsenic of contamination (Tested well) 2000-2008 ● Core NSDP indicators ● Cambodia Mine UXO Victim Information System (CMVIS) and Cambodia Road Traffic Accident and Victim Information (RTAVIS) indicators ● Latest data on the CMDGs, Cambodia Nutrition Investment Plan (CNIP) and other sectoral plans ● Time-series data for Education Management Information System (EMIS), Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (MAFF) and Health Management Information System (HMIS) at provincial and district level ● Inbuilt gallery of tables, graphs and maps covering the CMDGs, NSDP and Cambodia Nutrition Investment Plan.
メタデータ		定義や集計方法、留意点など指標に関する追加情報

しかしながら、MOPなどフォーカルポイントとなるべきカンボジア政府側関係者による調整や管理が行き届かない中であって、こうしたソフトウェアの互換性が無いケースが散見されており、結局は印刷物を参照するか、新たにソフトウェアをインストールして情報を共有する必要がある。

こうした中、開発が進んでいるCamInfoは、政府・ドナー・NGO・市民社会が開発指標に関するデータを整理・発表し、モニタリングを行うための共通のプラットフォームを提供する社会経済データベースである。CamInfoは、MDGの進捗状況をモニタリングするためのグローバルなデータベースであるDevInfoソフトウェアをカンボジアに現地化したバージョンである⁴⁴。2003年からUNICEFとGTZの支援を受けて開発され、2007年にはUNESCAPによる支援も受けている。UNDPは、他ドナーやカンボジア政府に対し、彼らが

⁴⁴ ラオスにおいては、LaoInfoとして導入されている。

持っているデータを CamInfo に組入れるよう提唱している。今後の計画では、CDB だけでなく ID Poor および 2008 年国勢調査についても、2010 年中に CamInfo にアップロードされる予定である。

CamInfon によって、各指標のデータを、表形式、グラフ形式、地図形式で示すことが可能である。また、同システムは、セクター、目標、テーマ、その他のモニタリングの枠組みに応じて、指標を見ることができる。また、クメール語および英語の双方によってアクセス可能である。2004 年 3 月に公表されて以降、2009 年 6 月に公表された CamInfo 3.2 が最新版となっている。

同データベースの最大のメリットは、ソフトウェアをインストールしなくてもインターネットを通じて活用できることにある。しかし、カンボジア国内においては 2010 年現在インターネット環境が十分整備されておらず、劣悪な電力事情もあいまって、従来の印刷データ資料の収集がまずは望まれるところである。また、データが随時アップロードされるにせよ、常に最新のデータが閲覧できるわけではなく、また、こうしたソフトウェアの使用に慣れていない場合、マニュアルを読みながら操作を習得することは大きな困難を伴う。さらに、一つのソフトウェアで ID Poor や CDB など様々なデータを閲覧できるメリットがある一方で、各データの特性を把握しつつ取捨選択することは、カンボジアにおけるデータ整備の状況を把握し得ない海外からのアクセス者にとっては非常に困難である。

別 添

別添 1：貧困・不平等指標の解説

(1) 貧困指標

用語	解説
貧困ライン (Poverty Line)	<p>■ 相対的貧困ライン (Relative poverty lines) 当該国の所得あるいは消費の分配との関係で定義される「相対的貧困」を測定するための基準。「相対的貧困」は大多数の人々よりも貧しい状態にあることを意味する。相対的貧困ラインは、例えば、「当該国の所得あるいは消費の平均値の50%」を相対的貧困ラインとして設定し、それ以下の所得あるいは消費水準にある人が貧困層と定義される。</p> <p>■ 絶対的貧困ライン (Absolute poverty lines) 必要最小限の生活水準 (basic needs) を満たすための絶対的水準。貨幣価値による測定 (最小費用法: Cost of Basic Needs Methods) では、最低食料費用と食料以外に最低限必要な所得あるいは消費額を推定し、これに基づいて絶対的貧困ラインを設定する。最低食料費用は、栄養学上、人間が通常の生活を営み、健康を維持するのに最低限必要なエネルギー (kcal) を摂取するための費用である。必要エネルギー摂取量は、年齢、性別、体重、外気によって調整される。</p>
貧困者比率 / 貧困率 (P0: Poverty Headcount Index/ Poverty Incidence)	<p>貧困ライン未満の人数の対象人口全体の人数に対する比率。貧困の規模を最もわかりやすく表示する指標。この指標は、その計測方法の単純さから、直感的に貧困の度合いの大小を把握する上では簡便な指標ではあるが、貧困ライン未満所得 (又は消費) 階層 (間) における所得 (又は消費) 水準や、所得 (消費) 分布を把握することができない。</p> $HCI = \frac{q}{N}$ <p>q: 貧困層の人数 N: 集団全体の人数</p>
貧困ギャップ比率 (貧困の深度) (P1: Poverty Gap Index/ Poverty Depth)	<p>貧困ラインと貧困ライン未満人口の平均所得の差分の貧困ラインに対する比率の平均値。すなわち、貧困ライン未満に位置する人口の所得 (又は消費) 水準との距離 (乖離度) を示す指標。貧困ラインを一定とした場合、貧困ライン未満に位置する人口の所得 (又は消費) 水準が低下する程、貧困の深度は上昇する。貧困ラインまでの不足額を必要移転額として、貧困削減に必要な最小コストとみなすことができる。</p> $PGI = \frac{1}{N} \sum_{i=1}^q \left(\frac{z - y_i}{z} \right)$ <p>N: 集団全体の人数 z: 貧困ライン y: 各人の所得</p>
2乗貧困ギャップ比率 (P2: Squared Poverty Gap Index/ Poverty Severity)	<p>貧困ライン未満人口の平均所得と貧困ラインとの格差の貧困ラインに対する比率の2乗の平均値。貧困の重度 (severity)、すなわち、貧困ライン所得 (消費水準) 未満に位置する所得 (又は消費) 階層間の所得 (又は消費) 不平等度を示す。貧困ラインを一定とした場合、貧困ライン未満に位置する所得 (又は消費) 階層間の所得 (又は消費) 分配が悪化 (不平等化) する程、貧困の重度は上昇する。</p> $SPI = \frac{1}{N} \sum_{i=1}^q \left(\frac{z - y_i}{z} \right)^2$ <p>N: 集団全体の人数 z: 貧困ライン y: 各人の所得</p>

(2) 不平等指標

用語	解説
ジニ係数 (Gini coefficient) と ローレンツ曲線 (Lorenz Curve)	ジニ係数は、完全に公平な分布から、経済の中で所得(あるいは消費支出)の分布範囲がどこまで乖離しているかを示すものである。ローレンツ曲線は、最も所得(または消費)水準の低い個人から最も高い個人に向かって人口の累積分布を横軸に、所得の累積分布を縦軸に測ることで表される曲線を示す。ジニ係数は、完全平等を示す 45 度の対角線とローレンツ曲線との面積が、45 度対角線の下側の三角形の面積に占める割合である。ジニ係数の 0 は完全な平等を表現し、1 は完全な不平等 (1 人あるいは 1 つの世帯が全ての所得または消費を独占している) を表わす。
タイル指数 (Theil index)	所得(支出)の総計に占める個人の所得(支出)の割合と平均所得(支出)に対する個人の所得(支出)の比率に基づいて算出される不平等の度合いを示す指数。対象人口全体 (N) の所得分配が全人口間で完全に平等である場合には 0 に、1 人によってすべての所得が得られている完全不平等の場合は $\ln(N)$ となる。 $Z(1) = \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n \frac{y_i}{\bar{y}} \log \frac{y_i}{\bar{y}}$ n: 集団全体の人数 yi: 各人の所得 \bar{y} : 各人の所得の算術平均値 タイル指数は、サブグループごとに重み付けをおこなった不平等の合計であることから、それぞれのサブグループが全体の不平等にどのように貢献しているのかを分解して、分析することができる。 $I(\text{全体の不平等度}) = I_w(\text{サブグループ内の不平等度}) + I_b(\text{サブグループ間の不平等度})$

(参考文献)

World Bank, “Poverty Reduction Strategy Paper (PRSP) Sourcebook”, (2004)

World Bank, “Handbook on Poverty + Inequality”, (2009)

別添 2：本文補足資料

表 A2-1：セクター別政府支出の内訳（2003-2007）

内訳（10 億リエル）	2003 年	2004 年	2005 年	2006 年	2007 年
Total Expenditures	1,758.1	1,745.7	1,967.5	2,373.5	3,457.3
I. General Administration	336.4	302.2	355.7	425.8	1,056.9
01. Royal Palace	23.1	22.4	36.2	39.4	41.1
02. National Assembly	34.2	42.1	40.0	49.9	68.2
03. Senate	17.9	17.9	18.6	20.8	25.6
04. Counstitutional Council	3.5	3.4	3.3	3.4	3.5
05.1 Council of Minister	84.6	81.9	94.0	109.9	162.2
05. 2 Civil Service Secretariate	1.2	1.2	2.1	2.2	2.0
05.4 CDC	2.8	3.2	3.3	3.9	3.6
07.2 Interior-Administration	29.0	17.2	20.4	38.0	42.5
08. Relations Assembly and Inspections	2.3	2.2	3.7	5.5	7.3
09. Foreign Affairs and Int'l Cooperation	54.1	49.7	57.1	59.7	65.6
10. Economy and Finance	36.9	36.0	40.4	60.8	536.9
14. Planning	5.2	5.1	6.3	7.8	9.5
26. Justice	11.1	10.5	11.7	13.2	15.6
30. National Election Committee	26.8	6.2	6.0	6.2	40.0
31. National Audit Authority	3.7	3.3	3.7	5.0	5.4
32. Affaire and Vocational Training	-	-	8.9	20.2	28.0
II. Defense and Security	411.0	422.8	451.2	520.2	658.3
06. National Defense	269.5	271.7	289.4	328.1	372.6
07.1 Interior - Security	141.5	151.1	161.8	192.0	285.7
III. Social Administrative	615.9	672.3	720.9	903.1	1,033.8
11. Information	12.1	12.8	13.2	17.2	18.5
12. Public Health	173.0	192.1	224.5	268.4	343.3
16. Education, Youth and Sport	300.5	325.9	350.8	445.6	491.4
18. Culture and Fine-Arts	13.8	12.5	14.3	15.5	17.8
19. Environment	7.7	7.4	8.2	9.5	11.2
21. Social Affairs, Labor & Vocat'l Training	33.4	32.6	95.4	108.0	129.1
23. Public Worship and Religion	3.7	3.5	4.1	5.5	7.6
24. Woman Affairs and Veteran	71.7	85.6	10.3	13.1	14.9
IV. Economy Administrative	170.5	151.3	178.1	239.7	267.1
05.3 Civil Aviation Secretariate	6.5	6.0	7.2	8.2	9.8
13. Industry, Mines and Energy	7.0	6.2	7.4	31.0	38.3
15. Commerce	16.2	12.2	14.6	17.1	20.4
17. Agriculture, Forestry and Fishery	39.0	38.6	47.1	56.1	57.7
20. Rural Development	16.9	16.6	22.1	29.7	34.8
22. Posts and Telecommunications	34.7	24.9	30.9	31.6	30.5
25. Public Works and Transport	14.0	12.5	13.0	17.3	19.8
27. Tourism	15.5	12.9	14.3	17.2	20.3
28. Land Management, Urbanization and Construction	6.8	7.0	7.9	12.7	15.3
29. Water Resources and Meteorology	13.8	14.3	13.7	18.8	20.4
V. Other expenditure	224.3	197.11	261.62	284.8	441

（出所） Ministry of Planning, National Institute of Statistics, “Statistical Yearbook 2008”, Table 19.8

表 A2-2：マイクロファイナンス機関の規制と免許付与

サービスの内容	規制対象	免許取得対象
貸付	貸付残高が1億リエル(25,000ドル相当)もしくはこれ以上	貸付残高が10億リエル(250,000ドル相当)もしくは10,000人の借入人規模もしくはこれ以上
預金	任意預金が百万リエル(250ドル相当)もしくはこれ以上	任意預金が1億万リエル(25,000ドル相当)もしくは1,000人の預金者数規模もしくはこれ以上

(出所) The Law on Banking and Financial Institutions (the National Assembly approved on October 19, 1999), and the PRAKAS No B700-06 on the Licensing of Microfinancing Institutions (January 11, 2000)

表 A2-3：マイクロファイナンス分野の発展 (2004～2008年)

	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2004-08年の差異	
						2004-08	2007-08
登録MFI数 ("農村貸付組織")	27	23	24	26	26	-4%	0%
免許取得MFI数	10	16	16	17	18	80%	6%
借入者数(人)	322,056	366,107	471,026	624,089	825,652	156%	32%
貸付残高(百万リエル)	126,186	204,572	357,045	617,906	1,130,585	796%	83%
預金者数(人)	122,984	137,624	113,277	147,966	108,788	-12%	-26%
預金残高(百万リエル)	5,298	8,703	10,412	21,210	22,281	321%	5%

(出所) Developed based on Banking Supervision Department, National Bank of Cambodia, Annual Report 2008, 2007 and 2004.

表 A2-4：セクターごとのマイクロファイナンス規模 (2004～2008年)

(百万リエル)

ビジネス分野	2004年	%	2005年	%	2006年	%	2007年	%	2008年	%	Variance 2004-08
農業	81,835	64.9	117,167	57.3	188,508	52.8	279,125	45.2	495,279	43.8	505%
貿易・商業	28,258	22.4	54,786	26.8	101,317	28.4	200,502	32.4	376,812	33.3	1,233%
サービス	10,482	8.3	16,927	8.3	15,438	4.3	42,054	6.8	83,944	7.4	701%
交通	1,540	1.2	4,585	2.2	14,171	4.0	23,247	3.8	45,016	4.0	2,823%
建設	1,099	0.9	1,378	0.7	6,148	1.7	11,372	1.8	20,395	1.8	1,756%
家庭	1,730	1.4	5,549	2.7	26,725	7.5	51,592	8.3	87,281	7.7	4,945%
その他	1,241	1.0	4,180	2.0	4,737	1.3	10,016	1.6	21,858	1.9	1,661%
計	126,185	100.0	204,572	100.0	357,044	100.0	617,907	100.0	1,130,585	100.0	796%

(出所) Developed based on Banking Supervision Department, National Bank of Cambodia, Annual Report 2008, 2007 and 2004.

表 A2-5 : MFI の州別分布 (営業・オフィス数・スタッフ配置数) および貧困率

州	貧困率*	小規模貸付 残高	預金者数 (小規模貸付)	活動 MFI 数**	MFI オフィス数 **	スタッフ数
1 Banteay Meanchey	29.7	66,667.98	37,738	10	38	306
2 Battambang	28.7	89,385.48	57,312	13	47	410
3 Kampong Cham	24.3	163,847.36	91,947	9	83	765
4 Kampong Chhnang	30.4	34,905.87	34,608	8	29	228
5 Kampong Speu	30.1	69,981.33	58,383	10	32	332
6 Kampong Thom	32.7	62,343.54	47,117	8	41	291
7 Kampot	19.1	57,925.65	50,012	9	27	321
8 Kandal	15.9	187,034.82	107,423	16	79	729
9 Kep	21.4	3,370.81	3,224	7	2	6
10 Koh Kong	25.1	2,788.23	3,455	5	5	13
11 Kratie	37.1	18,461.75	17,170	4	12	73
12 Mondul Kiri	37.1	1,664.64	1,375	2	6	15
13 Otdar Meanchey	36.5	6,341.91	11,375	4	8	27
14 Pailin	28.1	2,054.98	1,278	3	3	12
15 Phnom Penh City	0.1	110,991.96	23,127	20	57	1,286
16 Preah Sihanouk	19.6	22,010.33	14,172	6	10	75
17 Preah Vihear	41.5	7,740.54	8,131	4	16	47
18 Prey Veng	25.5	112,734.31	88,215	10	48	427
19 Pursat	32.0	43,223	29,417	8	31	237
20 Ratanak Kiri	41.2	1,924.57	2,132	3	3	15
21 Siem Reap	31.1	81,897.73	54,321	13	51	540
22 Steung Treng	41.1	1,115.38	1,750	3	2	13
23 Svay Rieng	21.5	35,728.98	33,767	6	20	145
24 Takeo	23.4	125,120.95	86,399	11	53	468
合計	-	1,309,262.11	863,848	-	703	6,781

(出所) <http://www.cma-network.org/information.htm> (2010年6月現在) およびコミュニケーションデータベースより作成。

(注) * 貧困率は、コミュニケーションデータベース (CDB) の基準による。数値は2010年。

**MFIは支店・支所が存在しない村・コミューン・郡・州で活動を行っていることが多い。このため、「活動MFI数」と「MFIオフィス数」とは互いに異なる。FUDF・MAXIMA・Seilanithih・TFMF・YCPの活動およびオフィス数データは、2010年3月の各組織が発行したデータに拠る。それ以外の組織は2009年12月のデータより作成した。

表 A2-6 : ACLEDA Bank の州別分布（営業・オフィス数・スタッフ配置数）および貧困率

州	貧困率*	貸付残高(百万リエル)			預金者数(人)			オフィス数**	スタッフ数(人)
		小規模	大規模	計	小規模	大規模	計		
Banteay Meanchey	29.7	42,279.28	68,898.26	111,177.53	8,552	1,070	9,622	11	256
Battambang	28.7	44,358.96	71,298.88	115,657.84	6,889	1,132	8,021	13	313
Kampong Cham	24.3	138,661.26	126,119.29	264,780.54	34,988	2,103	37,091	31	669
Kampong Chhnang	30.4	19,594.08	21,991.71	41,585.79	9,055	640	9,695	8	144
Kampong Speu	30.1	46,100.62	34,399.80	80,500.42	15,402	938	16,340	13	307
Kampong Thom	32.7	26,299.17	33,511.08	59,810.25	11,074	588	11,662	13	223
Kampot	19.1	34,544.17	38,599.37	73,143.55	14,739	848	15,587	9	230
Kandal	15.9	64,560.78	71,529.35	136,090.13	21,056	2,053	23,109	28	617
Kep	21.4	0.00	0.00	0.00	0	0	0	1	0
Koh Kong	25.1	7,464.69	22,166.70	29,631.39	1,620	208	1,828	3	56
Kratie	37.1	20,012.53	12,336.65	32,349.18	5,338	287	5,625	6	99
Mondul Kiri	37.1	5,530.68	7,915.54	13,446.22	987	204	1,191	3	46
Otdar Mean Chey	36.5	12,120.81	9,986.76	22,107.57	3,379	309	3,688	5	87
Pailin	28.1	12,883.44	9,839.82	22,723.26	1,404	201	1,605	1	80
Phnom Penh City	0.1	67,235.75	798,495.19	865,730.94	10,935	9,238	20,173	13	2,280
Preah Sihanouk	19.6	21,273.08	33,001.35	54,274.44	6,240	554	6,794	3	144
Preah Vihear	41.5	16,125.50	8,733.82	24,859.31	4,413	213	4,626	6	93
Prey Veng	25.5	86,196.43	24,866.51	111,062.94	22,960	625	23,585	13	324
Pursat	32.0	29,787.37	19,390.91	49,178.28	9,811	490	10,301	9	153
Ratanak Kiri	41.2	7,368.29	13,754.50	21,122.79	1,116	311	1,427	2	61
Siem Reap	31.1	36,913.17	118,661.91	155,575.08	11,034	2,031	13,065	15	363
Steung Treng	41.1	6,290.80	11,235.57	17,526.38	1,587	211	1,798	1	48
Svay Rieng	21.5	30,962.21	30,546.40	61,508.61	8,600	870	9,470	7	168
Takeo	23.4	47,834.55	39,435.81	87,270.37	13,050	928	13,978	18	302
合計	-	824,397.63	1,626,715.17	2,451,112.81	224,229	26,052	250,281	232	7,063

(出所) <http://www.cma-network.org/information.htm> (2010年6月現在) およびコミュニケーションデータベースより作成。

(注) * 貧困率は、コミュニケーションデータベース (CDB) の基準による。数値は2010年。

**MFIは支店・支所が存在しない村・コミューン・郡・州で活動を行っていることが多い。このため、「活動MFI数」と「MFIオフィス数」とは互いに異なる。FUDF・MAXIMA・Seilanithih・TFMF・YCPの活動およびオフィス数データは、2010年3月の各組織が発行したデータに拠る。それ以外の組織は2009年12月のデータより作成した。

表 A2- 7 : CMDG

CMDG 1: Eradicate extreme poverty and hunger

Overall target 1: Halve, between 1993 and 2015, the proportion of people whose income is less than the national poverty line

- Target 1.1: Decreasing the proportion of people whose income is less than the national poverty line from 39% in 1993 to 19.5% in 2015
- Target 1.2: Increasing the share of poorest quintile in national consumption from 7.4% in 1993 to 11% in 2015
- Target 1.3: Decreasing the proportion of working children aged between 5-17 years old from 16.5% in 1999 to 8% in 2015

Overall target 2: Halve, between 1993 and 2015, the proportion of people who suffer from hunger

- Target 1.4: Decreasing the prevalence of underweight (weight for age <2 SD) children under-five years of age from 45.2% in 2000 to 22% in 2015
- Target 1.5: Decreasing the proportion of population below the food poverty line from 20% in 1993 to 10% in 2015
- Target 1.6: Decreasing the prevalence of stunted (height for age <2 SD) children under five years of age from 44.6% in 2000 to 22% in 2015
- Target 1.7: Decreasing the prevalence of wasted (weight for height <2 SD) children under five years of age from 15% in 2000 to 9% in 2015
- Target 1.8: Increasing the proportion of households using iodised salt from 14% in 2000 to 90% in 2015

CMDG 2: Achieve universal nine year basic education

Overall target 3: Ensure all children complete primary schooling by 2010 and nine-year basic schooling by 2015

- Target 2.1: Improving net admission rate from 81% in 2001 to 100% in 2010
- Target 2.2: Improving net enrolment ratio in primary education from 87% in 2001 to 100% in 2010
- Target 2.3: Improving net enrolment ratio in lower-secondary education from 19% in 2001 to 100% in 2015
- Target 2.4: Reducing the proportion of 6-14 years old out of school from 35% in 1999 to 0% 2015
- Target 2.5: Increasing the survival rate from grade 1 to 5 from 58% in 2001 to 100% in 2010
- Target 2.6: Increasing the survival rate from grade 1 to 6 (last grade of primary cycle) from 51% in 2001 to 100% in 2010
- Target 2.7: Increasing the survival rate from grade 1 to 9 (last grade of basic cycle) from 33% in 2001 to 100% in 2015
- Target 2.8: Increasing the literacy rate of 15-24 years old from 82% in 1999 to 100% in 2015

Overall target 4: Eliminate gender disparity in nine-year basic education by 2010

- Target 2.9: Improving the ratio of girls to boys in primary education from 87% in 2001 to 100% in 2010
- Target 2.10: Improving the ratio of girls to boys in lower-secondary education from 63% in 2001 to 100% in 2010

CMDG 3: Promote gender equality and women's empowerment

Overall target 5: Reduce significantly gender disparities in upper secondary education and tertiary education

- Target 3.1: Improving the ratio of girls to boys in upper secondary education from 48% in 2001 to 100% in 2015
- Target 3.2: Improving the ratio of girls to boys in tertiary education from 38% in 2001 to 85% in 2015
- Target 3.3: Improving the ratio of literate females to males 15-24 years old from 87% in 1998 to 100% in 2010
- Target 3.4: Improving the ratio of literate females to males 25-44 years old from 78% in 1998 to 100% in 2010

Overall target 6: Eliminate gender disparities in wage employment in all economic sectors	
Target 3.5:	Increasing the female share in wage employment in agriculture (primary sector) from 35% in 1998 to 50% in 2005
Target 3.6:	Increasing female share in wage employment in industry (secondary sector) from 44% in 1998 to 50% in 2005
Target 3.7:	Increasing the female share in wage employment in services (tertiary sector) from 21% in 1998 to 50% in 2015
Overall target 7: Eliminate gender disparities in public institutions	
Target 3.8:	Increasing the proportion of seats held by women in the National Assembly from 12% in 2003 to 30% by 2015
Target 3.9:	Increasing the proportion of seats held by women in the Senate from 13% in 2003 to 30% by 2015
Target 3.10:	Increasing the proportion of female ministers from 8% in 2003 to 15% by 2015
Target 3.11:	Increasing the proportion of female secretaries of state from 6% in 2003 to 18% by 2015
Target 3.12:	Increasing the proportion of female under secretaries of state from 5% in 2003 to 20% by 2015
Target 3.13:	Increasing the proportion of female provincial governors from 0% in 2003 to 10% by 2015
Target 3.14:	Increasing the proportion of female deputy provincial governors from 1% in 2003 to 15% by 2015
Target 3.15:	Increasing the proportion of seats held by women in commune councils from 8% in 2003 to 25% by 2015
Overall target 8: Reduce significantly all forms of violence against women and children	
Target 3.16:	Increasing the proportion of cases of domestic violence counselled by qualified personal to 100 by 2015
Target 3.17:	Increasing the population percentage aware that violence against women is wrongful behaviour and a criminal act to 100 by 2015
Target 3.18:	Developing and implementing laws against all forms of violence against women and children according to international requirements and standards by 2005
Target 3.19:	Collecting annual statistics to monitor violence against women by 2005
Target 3.20:	Developing and Implementing a Prevention Plan by 2005

CMDG 4: Reduce child mortality

Overall target 9: Reduce the under-five mortality rate

- | | |
|-------------|--|
| Target 4.1: | Reducing the under-five mortality rate from 124 in 1998 to 65 per 1,000 live births by 2015 |
| Target 4.2: | Reducing infant mortality rate from 95 in 1998 to 50 per 1,000 live births by 2015 |
| Target 4.3: | Increasing the proportion of children under 1 year immunized against measles from 41.4% in 2000 to 90% by 2015 |
| Target 4.4: | Increasing the proportion of children aged 6-59 months receiving Vitamin A capsules from 28% in 2000 to 90% by 2015 |
| Target 4.5: | Increasing the proportion of children under 1 year immunized against DPT3 from 43% in 2000 to 90% by 2015 |
| Target 4.6: | Increasing the proportion of infants exclusively breastfed up to 6 months of age from 11.4% in 2000 to 49% in 2015 |
| Target 4.7: | Increasing the proportion of mothers who start breast-feeding newborn child within 1 hour of birth from 11% in 2000 to 62% in 2015 |

CMDG 5: Improve maternal health

Overall target 10: Reduce the maternal mortality ratio

- | | |
|-------------|---|
| Target 5.1: | Reducing the maternal mortality ratio from 437 in 1997 to 140 per 100,000 live births in 2015 |
| Target 5.2: | Reducing the total fertility rate from 4 in 1998 to 3 in 2015 |

Target 5.3:	Increasing the proportion of births attended by skilled health personnel from 32% in 2000 to 80% in 2015
Target 5.4:	Increasing the proportion of married women using modern birth spacing methods from 18.5% in 2000 to 60% by 2015
Target 5.5:	Increasing the percentage of pregnant women with 2 or more ANC consultations from skilled health personnel from 30.5% in 2000 to 90% in 2015
Target 5.6:	Reducing the proportion of pregnant women with Iron Deficiency Anaemia from 66% in 2000 to 33% in 2015
Target 5.7:	Decreasing the proportion of women aged 15-49 with BMI<18.5Kg/Sq. meter from 21% in 2000 to 8% in 2015
Target 5.8:	Decreasing the proportion of women aged 15-49 with Iron Deficiency Anaemia from 58% in 2000 to 19% in 2015
Target 5.9:	Increasing the proportion of pregnant women who delivered by Caesarean Section from 0.8% in 2000 to 4% in 2015

CMDG 6: Combat HIV/AIDS, malaria and other diseases

Overall target 11: Decreasing the spread of HIV/AIDS

Target 6.1:	Reducing HIV prevalence rate among adults aged 15-49 from 2.6% in 2002 to 1.8% in 2015
Target 6.2:	Reducing the HIV prevalence rate among pregnant women aged 15-24 visiting ANC from 2.7% in 2002 to 1.5% in 2015
Target 6.3:	Increasing the condom use rate among commercial sex workers during last commercial sexual intercourse from 91% in 2002 to 98% in 2005
Target 6.4:	Increasing the percentage of young people aged 15-24 reporting the use of a condom during sexual intercourse with a non-regular sexual partner from 82% in 2002 to 95% in 2015
Target 6.5:	Increasing the proportion of condom use reported by married women who identified themselves at risk from 1% in 2000 to 10% in 2015
Target 6.6:	Increasing the percentage of HIV infected pregnant women attending ANC receiving a complete course of antiretroviral prophylaxis to reduce the risk of MTCT from 2.7% in 2002 to 50% in 2015
Target 6.7:	Increasing the percentage of people with advanced HIV infection receiving antiretroviral combination therapy from 3% in 2002 to 75% in 2015

Overall target 12: Decreasing the spread of malaria, DF and TB

Target 6.8:	Decreasing the malaria case fatality rate reported by public health sector from 0.4% in 2000 to 0.1% in 2015
Target 6.9:	Increasing the proportion of population at high risk who slept under insecticide-treated bed nets during the previous night from 57% in 2002 to 98% in 2015
Target 6.10:	Decreasing the number of malaria cases treated in the public health sector per 1 000 population from 11.4 in 2000 to 4.0 in 2015
Target 6.11:	Increasing the proportion of public health facilities able to confirm malaria diagnosis according to national guidelines with 95% accuracy from 60% in 2002 to 95% in 2015
Target 6.12:	Decreasing the number of dengue cases treated in the public health sector per 1000 population from 1 in 2001 to 0.4 in 2015
Target 6.13:	Decreasing the dengue case fatality rate reported by public health facilities from 1.5% in 2003 to 0.3% in 2015
Target 6.14:	Decreasing the prevalence of smear-positive TB per 100 000 population from 428 in 1997 to 135 in 2015
Target 6.15:	Decreasing the TB deaths rate per 100 000 population from 90 in 1997 to 32 in 2015
Target 6.16:	Increasing the proportion of all estimated new smear-positive TB cases detected under DOTS from 57% in 2002 to more than 70% in 2010 and 2015
Target 6.17:	Maintaining the proportion of registered smear-positive TB cases successfully treated under DOTS above 85% through 2005

CMDG 7: Ensure environmental sustainability

Overall target 13: Integrate the principles of sustainable development into country policies and programmes and reverse the loss of environmental resources

- Target 7.1: Maintaining forest coverage at the 2000 level of 60 % of total land area through 2015
- Target 7.2: Maintaining the surface of 23 protected areas at the 1993 level of 3.3 million ha through 2015
- Target 7.3: Maintaining the surface of 6 new forest-protected area at the present level of 1.35 million ha through 2015
- Target 7.4: Increasing the number of rangers in protected areas from 600 in 2001 to 1,200 by 2015
- Target 7.5: Maintaining the number of rangers in forest protected areas at the level of 500 through 2015
- Target 7.6: Increasing the proportion of fishing lots released to local communities from 56% in 1998 to 60% in 2015
- Target 7.7: Increasing the number of community-based fisheries from 264 in 2000 to 589 in 2015
- Target 7.8: Increasing the surface of fish sanctuaries from 264500 ha in 2000 to 580800 ha in 2015
- Target 7.9: Reducing the fuel wood dependency from 92% of households in 1993 to 52% in 2015

Overall target 14: Halve by 2015 the proportion of people without sustainable access to safe drinking water

- Target 7.10: Increasing the proportion of rural population with access to safe water source from 24% in 1998 to 50% in 2015
- Target 7.11: Increasing the proportion of urban population with access to safe water source from 60% in 1998 to 80% in 2015

Overall target 15: Halve by 2015 the proportion of people without sustainable access to improved sanitation

- Target 7.12: Increasing the proportion of rural population with access to improved sanitation from 8.6% in 1996 to 30% in 2015
- Target 7.13: Increasing the proportion of urban population with access to improved sanitation from 49% in 1998 to 74% in 2015

Overall target 16: Increase the proportion of the population in both urban and rural areas with access to land security by 2015

- Target 7.14: Increase the percentage of land parcels having titles in both urban and rural areas from 15% in 2000 to 65% in 2015

CMDG 8: Forge a global partnership for development

Overall target 17: Develop further an open, rule-based, predictable, non-discriminatory trading and financial system

- Indicator 8.1: Net ODA as percentage of DAC donors' GNI [targets of 0.7% in total and 0.15% for LDCs.
- Indicator 8.2: Proportion of ODA to basic social services (basic education, primary health care, nutrition, safe water and sanitation)

Overall target 18: Address the Special Needs of the Least Developed Countries

- Indicator 8.3: Proportion of ODA that is untied
- Indicator 8.4: Proportion of ODA for environment in small island developing states
- Indicator 8.5: Proportion of ODA for transport sector in land-locked countries
- Indicator 8.6: Proportion of exports (by value and excluding arms) admitted free of duties and quotas
- Indicator 8.7: Average tariffs and quotas on agricultural products and textiles and clothing

Overall target 19: Address the Special Needs of landlocked countries and small island developing states

- Indicator 8.8: Domestic and export agricultural subsidies in OECD countries
- Indicator 8.9: Proportion of ODA provided to help build trade capacity

Overall target 20: Deal comprehensively with the debt problems of developing countries through national and international measures in order to make debt sustainable in the long term

- Indicator 8.10: Proportion of official bilateral HIPC debt cancelled
- Indicator 8.11: Debt service as a percentage of exports of goods and services
- Indicator 8.12: Proportion of ODA provided as debt relief
- Indicator 8.13: Number of countries reaching HIPC decision and completion points

Overall target 21: In co-operation with developing countries, develop and implement strategies for decent and productive work for youth

Indicator 8.14: Unemployment rate of 15-24 year old

Overall target 22: In co-operation with pharmaceutical companies, provide access to affordable, essential drugs in developing countries

Indicator 8.15: Proportion of population with access to affordable essential drugs on a sustainable basis

Overall target 23: In co-operation with the private sector, make available the benefits of new technologies, especially information and communications

Indicator 8.16: Telephone lines per 1000 people

Indicator 8.17: Personal computers per 1000 people

CMDG9: De-mining, UXO and Victim Assistance

Overall target 24: Moving towards zero impact from landmines and UXOs by 2012

Target 9.1: Reduce the annual number of civilian casualties recorded to 0 by 2012

Target 9.2: Clear completely all high/medium/low suspected contaminated areas by 2012

Overall target 25: Eliminate the negative humanitarian and socio-economic impacts of landmines and UXOs by 2025

Target 9.3: Develop a comprehensive victim assistance framework by 2005 and fully implement it.

Target 9.4: Increase the numbers of landmine/UXO victims receiving an assistance package and integrated into the society (to be set).

表 A2-8 : テクニカル・ワーキンググループと援助調和化のための優先行為

テクニカル・ワーキンググループ (TWG) 省庁	援助調和化のための優先行為
<i>Implementation and Management of the National Strategic Development Plan (NSDP)</i>	
Planning and Poverty Reduction (PPR) TWG Ministry of Planning	1. Preparing National Strategic Development Plan (NSDP) update 2009-2013 and the Annual Operation Plan (AOP) 2009 to implement the Ministry of Planning Strategic Plan (MPSP) 2. Development of partnership principles
Partnership and Harmonization (P&H) TWG The Cambodian Rehabilitation and Development Board of the Council for the Development of Cambodia (CRDB/CDC)	Facilitate all RGC agencies and TWGs in implementing priorities identified
<i>NSDP Social Sector Aid Effectiveness Priorities</i>	
Education TWG Ministry of Education, Youth and Sports (MoEYS)	1. Implementation of a joint annual review and development AOP 2. Coordination of capacity initiatives
Health TWG Ministry of Health	1. Implement AOP 2009 and 3YRP 2. Implement International Health Partnership (IHP) work plan
HIV/AIDS TWG the National Aids Authority (NAA) (all members)	Functional Task Analysis (FTA) of National HIV/AIDS Response Mechanism
Food Security and Nutrition (FSN) TWG Council for Agriculture and Rural Development (CARD)	1. Mapping on existing Social Safety Nets 2. Disseminating FSN Strategic Framework
<i>NSDP Economic Sector Aid Effectiveness Priorities</i>	
Agriculture and Water (A&W) TWG Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (MAFF) / Ministry of Water Resources and Meteorology (MoWRAM)	1. Finalizing, integrating and prioritizing the five programs under the Strategy for Agriculture and Water (SAW) 2. Develop a common framework and mechanism to implement SAW programs including PFM and administrative reforms
Land TWG Ministry of Land management Urban Planning and Construction (MLMUPC)	1. Improve Program-based Approach (PBA) in Land Administration, Management, and Distribution Program (LAMDP): Land Administration Sub Sector Program (LASSP), Land Management Sub-Sector Program (LMSSP), Land Distribution Sub-Sector Program (LDSSP) 2. Partnership principles 3. Preparation of comprehensive land policy 4. Prepare M&E for land sector
Forestry and Environment (F&E) TWG MAFF	1. Capacity for Planning, Implementing, and strengthening M&E system within FA 2. Develop and implement NFP
Fisheries TWG MAFF	1. Improve M&E system 2. Performance indicators in Fisheries Administration (FiA) Action Plan

テクニカル・ワーキンググループ (TWG) 省庁	援助調和化のための優先行為
Mine Action TWG The Cambodian Mine Action and Victim Assistance Authority (CMAA)	Support the development of a Mine Action Strategic Plan (MASP)
Private Sector TWG	1. Progress in legal agenda to improve enabling environment 2. Adopt 3 year rolling plan for trade related reforms (trade SWAp)
<i>NSDP Infrastructure Sector Aid Effectiveness Priorities</i>	
Infrastructure TWG Ministry of Public Works and Transport (MPWT)	Continued mapping of support as a basis for enhanced information sharing and coordination
Rural Water Supply, Sanitation and Hygiene (RWSSH) TWG Ministry of Rural Development (MRD)	Developing sector strategies and plans to lay the foundation for more solid PBA or Sector-Wide Approach (SWAp)
<i>NSDP Governance and Cross-sector Aid Effectiveness Priorities</i>	
Public Administration Reform (PAR) TWG Council for Administrative Reform and Office of the Council of Ministers (CAR/OCM)	RGC capacity development strategy
Legal and Judicial Reform (LJR) TWG Council for Legal and Judicial Reform (CLJR)	Secretariat strengthening (GSCLJR) for coordination and monitoring function
Decentralization and De-concentration (D&D) TWG Ministry of Interior	Finalize D&D National Program Approval expected 1st half 2010
Public Finance Management (PFM) TWG Ministry of Economy and Finance (MEF)	PFM RP implementation
Gender TWG Ministry of Women's Affairs (MOWA)	1. Roundtables on MoWA 5 year Strategy 2. Developing PBA for gender mainstreaming

(出所) Royal Kingdom of Cambodia (2010). The Cambodia Aid Effectiveness Report 2010

表 A2-9 : 合同モニタリング指標達成にかかる行動および進捗状況

ターゲット	期待される行動	進捗状況
<i>Implementation and Management of the National Strategic Development Plan (NSDP)</i>		
1. Implement MPSP with coordinated EDP support	1. MOP prepares a 2009 operational plan to implement MPSP, Development Partners (DPs) provide mapping of existing support. 2. Complete institutional capacity assessment and need/gap identification.	1. AOP prepared. 2. Assessment finalized.
2. Aid effectiveness priorities implemented	For RGC & DPs to negotiate a limited number of practical and verifiable actions that are based on the H-A-R Action Plan and represent a consensus for joint action	Aid Effectiveness JMI endorsed by Government-Development Partners Coordination Committee (GDCC), April 2009.
<i>NSDP Social Sector Aid Effectiveness Priorities</i>		
3. Increase promotion rate of students in primary education	1. Reducing the percentage of incomplete schools. 2. Deploying newly trained teachers to under-staffed schools in remote areas. 3. Revising grade promotion regulation with DP support.	1. Reduced to 18% as targeted. 2. 95% deployed. 3. Revised and issued.
4. Increase % of deliveries attended by skilled health personnel to 50% in 2009	1. Recruitment and deployment of midwives for 79 health centers that do not have one 2. Provide salary incentives to midwives 3. Increase RGC & DP funds to Reproductive, Maternal, Neonatal and Child. Health (RMNCH) in 2009 (reflect in AOP)	1. Target met. 2. Under consideration. 3. AOP reflected steady increase.
5. Enhanced response to HIV/AIDS epidemic	Increase the percentage of HIV-positive pregnant women who received anti-retroviral from 30% to 40% by 2009 to reduce the risk of mother-to-child transmission	32.3% in 2009.
6. Mitigate high food price impact/promote food security	Develop a plan and integrated monitoring system to mitigate the impact of high food prices on household food security.	On-going; partially met.
<i>NSDP Economic Sector Aid Effectiveness Priorities</i>		
7. Implementation the Strategy for A&W	1. Complete design of National Programs & implementation mechanisms (June 2009) 2. SAW provides strategic framework for all RGC and DP activities in A&W sector. 3. Improve coordination - update project database on TWGAW website twice each year	1. Approval expected soon. 2. To be implemented after approval. 3. Done.
8. Implement the legal framework established by the Land Law	1. Indigenous communal land - Sub-decree on registration adopted in 2009 2. Interim protective measures to safeguard communal land are evaluated 3. Land tenure - Housing Policy that includes the provision of secure land tenure 4. Land management - Spatial Planning Policy clarifies hierarchy of land use planning	1. Sub-decreed adopted. 2. Policy adopted. 3. Draft being put for comments. 4. Draft in consultation stage.
9. Implement legal framework & finalize National Forest Program	1. Implement laws & regulations (including public log of Concessions) 2. At least 1,000 km of forestland boundary and 2 protected areas demarcated 3. At least 100 Community Forestry Sites & 10 Community Protected Areas approved. 4. Finalize National Forest Program and start implementation by end 2009.	1. 72 ELCs on website. 2. Partially met. 3. Progress slow. 4. Submitted for RGC approval.
10. Improve livelihoods of rural communities in sub-national plans	1. 80% of FiA Annual Plan funded by through SWAp by end of 2009. 2. CamCode agreed, approved and operational by end of 2009.	1. Progress being made. 2. Drafting in final stage.

ターゲット	期待される行動	進捗状況
11. Casualty rate drops by 50 per year & 7-10% decrease of contaminated mine/ERW land	<ol style="list-style-type: none"> 1. Ensure implementation, monitoring & evaluation of existing mine action/ explosive remnants of war (ERW) policies 2. Development of a coherent 10 years National Strategy for Mine Action. 3. Implement Strategic Budget Plan 2009-11 to reduce fragmentation/overlap 4. Improve the quality and accuracy of data available on DP contributions 	<ol style="list-style-type: none"> 1. Progress being made. 2. On-going; in final stage. 3. On-going. 4. On-going.
12. Enabling environment for the development of the private sector	<ol style="list-style-type: none"> 1. Progress in the legal agenda to improve the private sector enabling environment 2. Adopt 3-year rolling plan of trade-related reforms (“Trade SWAP”), with a detailed inter-ministerial action plan, monitoring framework, and harmonized DP support 	<ol style="list-style-type: none"> 1. Progress being made. 2. Work in progress – sub-decree drafted for approval.
<i>NSDP Infrastructure Sector Aid Effectiveness Priorities</i>		
13. Sustainability and Safety of Road Network	<ol style="list-style-type: none"> 1. Improve Road Maintenance Mechanism 2. Overload Control Program. 3. Implementation of Initial Road Safety Awareness Program 	<ol style="list-style-type: none"> 1. Slow progress (procedure delay) 2. Progress being made. 3. Progress being made.
14. Access to /quality of water supply, esp. rural	<ol style="list-style-type: none"> 1. Develop and adopt a rural water supply and sanitation (RWSS) strategy and budget that is based on the official RWSS policy and aligned to NSDP 	To be completed May 2010.
<i>NSDP Governance and Cross-sector Aid Effectiveness Priorities</i>		
15. Improving the quality and delivery of public services	<ol style="list-style-type: none"> 1. Deployment of performance and accountability instruments through implementation of Special Operating Agencies, Priority Mission Groups, and Merit-based Pay Initiative (MBPI). 2. Approval of policies relating to HRM, HRD, Deployment and Capacity Development. 	<ol style="list-style-type: none"> 1. New pay-performance instrument currently under review 2. Drafts pending approval
16. Establish a legal & judicial system that protects individual rights	<ol style="list-style-type: none"> 1. Complete the drafting and approval of the four remaining fundamental Laws 2. Implement framework for legal & judicial reform - court registers in 4 model courts 3. Training of professionals to improve supply of judicial services & court functioning 	<ol style="list-style-type: none"> 1. On-going. 2. Progress being made. 3. On-going.
17. Combat corruption	<ol style="list-style-type: none"> 1. After approval of the Penal Code, finalize and approve the draft Anti-Corruption Law 2. Prepare an implementation plan for the implementation of the Anti-Corruption Law. 3. Disseminate information on reported cases on corruption on semi-annual basis. 4. Develop a clear policy framework on Access to Information. 	<ol style="list-style-type: none"> 1. Target met. Other measures being taken including education and dissemination.
18. Strategic Framework for D&D reforms	<ol style="list-style-type: none"> 1. New provincial & district councils established as per Organic Laws (end 2009). 2. National program & modalities for D&D approved, & resourced completed (end 2009). 	<ol style="list-style-type: none"> 1. Target met. 2. RGC approval anticipated soon.
19. PFM Stage 2 (improving accountability)	Continue implementing the PFM RP by implementing & monitoring stage 2 consolidated action plan; & achieve milestones and indicators under stage 2 monitoring framework.	PFM RP stage 2.
20. Adopt & implement laws against all forms of violence and exploitation of women and children	<ol style="list-style-type: none"> 1. Sub-decree on administrative decision on domestic violence revised/adopted and a working group established for training and implementation of the Sub-decree. 2. Develop framework for monitoring Law on Human Trafficking & Sexual Exploitation. 3. National Action Plan to combat violence against women revised and adopted. 	<ol style="list-style-type: none"> 1. Target not yet met. 2. Progress being made. 3. Target met. 4. Work in progress to reach

(出所) Royal Kingdom of Cambodia (2010). The Cambodia Aid Effectiveness Report 2010

添付資料

(1) 主要な政策文書一覧と入手先

File No.	Name of Document	Publisher	Year	Source
1	Mid-Term Review (MTR) 2008 on National Strategic Development Plan (NSDP) 2006-2010	Office of the Council of the Ministers, Royal Government of Cambodia (RGC)	2008/11	http://www.mop.gov.kh/Home/NSDP/tabid/83/Default.aspx
2	Ministry of Planning Strategic Plan (MPSP) 2006-2010	Ministry of Planning (MOP)	2007/07	http://www.mop.gov.kh/Home/MPSP/tabid/200/Default.aspx
3	Public Investment Program (PIP) 2008-2010	Prepared by the Ministry of Planning (MOP), and approved by the Council of Minister	2007/05	http://www.mop.gov.kh/Home/PIP/tabid/155/Default.aspx
4	National Strategic Development Plan (NSDP) 2006-2010 Annual Progress Report (APR) for 2006	Royal Government of Cambodia (RGC)	2007/05	http://www.mop.gov.kh/Home/NSDP/tabid/83/Default.aspx
5	Public Investment Program (PIP) 2007-2009	Prepared by the Ministry of Planning (MOP), and approved by the Council of Minister	2007/02	http://www.mop.gov.kh/Home/PIP/tabid/155/Default.aspx
6	National Strategic Development Plan (NSDP) 2006-2010	Council of Ministers, Royal Government of Cambodia (RGC)	2005/12	http://www.mop.gov.kh/Home/NSDP/tabid/83/Default.aspx
7	National Poverty Reduction Strategy Paper (NPRS) Progress Report	Supreme National Economic Council, Ministry of Economy and Finance and Council for Social Development (CSD)	2004/10	http://imf.org/external/pubs/ft/scr/2004/cr04333.pdf
8	National Poverty Reduction Strategy (NPRS) 2003-2005	Council for Social Development (CSD)	2002/12	http://www.imf.org/external/np/prsp/2002/khm/01/122002.pdf
9	National Population Policy 2003	Ministry of Planning (MOP)/ UNFPA	2003/08	http://www.mop.gov.kh/Home/TheNationalPopulationPolicy/tabid/202/Default.aspx
10	National Strategy for Reproductive and Sexual Health in Cambodia 2006-2010	Ministry of Health	2006/02	http://cambodia.unfpa.org/docs/SRSH_Final.pdf
11	Health Sector Strategic Plan 2003-2007, A Strategic Plan to make a difference <Summary>	Ministry of Health	2002/08	http://cambodia.unfpa.org/docs/HSSPsum.pdf
12	Master Plan for Social Health Protection (2nd Draft)	Ministry of Social Affairs, Veteran and Youth Rehabilitation	2009/01/22	PDF file
13	Royal Government of Cambodia, the Cambodia Aid Effectiveness Report 2010	Cambodian Rehabilitation and Development Board of the Council for the Development of Cambodia	2010/05	PDF File
14	National Social Protection Strategy for the Poor and Vulnerable (1 st draft 30 Apr 2010)	Council for Agricultural and Rural Development	2010/04	PDF File
15	TOFE; Budget Implementation for 2009 *Summary is written IN KHMER	Ministry of Economy and Finance	2009/12	http://www.mef.gov.kh/share.php
16	CMAC Ten Years achievements and Perspective 2000-2009-2014	Cambodia Mine Action Centre (CMAC)	2009	http://cmac.gov.kh/images/file/reports/ten-years/ten-years.pdf
17	CMAC Five-Year Strategic Plan (2003-2007)	Cambodia Mine Action Centre (CMAC)	2002/09	http://www.cmac.gov.kh/images/file/workplan/2003-2007/iwp2003-2007.pdf

File No.	Name of Document	Publisher	Year	Source
18	CMAC Five-Year Strategic Plan (2010-2014)	CMAC	2009	http://www.cmac.gov.kh/images/file/workplan/2010-2014/5year_iwp2010-2014.pdf
19	Sub-decree concerning the Establishment of National Social Security Fund	National Social Security Fund (NSSF)/ Ministry of Labor and Vocational Training/ Ministry of Economy and Finance	-	Word document
20	<Publication> NSSF Report on the Annual Achievement of 2009 and the action plan for 2010, Phase one	National Social Security Fund (NSSF)	2010	Hard copy
21	<Publication> Guidelines for the establishment and management of older people's associations (OPAs)	Ministry fo Social Affairs Veterans and Youth Rehabilitation/ National Committee for Pupulation and Development	2009	Hard copy
22	<Publication> Work Platform of the Ministry of Social Affaiars Veterans and Youth Rehabilitation for 2008-2013	Kingdom of Cambodia Supported by UNICEF, Child Fund, USAID, Sunrise	2008	Hard copy
23	<Publication> Law on Social Security Schemes for Persons defined by the Provisions of the Labor Law	Ministry of Social Affairs, Veterans and Youth Rehabilitation	2002	Hard copy
24	<Publication> Policy for the Elderly	National Committee for the International Day for the Elderly and Ageing People	2003	Hard copy

(2) 主要な統計調査一覧

File No.	Name of Survey	Publisher	Year	Survey Cycle	Source
1	Identification of Poor Households Programme Survey (IDPoor)	Ministry of Planning (MOP) and Department of Local Administration (DOLA) of the Ministry of Interior with funding by the Federal Republic of Germany, EU, AusAID, ADB, IFAD, UNICEF, and RGC and with TA provided and coordinated by GTZ.	2009	Since 2007	http://www.mop.gov.kh/Projects/IDPoor/tabid/154/Default.aspx
2	<i>General Population Census of Cambodia 2008</i> , National Report on Final Census Results	National Institutes of Statistics (NIS)	2008	Regulated by law to conduct Population census once in ten years.	http://www.nis.gov.kh/index.php/statistics/surveys/census2008
3	Cambodia Socio-Economic Survey (CSES) 2007	National Institute of Statistics (NIS)	2007	1993/94, 1996, 1997, 1999 and 2004. Since 2007 NIS conducts CSES annually. Fieldwork for CSES 2007 started in October 2006 and finished in the end of December 2007. The monthly sample size was 300 households.	http://www.nis.gov.kh/index.php/statistics/surveys/cses/about-cses
4	Cambodia Socio-Economic Survey (CSES) 2004	National Institute of Statistics (NIS)	2004	1993/94, 1996, 1997, 1999 and 2004.	http://www.nis.gov.kh/index.php/statistics/surveys/cses/about-cses
5	Cambodia Statistical Yearbook 2006	National Institutes of Statistics (NIS)	2006	In yearly basis.	http://www.nis.gov.kh/nis/yearbooks/Yearbook06.htm
6	Cambodia Demographic and Health Survey (CDHS)	General Directorate of Planning, Ministry of Planning (MOP)	2005	CDHS is the second nationally representative survey conducted on population and health issues. The first one was conducted in 2000.	http://www.nis.gov.kh/index.php/statistics/surveys/cdhs2005/39
7	Cambodia Inter-Censal Population Survey 2004 (CIPS) *General Report	National Institutes of Statistics (NIS)	2004	Covered the time period from 1998 to 2004, between the two population census.	http://www.nis.gov.kh/index.php/statistics/surveys/cips2004
8	<i>Child Domestic Worker Survey (CDWS) *summary and statistics</i>	National Institutes of Statistics (NIS)	2003	CDWS 2003 is the second survey done on child labor. Cambodia Child Labour Survey 2001 (CCLS) was the first household-based survey on child labour.	http://www.nis.gov.kh/index.php/statistics/surveys/cdws2003/cdws-2003-statistics
9	Family Planning Survey; Contraception among married women of reproductive age in Cambodia, Final Report	Ministry of Health, KfW Development Bank, Domrei Research and Consulting Cambodia	2005/04	Similar survey was conducted in 1995, 1998 and 2000. In 2000, it is conducted under the name of CDHS.	Obtained as a hard copy from Cambodia
10	Cambodia National Level I Survey [Table of Contents]	GeoSpatial International Inc.(GSI)/ CIDA	2002	-	http://www.sac-na.org/pdf_text/cambodia/toc.html
	[9.3.Reports of Socio-Economic Impacts]				http://www.sac-na.org/pdf_text/cambodia/socio%20economic%20impacts.htm

File No.	Name of Survey	Publisher	Year	Survey Cycle	Source
11	表 5.2: 男女別 5 歳以上 労働力人口	総務省統計局	2008	These data are developed based on General Population Census of Cambodia 2008.	http://www.stat.go.jp/info/meetings/cambodia/pdf/tbl5-2.pdf
	表 5.12: 産業(3 区 分)、男女別 5 歳以上就 業者数の構成比				http://www.stat.go.jp/info/meetings/cambodia/pdf/tbl5-12.pdf
	表 5.17: 従業地(5 区 分)、年齢(6 区分)、男女 別 5 歳以上就業者数				http://www.stat.go.jp/info/meetings/cambodia/pdf/tbl5-17.pdf
12	The 2008 Cambodia Anthropometrics Survey (CAS)	UNICEF	2009	The similar survey has been conducted in 2005 under the name of CDHS 2005.	Obtained from UNDP, Cambodia.
13	Integrated Food Security and Humanitarian Phase Classification (IPC)	UNWFP	2007	ad-hoc pilot exercise	http://www.ipcinfo.org/attachments/Fullreport_IPC_Cambodia_WFP_may2007.pdf
14	Education Statistics and Indicators 2008/2009	Ministry of Education, Youth and Sports (supported by UNICEF/Sida)	2009/03	yearly basis (since 2005/2006)	EXCEL file
15	Monthly Bulletin of Statistics	Ministry of Economy and Finance	2010/02	monthly basis	Word document
16	The Natural Resource Management and Livelihood programme -Study on how Phase 2 can focus more effectively on poverty reduction	Mary Hobley, Phil Townsley, Prok Vanny, Prom Nga, Young Sokphea, Emer Leahy	2010/03	Phase 2 (The implementation of Phase 1 was at the end of 2008)	Word document
17	Survey Report on Impact of High Food Prices in Cambodia	CDRI	2008	ad-hoc	http://www.cdri.org.kh/webdata/download/conpap/hfpsurvey.pdf
18	<Publication> General Population Census of Cambodia 2008, Analysis of the Census Results Report 1, Fertility and Mortality in Cambodia	National Institute of Statistics, Ministry of Planning	2010	decennial basis (Since 1998)	Obtained from Cambodia
19	<Publication> General Population Census of Cambodia 2008, Analysis of the Census Results Report 2, Spatial Distribution and Growth of Population in Cambodia	National Institute of Statistics, Ministry of Planning	2010	decennial basis (Since 1998)	Hard copy
20	<Publication> General Population Census of Cambodia 2008, Analysis of the Census Results Report 7, Literacy and Educational Attainment.	National Institute of Statistics, Ministry of Planning	2010	decennial basis (Since 1999)	Hard copy
21	<Publication> General Population Census of Cambodia 2008, Analysis of the Census Results Report 10, Housing and Household Amenities.	National Institute of Statistics, Ministry of Planning	2010	decennial basis (Since 2000)	Hard copy

File No.	Name of Survey	Publisher	Year	Survey Cycle	Source
22	<Publication> The National Identification of Poor Households Programme, a Key Tool to Support Equitable Development	Ministry of Planning	2008	updated every two years	Hard copy
23	<Publication> Gender Statistics and Indicators in Cambodia	Ministry of Women's Affairs	2007	yearly basis (since 2004)	Hard copy
24	<Publication/Leaflet> Key Gender Statistics in Cambodia	Department of Planning and Statistics, Ministry of Women's Affairs	2009	ad-hoc	Hard copy
25	<CD-ROM> Raw Data, Socio-Economic Survey 2007 (SPSS)	National Institute of Statistics, Ministry of Planning	2008	1993/94, 1996, 1997, 1999 and 2004. Since 2007 NIS conducts CSES annually.	Hard copy
26	<CD-ROM> CAMInfo Version 3.2, Cambodia's Socio-Economic Indicator Database including 2006 Commune Database and WFP Food Security Atlas Ver 2.0e	National Institute of Statistics, Ministry of Planning	2009	-	CD-ROM
27	<CD-ROM> Statistical Yearbook of Cambodia 2008	National Institute of Statistics, Ministry of Planning	2009	yearly basis	CD-ROM
28	<CD-ROM> 2008 Census *Redatam+SP Population Database	National Institute of Statistics, Ministry of Planning	2010	decennial basis	CD-ROM
29	<CD-ROM> 2008 Census *Map Layers and Database	National Institute of Statistics, Ministry of Planning	2010/02	decennial basis	CD-ROM
30	<CD-ROM> 2008 Census *Table Retrieval System (TRS)	National Institute of Statistics, Ministry of Planning	2009/10	decennial basis	CD-ROM
31	<CD-ROM> 2008 Census *Community Profile System (CPS)	National Institute of Statistics, Ministry of Planning	2010/02	decennial basis	CD-ROM
32	<CD-ROM> Reports from Database of Poor Household	Ministry of Planning	2009	updated every two years	CD-ROM

(3) 主要なマイクロファイナンス機関一覧

No.	Name of MFI	Address	Contact Number	Contact Person	Email Address	Homepage	Activity summary	Remarks
1	AMRET (former EMT)	#35BA, St. 169, Sangkat Veal Vong, Khan 7 Makara, Phnom Penh	Tel: (855-23) 362 913/ (855-23) 880 942 Fax: (855-23) 881 342	Phalarin Chea, General Manager	phalarin@emt.com.kh	http://www.amret.com.kh	Offers and provides loans and voluntary saving services.	One of only three licensed institutions as of 2004. Main funding sources are grants, loans, savings and shareholder capital
2	Angkor Mikroheranhvatho (Kampuchea) Co. Ltd (AMK)	#442, Street 193, Sangkat Tuol Svayprey I, Khan Chamkarmorn, Phnom Penh, Cambodia Postal Address: PO Box 480	Tel: (855) 23 993 062/224 763 Fax: (855) 23 221 650	-	info@amkcamodia.com	www.amkcamodia.com	-	-
3	ACLEDA Bank	#61, Preah Monivong Blvd., Sangkat Srah Chork, Khan Daun Penh Phnom Penh	Tel: 855 23 210 812 Fax: 855 23 217 816	Channy In, General Manager	channy@acledabank.com.kh	channy@acledabank.com.kh	Already set up 68 branches in 15 of the country's 24 provinces. It offers and provides loans, voluntary savings, training and consulting fund transfer services.	Established as a public limited company and obtained a license as a commercial bank on December 1st, 2003 with the total registered capital of USD13 million.
4	Chamroeun	#25, Street 410 Boeung Trabek Phnom Penh Cambodia	Tel: 855 92202809	Grégoire Héaulme, Program Director	gregoire.heaulme@entreprenEURSDUMONDE.org	-	Offers and provides loans, insurance, training and consulting services.	Main funding source are grants.
5	Cambodian Business Integrate In Rural Development (CBIRD)	#337, Group 9, Russeykrok village, Russeykrok Commune, Mongkolborey District, Banteay Meanchey, Cambodia	Tel: (855-53) 953 044	Prom Mary, General Manager	cbird@camintel.com	www.cbird.com.kh	Offers and provides loans and voluntary saving services.	Main funding sources are loans, savings and shareholder capital
6	Cambodia Microfinance Association (CMA)	#69, Street Berk Thmey, Sangkat Tom Nop Tek, Khan Chamkarmon, Phnom Penh, Kingdom of Cambodia	TEL / FAX: (855) 23 219 406	Secretary general	gs@cma-network.org	http://www.cma-network.org/	-	-
7	CHC	#02, St. 303, Sangkat Boeung Kok II, Khan Tuol Kok Phnom Penh	Tel: (855-23) 354 435 Fax: (855-23) 354 435	-	chcmfi@camshin.com.kh	-	-	-

No.	Name of MFI	Address	Contact Number	Contact Person	Email Address	Homepage	Activity summary	Remarks
8	Cambodia Rural Economic Development Initiatives for Transformation (CREDIT)	#18, St. 422, Sangkat Tonle Bassac, Khan Chamkarmon, Phnom Penh	Tel: (855-23) 217 942/219 228; Fax: (855-23) 217 942	Mach Chan General Manager	credit-fin@online.com.kh , mach_chan@credit.com.kh	http://www.credit.com.kh	Offers and provides loans and voluntary savings.	Main funding sources are grants, savings and shareholder capital.
9	Entean Akpevath Pracheachun (EAP)	#189Eo-191Eo, St. Kampuchea Krom (128), Sangkat Mettapheap, Khan 7 Makara, Phnom Penh	Tel: (855-23) 884 355, 884 364 Fax: (855-23) 884 377	-	Infi@eapcredit.com.kh	-	-	-
10	Farmer Union Development Fund (FUDF)	#753, Sangkat Boeung Trabek, Khan Chamkarmon, Phnom Penh	Tel: (855-23) 364 005 Fax: (855-23) 364 454	-	arnusorn70@hotmail.com	-	-	-
11	Farmer Finance (FF)	#1071, National Road No.2, Sangkat Chak Angre Leu, Khan Mean Chey, Phnom Penh	Tel: (855-23) 720 210	-	-	-	-	-
12	Green Central Microfinance (GCMF)	#640 EF, 271 St, Village 06, Sangkat Phsar Doeum Thkov, Khan Chamcarmon, Phnom Penh	Tel: (855-23) 954 455 Fax: (855-23) 994 477	-	-	-	-	-
13	Hattha Kaksekar Limited (HKL)	#239, St. Trasadpeam(63), Sangkat Boeung Keng Kang I, Khan Chamkarmon, Phnom Penh	Tel: (855-23) 951 404 Fax: (855-052) 951 404	Hout Ieng Tong General Manager	kaksekar@bigpond.com.kh	http://www.hkl.com.kh	Offers and provides loans and voluntary savings.	One of only three licensed institutions as of 2004. Main funding sources are loans, savings and shareholder capital.
14	Intean Poalroath Rongroeurng (IPR)	#108, St. Confederation de la Russei, Tuk Laak I, TuolKok, Phnom Penh	Tel: (855-23) 990 237 Fax: (855-23) 990 237	Hort Bun Song General Manager	cambodiarice@yahoo.com	www.iprmfi.com	Loan service	Main funding source is shareholder capital
15	Maxima Mikroheranhvatho Co.Ltd (MAXIMA)	#39,374St., Sangkat Toul Svay Prey 1, Khan Chamkarmon, Phnom Penh	Tel: (855-23) 214 240 Fax: (855-23) 354 240	Uong Kimseng General Manager	maximacredit@yahoo.com	www.maxima.com.kh	Offers and provides loans and voluntary saving services.	Main funding source is shareholder capital
16	PRASAC MFI Ltd (PRASAC)	#25, St. 294-57, Sangkat Boeung Keng Kang I, Khan Chamkarmon, Phnom Penh	Tel: (855-23) 220 102/213 642 Fax: (855-23) 216 362	Senacheert Sim CEO	senacheert@prasac.com.kh	http://www.prasac.com.kh	Engaged primarily in providing sustainable access to financial services for rural communities and micro-enterprises.	Main funding source is grant and offers loans.
17	PISETH Akphiwat Sethakech	#423, Group 7, Rom Chek4 Village, Ratanak commune, Battambang district, Battambang Proving	Tel: (855-53) 730 250 Fax: (855-53) 730 250	-	vcd-mfi@camnet.com.kh	-	-	-

No.	Name of MFI	Address	Contact Number	Contact Person	Email Address	Homepage	Activity summary	Remarks
18	SAMIC Microfinance (SAMIC)	#276, Street 156 Phnom Penh Cambodia	Tel: 855 23 998 226 Fax: 855 23 998 226	King Kap Kalyan General Manager	kalyan@chemfi.com	www.chemfi.com	Products are Village Bank Loan, Group Solidarity Loan, Individual Loan and Emergency Loan, Microinsurance "Meada", Client Training and Compulsory Savings.	-
19	SATHAPANA Limited (SATHAPANA)	#831C, Preah Monivong Blvd, Sangkat Phsar Deumtkov, Khan Chamkarmon, Phnom Penh	Tel: (855-23) 223 058 Fax: (855-23) 223 058	BUN MONY Chairman and General Manager	info@sathapana.com	http://www.sathapana.com	Offers and provides loans, voluntary savings, fund and transfer services.	Main funding sources are loans, savings and shareholder capital
20	SEILANITHIH Limited (SEILANITHIH)	#103, St.141, Sangkat Veal Vong, Khan 7 Makara, Phnom Penh	Tel: (855-23) 367 089 Fax: (855-23) 990 225	Setha Kuch General Manager	info@seilanithih.com.kh	http://www.seilanithih.com.kh	Offers and provides loans and voluntary savings	Main funding sources are grants, loans, savings and shareholder capital
21	Tong Fang Microfinance (TFMF)	#75Eo, Mao Tse Tung Blvd, Sangkat Boeung Keng Kang III, Khan Chamkarmon, Phnom Penh	Tel: (855-23) 362 885/ (855-23) 987 919 Fax: (855-23) 362 885	-	-	-	-	-
22	Thaneakea Phum Cambodia (TPC)	#20, 105/242 rd, Sangkat Boeung Prolit, Khan 7 Makara, Phnom Penh	Tel: (855-23) 220 641 Fax: (855-23) 220 642	Chuon Sophal CEO	chuon@online.com.kh	www.tpc.com.kh	Loan services	Main funding sources are loans and shareholder capital
23	VisionFund Cambodia (VisionFund)	20, Street 71 (near corner of Mao Tse Toung and Monivong Blvd) Phnom Penh, Cambodia Central Post Office PO Box 479	Tel: (855-23) 216 052 Fax: (855-23) 216 220	Samphea Top Sok, Finance and Admin Manager	samphea_sartop@wvi.org	http://www.visionfund.com.kh	Offers and provides loans and voluntary savings	An Affiliate of World Vision.
24	YCP	#73, 118 St., Sangkat Tuk Laaki, Khan TuolKok, Phnom Penh	Tel: (855-23) 882 777	-	ycpmicrofinance@online.com.kh	-	-	-

(4) 主要な NGO ・ 市民社会組織一覽

No.	Name of NGO / CSO	Address	Contact Number	Contact Person	Email Address	Homepage	Activitiy summary	Remarks
1	Cambodia Women Culture Development	#56E0, St. 324, Boeung Salang, Toul Kork, Phnom Penh	Tel: 012 891 153	Ms. Heng Sovuthy, Executive director	sovuthy_cwcd@hotmail.com	-	Gender	Local NGO
2	Children of Cambodia	-	Tel: 855 23 883 826 Fax: 855 (0)12 407 314	Pihla Muhonen Director	-	http://www.childrenofcambodia.com/index.php	Working to help Cambodian orphans and victims of child prostitution. Established a shelter for the victims of child prostitution, started an Orphanage Development Project in a large government-run orphanage and conducts research about the current situation of children's human rights violations.	Local NGO
3	NYEMO	Numbers 14, street 310, Phnom Penh, Cambodia	Tel: 855 (0)23 213 160/012 800 815 Fax: 855 (0)23 883 314	Dr. Ky Kanary and Mrs. Doung Sovann	nyemo@everyday.com.kh	-	Facilitating the establishment of small scale reintegration programmes for vulnerable people through linking existing resources and building a sustainable social and economic safety net.	Local NGO
4	KHANA	#33, Street 71 Sangkat Tonle Bassac, Khan Chamkarmon, Phnom Penh P.O. Box 2311	Tel: (855) 23 211 505 Fax: (855) 23 214 049		khana@khana.org.kh	-	Officially registered as a local NGO in 2000. Since then it has operated as a linking organization of the International HIV/AIDS Alliance.	Local NGO
5	Association of Protection Development for Cambodia Environment	#10E0, St. 212, Phsar Doeum Kor, Phnom Penh	Tel: 012 480 050	Mr. Yean Ly, Director	chayheang_ngan@yahoo.com	-	Environment Protection	Local NGO
6	Banteay Srei	#36 St 480, Phsar Doem Thkov, Chamcar Morn, Phnom Penh	Tel: 023 216 922 - 012 932 357; Fax: 023 216 922	Ms. Chhoeun Thavy, Director	banteaysrei@online.com.kh	-	Community Development based on Battambang and Siem Reap provinces	Local NGO
7	Cambodian HIV/AIDS Education and Care	#86 St 608, Boeung Kork II, Toul Kork, Phnom Penh	Tel: 023 884 473 - 012 945 077 Fax: 023 884 473	Ms. Kasem Kolnary, Director	chec@online.com.kh	-	HIV/AIDS sector	Local NGO
8	Cambodian Rural Economic Development Organization	#118 St 186, Toek Laark III, Toul Kork, Phnom Penh	Tel: 023 987 793 - 012 517 644	Mr. Hok Bunthoeun, Director	credo@forum.org.kh	-	Credit/Saving	Local NGO

No.	Name of NGO / CSO	Address	Contact Number	Contact Person	Email Address	Homepage	Activity summary	Remarks
9	Cambodian Sanitation and Recycling Organisation	#39 St.358, ToulSvay Prey I, Phnom Penh	Tel: 012 957 255 - 023 211 116	Mr. Heng Yon Kora, Program Director	csaro@online.com.kh	-	Sanitation and Recycling	Local NGO
11	Cambodian Women's Development Association	#19 St 242, Boeung Prolit, 7 Makara, Phnom Penh	Tel: 023 210 449 - 012 999 995; Fax: 023 210 487	Ms. Kean SereyPhal, Director	cwda@online.com.kh	-	Women's development	Local NGO
12	Centre d'Etude et de Developpement Agricole Cambodgien (CEDAC)	#39 St 528, Boeung Kak I, Toul Kork, Phnom Penh	Tel: 023 880 916 - 012 802 201; Fax: 023 885 146	Dr. Yang Saing Koma, Executive director	cedac@online.com.kh	www.cedac.org.kh	Youth development/ Food security project	Local NGO
13	Christ for Development Kampuchea	Battambang Province.	Tel: 012 946 392	Mr. Som Virak Dara, Executive director	virakdarasom2009@hotmail.com	-	-	Local NGO
15	Cooperation for Development of Cambodia (Co-Dec)	Phum Balang, Domrie Chonkla, Srok Stoeung Sen, Kompong Thom Province	Tel: 092 916 065	Mr. Srey Kim Choeun, Director	codeckt@yahoo.com	-	-	Local NGO
16	Farmer Livelihood Development Organization FLD	#3 St. 323, Sang Kat Boueng Kang Kang2, Phnom Penh	Tel: 012 946 425 - 023 998 442	Mr. Sok Somith, Director	adminfld@online.com.kh	-	-	Local NGO
17	Gender and Development for Cambodia GAD/C	#89 St 288, Olympic, Chamcar Morn, Phnom Penh	Tel: 023 215 137 - 012 627 857	Ms. Ros Sopheap, Executive director	sopheap_gad@online.com.kh	www.gad.org.kh	Promotes gender equity	Local NGO
18	Healthcare Centre for Children HCC	#132D St 135, Phsar Doem Thkov, Chamcar Morn, Phnom Penh	Tel: 023 212 133 - 012 252 779 Fax: 023 212 133	Ms. Ly Sotheary, Director	hcc.ed@online.com.kh	www.sccf-hcc.org	Health care for children	Local NGO
19	Human Resource and Rural Economic Development Organization (Hurredo)	#344, Wat Damnak village, Salarkamroek commune, Siem Reap district, Siem Reap Province.	Tel: 092 476 872 - 016 331 702	Mr. Ngin Bunnrith, Director	hurredo76@hotmail.com	-	Rural development	Local NGO
20	Center for Social Development	#19, St. 57, Beung Keng Kang I, Phnom Penh	Tel: 023 364 735	Ms. Seng Theary, Executive director	theary@csdcambodia.org	http://csdcambodia.org/	Seeks to promote democratic values and improve the quality of life of the Cambodian people.	Local NGO

No.	Name of NGO / CSO	Address	Contact Number	Contact Person	Email Address	Homepage	Activity summary	Remarks
21	American Assistance for Cambodia/Japan Relief for Cambodia (AAFC)	4-1-7-605 Hiroo Shibuya-ku, Tokyo (150-0012), Japan	Tel: 81-3-3486-4337 Fax: 81-3-3486-6789	Bernie Krisher, Founder	bernie@media.mit.edu	http://www.cambodiaschools.com/	Independent nonprofit organization dedicated to improving opportunities for the youth and rural poor in Cambodia.	Local NGO
22	Sao Sary Foundation SSF	#181, Peanicha Kam village, Rokha Thom commune, Chbar Morn city, Kampong Speu province	Tel: (855) 12 471 106 Fax: (855) 25 98 7196		info@ssfCambodia.org	http://ssfCambodia.org/	Nonreligious, non-political, and independent humanitarian organization devoted to ending human trafficking and helping poor children and families gain economic independence in impoverished communities.	Local NGO
23	Urban Poor Women Development	#54AEo, St. 265, Group 6, Boeung Salang, Toul Kork, Phnom Penh	Tel: 012 646 955 - 023 214 720	Ms. Soum Samoun, Director	upwd@online.com.kh	-	Women's development	Local NGO
24	Socio-Economic Development Organisation of Cambodia SEDOC	#8, St. 468, Toul Tompong II, Phnom Penh	Tel: 023 802 122	Mr. Sil Vineth, President	sedoc@forum.org.kh	-	-	Local NGO
25	Organisation for Assistance of Children and Rural Women CWARO	#370 Road 2, Takdol village, Takdol commune, Takhmao district, Kankal Province	Tel: 012 821 178	Ms. Lim Davy, Executive Director	012821178@mobitel.com.kh	-	Children and Rural Women development	Local NGO
26	Mlup Baitong	#37B Street 113, Boeung Keng Kang II, Chamcar Morn, Phnom Penh	Tel: 012 782 536 - 023 214 409 Fax: 023 220 242	Mr. Va Moeurn, Executive director	vamoeurn@online.com.kh	www.mlup.org	-	Local NGO

(5) 主要な現地調査研究機関とその活動

No.	Name of Research Institutions	Address	Contact Number	Contact Person	Email Address	Website	Activity summary	Remarks
1	Cambodia Development Resource Institute (CDRI)	56 Street 315, Tuol Kork, Phnom Penh, Cambodia Postal address: PO Box 622	Tel: (855-23) 883-603 (855-23) 881-701 (855-23) 881-384 (855-23) 881-916 (855-12) 867-278 Fax: (855-23) 880-734	Mr.Larry Strange, Executive Director and Dr.Hossein Jalilian, Research Director	cdri@wicam.org.kh	http://www.cdri.org.kh	CDRI produces independent, objective, high quality policy-relevant development research, aiming to maximise its accessibility to policy makers, influencers and stakeholders, and to have it affect policy in five interrelated areas that are key for Cambodia's sustainable development.	CDRI is an independent Cambodian development policy research institute.
2	Economic Institute of Cambodia (EIC)	Suite 234, Phnom Penh Center Corner Street 274 & 3, P.O. Box: 1008 Phnom Penh, Cambodia	Tel: (855-23) 987 941 Fax: (855-23) 224 626	Sok Hach, President	eic@eicambodia.org	http://www.eicambodia.org/	Major activities are developing Cambodia's socio-economic database and modelling, conducting policy-oriented research on issues of relevance in trade, investment, poverty reduction, private sector development, social justice, economic governance, and other areas; and disseminating information and research findings through publications, seminars, consulting, and the media.	EIC is an independent think-tank which provides essential information and a thorough insight into Cambodia's socio-economic development.
3	Cambodia Agricultural Research and Development Institute (CARDI)	Headquarter: National Road No 3, Prateah Lang Commune District; Phnom Penh Office: Dangkor No 252-254, Street 63, Beoung Keng I, Chamkarmon District, P.O. Box 01.	Tel: (855-23) 219 693, (855-23) 219 694 (855-23) 216 228 (855-11) 911 165 Fax: (855-23) 219 800	Dr. Ouk Makara, Director	ou.makara@cardi.org.kh	http://www.cardi.org.kh/	Conducts research in plant breeding, plant protection, soil and water, agricultural engineering, socio economic agronomy & farming systems. And carries out trainings and services on plant and seeds.	established in August 1999 by the Royal Government of Cambodia as a semi-autonomous institute.
4	Cambodia Research Group	VU University Amsterdam De Boelelaan 1081 1081 HV Amsterdam The Netherlands	Phone: +31-20-5986734 /40 Fax: +31-20-5986765	Prof. Dr. Heidi Dahles	h.dahles@fs.w.vu.nl	http://www.ambodiaresearch.org/	A Collaborative effort between Dutch, Cambodian and Thai academics with the aim of putting together a research program in close collaboration with international and Cambodian NGOs, Cambodian government, diaspora and business associations, and other stakeholders.	-

No.	Name of Research Institutions	Address	Contact Number	Contact Person	Email Address	Website	Activity summary	Remarks
5	National Institute of Public Health (NIPH)	National Institute of Public Health P.O. Box 1300 Phnom Penh, Cambodia	Tel: 855 23 880345, 366205 Fax: 855 23 880346	-	info@niph.org.kh	http://www.niph.org.kh/niph/	Current research activities are Community needs assessment, EPI coverage, External support for Cambodia, Health Care Demand Survey and Nationwide Baseline Data Survey. Training Researches include Introduction in Epidemiology and EPI-Info, Health Services Management Training course for provincial/district key staff, Development of laboratory technician guidebook for training, PH training for undergraduates and Applied Epidemiology long term training.	Research Institute and part of the Ministry of Health in Cambodia working closely with other Institutions and Centers as well as with the Provincial Directories. It provides policy makers with elements to base their health care reform on sound scientific evidence, to follow the process of implementation in analysing developed strategies and compare alternative approaches taking cost-efficiency into consideration.
6	Applied Social Research Institute of Cambodia (ASRIC)	c/o Theodore N. Cox, Esq. 401 Broadway, Suite 701 New York, NY 10013	Tel #: (212) 925-1208 Fax #: (818) 703-1949	-	ContactASRIC@gmail.com	-	ASRIC is devoted to advancing Cambodian cultural identity in the midst of injustices and to restoring, distributing, and implementing procedural justice for victims and survivors of the Khmer Rouge by using the legal system to improve human conditions and achieve justice.	Not-for-profit organization founded by Dr. Leakhena Nou, a medical sociologist on the faculty of California State University, Long Beach (CSULB).
7	Rubber Research Institute of Cambodia	09, Street 289 Beung Kak 1, Tuol Kork, P.O. Box 1337, Phnom Penh, CAMBODIA.	Tel: (855) 23 882831 Fax : (855) 23 882831	Director :Dr. Yin Song	RRICAM@Bigpond.com.kh	-	An on-going research program mainly concerned with upstream research. Some research is undertaken at the Station which is located in Kompong Cham Province, and on other rubber plantations, some trials are conducted on-farm, using smallholder collaborators.	Established in 1997.

(6) 参考文献

File No.	Name of Document	Publisher	Year
1	Poverty profile and trend in Cambodia: findings from the 2007 Cambodia Socio-Economic Survey (CSES)	WB, East Asia and Pacific Region, Poverty Reduction and Economic Management Sector Unit	2009/06
2	Sharing Growth: Equity and development in Cambodia. Equity Report 2007	WB, East Asia and the Pacific Region. Report No. 39809-KH	2007/06
3	Cambodia Human Development Report 2007. "Expanding Choices for Rural People".	Ministry of Planning (MOP) and UNDP Cambodia	2007
4	<i>Moving out of Poverty Study (MOPS) Executive study</i>	Cambodia Development Resource Institute (CDRI), WB	2007
	<Publication> Moving Out of Poverty? Trends in Community Well-Being and Household Mobility in Nine Cambodian Villages	Cambodia Development Resource Institute (CDRI)	2007/09
5	We are Living with Worry All the Time, A Participatory Poverty Assessment of the Tonle Sap	CDRI, collaboration with NIS and ADB	2007
6	Children's work in Cambodia. A Challenge for Growth and Poverty Reduction	WB, East Asia and the Pacific Region. Report No. 38005	2006/12
7	Cambodia Halving Poverty by 2015. Poverty Assessment 2006	WB, East Asia and the Pacific Region. Report No. 35213-KH	2006/02
8	A Poverty Profile of Cambodia 2004	MOP, RGC	2006/02
9	MDG Progress 2005 Update	General Directorate of Planning, MOP, RGC	2005/10
10	Macroeconomics of Poverty Reduction in Cambodia	UNDP Representative Office	2004/10
11	Cambodia MDG Progress Report 2003	General Directorate of Planning, MOP, RGC	2003
12	<i>Poverty and Vulnerability Analysis Mapping in Cambodia. *Summary Report</i>	Ministry of Planning and UNWFP	2003/03
13	Facing the challenges of rural livelihoods. A perspective from nine villages in Cambodia.	Chan Sophal, Tep Saravy and Sarthi Acharya, CDRI Working paper 25	2002
14	Land, Rural Livelihoods and Food Security in Cambodia	CDRI working paper 24	2002/10
15	Indigenous People, Ethnic Minorities and Poverty Reduction in Cambodia	ADB	2002/06
16	Participatory poverty assessment in Cambodia	ADB	2001
17	Cambodia Human Development Report 2001. "Societal Aspects of the HIV/AIDS Epidemic in Cambodia" Progress Report.	MOP with the assistance of UNDP	2001
18	Food Insecurity Assessment in Cambodia 2003/04 Cambodia Socio-Economic Survey(CSES)	The EC-FAO Food Security "Information for Action" Programme is funded by the European Union and implemented by FAO	2007/09
19	Trafficking in Persons Report 2009	UNHCR, Refworld	2009
20	カンボジア国 全国道路網調査 最終報告書 第1巻 和文要約	国際協力機構 (JICA)/日本工営株式会社/片平 エンジニアリンク インターナショナル	2006
21	Local Development Outlook: Cambodia Executive Summary	UNCDF	2010/04

File No.	Name of Document	Publisher	Year
22	Safety nets in Cambodia Concept note and inventory	Council of Agriculture and Rural Development (CARD)/World Food Programme(WFP)/ The World Bank	2009/06
23	Integrated Food Security and Humanitarian Phase Classification (IPC)	UNWFP	2007
24	Cambodian Mine Action Centre E-MINE Electronic Mine Information Network (Cambodia) Landmine and Cluster Munition MONITOR	Information on the Website	accessed on 30/06/2010
25	CMAC Annual Report 2007	CMAC	2008
26	CMAC Annual Report 2008	CMAC	2009
27	Doing Business 2010 Cambodia Comparing Regulation in 183 economies	World Bank	2009
28	Cambodia Migration and Remittance Factbook	World Bank	-
29	Country Profile: Cambodia	IOM Cambodia	2008
30	Review of Labour Migration Dynamics in Cambodia	IOM	2006/09
31	Flash Report Jan-Mar 2009 IN KHMER	Ministry of Economy and Finance	2009
33	<Publication> Annual Report 2008 by Acleda Bank	Acleda Bank Plc.	2009
33	Labor Migration in the Greater Mekong Sub-region, Synthesis Report; Phase 1	Ana Revenga, Pierre Yves-Fallavier, Jennica Larrison, Carmen de Paz Nieves	2006/11
34	Proposal for Reviewing the baseline official poverty measurement methodology	Statistics Sweden and World Bank	2010
35	Poverty Estimates 2008: Preliminary Findings	World Bank	2010
36	The Impact and Benefits of the National Social Security Fund (NSSF) on Women in Cambodia	Ministry of Women's Affairs,	2009
37	Current Status of Cambodian Millennium Development Goals (CMDG)	UNDP Representative Office	2010
38	Joint UN Update: Current Status of CMDGs with a focus on Maternal Mortality	UNDP Representative Office	2010
39	<Publication> A Fair Share for Women, Cambodia Gender Assessment	Ministry of Women's Affairs	2008/04
41	<Publication> Poverty and Select CDMGs Map and Charts 2003-2008, Preliminary Results of the CDB-based Research and Analysis Project	Ministry of Planning	2009/09
42	<Publication> Annual Report for Agriculture Forestry and Fisheries 2009-2010	Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (MAFF) Conference	2010/04
43	<Publication> Child Sex Tourism Fact Sheet	ECPAT	-
44	Overview on Transport Infrastructure Sectors in the Kingdom of Cambodia	Infrastructure and Regional Integration Technical Working Group (IRITWG)	2009/01

File No.	Name of Document	Publisher	Year
45	Directory of Cambodian Non-Government Organizations (CNGOs)	Cooperation Committee for Cambodia	2006-2007
46	Directory of International Non-Governmental Organizations in Cambodia	Cooperation Committee for Cambodia	2009-2010
47	JNNC2010	Directory of Japanese NGO Worker's Network in Cambodia (JNNC)	2010/01
48	Education Management Information System Output 2006-2007	Ministry of Education, Youth and Sports	2007
49	Combating Human Trafficking in Cambodia	The Asia Foundation	-